佐久市埋蔵文化財調査報告書　第２６０集

岩村田遺跡群

西一本柳遺跡ＸＸⅡ

長野県佐久市岩村田西一本柳遺跡第 22 次発掘調査報告書

２０１９．３

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第２６０集

岩村田遺跡群

西一本柳遺跡ＸＸⅡ

長野県佐久市岩村田西一本柳遺跡第 22 次発掘調査報告書

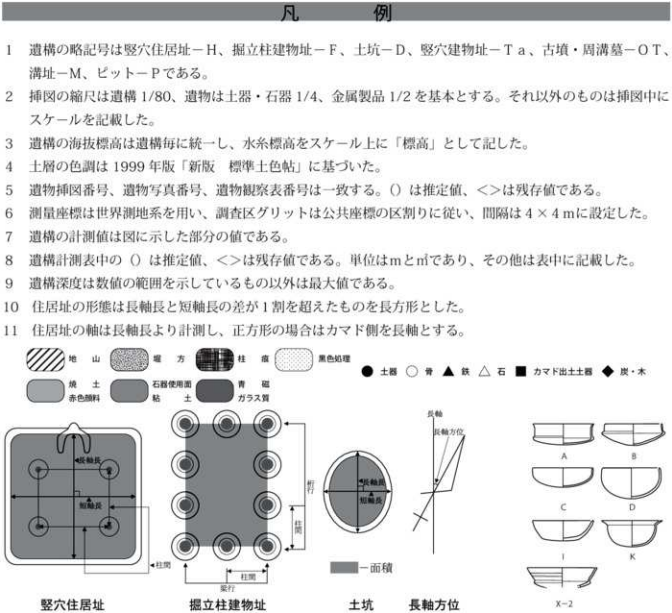
２０１９．３
佐久市教育委員会

例　　言

1　本書は佐久市が行う平成２９年度都市公園整備事業（仮称）一本柳公園整備工事に伴う発掘調査報告書である。
2　調査原因者　　佐久市（公園緑地課）
3　調査主体者　　佐久市教育委員会
4　調査地点　　佐久市岩村田字中一本柳２２７５－１番地外
5　遺跡名および期間と面積
　　遺跡名　　西一本柳遺跡ＸＸⅡ
　　期　間　　平成２９年７月６日～平成３１年３月３１日
　　面　積　　1,525㎡
6　調査担当者　　小林眞寿
7　本遺跡の委託業務は以下のとおりである。
　基準点測量・設定　　細萱知敬事務所
　重機賃貸借業務　　ミヤモリ株式会社サクスイ
　仮設建物賃貸借業務　　株式会社アクティオ佐久平営業所
8　本書に掲載した出土遺物については佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　　例

1　遺構の略記号は竪穴住居址－Ｈ、掘立柱建物址－Ｆ、土坑－Ｄ、竪穴建物址－Ｔａ、古墳・周溝墓－ＯＴ、溝址－Ｍ、ピット－Ｐである。
2　挿図の縮尺は遺構 1/80、遺物は土器・石器 1/4、金属製品 1/2 を基本とする。それ以外のものは挿図中にスケールを記載した。
3　遺構の海抜標高は遺構毎に統一し、水糸標高をスケール上に「標高」として記した。
4　土層の色調は 1999 年版「新版　標準土色帖」に基づいた。
5　遺物挿図番号、遺物写真番号、遺物観察表番号は一致する。() は推定値、<>は残存値である。
6　測量座標は世界測地系を用い、調査区グリットは公共座標の区割りに従い、間隔は４×４ｍに設定した。
7　遺構の計測値は図に示した部分の値である。
8　遺構計測表中の () は推定値、<>は残存値である。単位はｍと㎡であり、その他は表中に記載した。
9　遺構深度は数値の範囲を示しているもの以外は最大値である。
10　住居址の形態は長軸長と短軸長の差が１割を超えたものを長方形とした。
11　住居址の軸は長軸長より計測し、正方形の場合はカマド側を長軸とする。



12　挿図中における網掛けは図のとおりである。
13　土師器坏は西山克己の分類に準拠している。形態・呼称は図のとおりである。
（1995年　シナノ（科野）の6世紀から7世紀代の土器様相－現時点の概略として－　東国土器研究　第4号の分類図を筆者が模式図化）

目　　次

例言
凡例
目次
第Ⅰ章　発掘調査の経緯 …… 1
第1節　調査に至る経緯 …… 1
第2節　調査体制 …… 1
第3節　調査日誌 …… 2
第Ⅱ章　遺跡の立地と環境 …… 2
第1節　自然的環境 …… 2
第2節　歴史的環境 …… 4
第Ⅲ章　調査の方法 …… 4
第1節　調査の方法 …… 4
第2節　基本層序 …… 5
第3節　検出遺構・遺物の概要 …… 5
第Ⅳ章　遺構と遺物 …… 7
第1節　住居址 …… 7
第2節　掘立柱建物址 …… 36
第3節　古墳及び周溝墓 …… 38
第4節　溝址 …… 48
第5節　土坑 …… 61
第6節　ピット …… 61
第7節　遺構外出土遺物 …… 61
第Ⅴ章　まとめ …… 69
第1節　弥生時代の環濠について …… 69
第2節　人形土器について …… 70
第3節　仮称「一本柳型壺」の提唱 …… 71
第4節　頸部「T字文」施文甕について …… 72
第5節　石製模造品工房址について …… 72
写真図版
報告書抄録
奥付

挿図目次

第１図　西一本柳遺跡ＸＸⅡの位置図 …… 1
第２図　周辺遺跡分布図 …… 3
第３図　基本層序模式図 …… 5
第４図　西一本柳遺跡ＸＸⅡグリット配置図 …… 6
第５図　Ｈ１号住居址 (1) …… 8
第６図　Ｈ１号住居址 (2) …… 9
第７図　Ｈ２号住居址 (1) …… 10
第８図　Ｈ２号住居址 (2) …… 11
第９図　Ｈ３号住居址 …… 12
第 10 図　Ｈ４号住居址 (1) …… 13
第 11 図　Ｈ４号住居址 (2) …… 14
第 12 図　Ｈ４号住居址 (3) …… 15
第 13 図　Ｈ５号住居址 …… 15
第 14 図　Ｈ６号住居址 …… 16
第 15 図　Ｈ７号住居址 (1) …… 18
第 16 図　Ｈ７号住居址 (2) …… 19
第 17 図　Ｈ８号住居址 (1) …… 20
第 18 図　Ｈ８号住居址 (2) …… 21
第 19 図　Ｈ９号住居址 (1) …… 22
第 20 図　Ｈ９号住居址 (2) …… 23
第 21 図　Ｈ 10 号住居址 (1) …… 24
第 22 図　Ｈ 10 号住居址 (2) …… 25
第 23 図　Ｈ 11 号住居址 (1) …… 26
第 24 図　Ｈ 11 号住居址 (2) …… 27
第 25 図　Ｈ 11 号住居址 (3) …… 28
第 26 図　Ｈ 12 号住居址 (1) …… 29
第 27 図　Ｈ 12 号住居址 (2) …… 30
第 28 図　Ｈ 13 号住居址 …… 30
第 29 図　Ｈ 14 号住居址 …… 31
第 30 図　Ｈ 15 号住居址 (1) …… 32
第 31 図　Ｈ 15 号住居址 (2) …… 33
第 32 図　Ｈ 15 号住居址 (3) …… 34
第 33 図　Ｈ 15 号住居址 (4) …… 35
第 34 図　Ｈ 16 号住居址 (1) …… 37
第 35 図　Ｈ 16 号住居址 (2) …… 38
第 36 図　Ｈ 17 号住居址 …… 39
第 37 図　Ｈ 18 号住居址 …… 40
第 38 図　Ｈ 19 号住居址 (1) …… 41
第 39 図　Ｈ 19 号住居址 (2) …… 42
第 40 図　Ｈ 19 号住居址 (3) …… 43
第 41 図　Ｈ 19 号住居址 (4) …… 44
第 42 図　掘立柱建物址 …… 45
第 43 図　古墳（ＯＴ１）(1) …… 46
第 44 図　古墳（ＯＴ１）(2) …… 47
第 45 図　ＯＴ２円形周溝墓 …… 48
第 46 図　ＯＴ３円形周溝墓 …… 49
第 47 図　ＯＴ４円形周溝墓 …… 50
第 48 図　ＯＴ５円形周溝墓 …… 50
第 49 図　Ｍ１号溝址 (1) …… 51
第 50 図　Ｍ１号溝址 (2) …… 52
第 51 図　Ｍ２・４・８・10・11 号溝址 …… 53
第 52 図　Ｍ３号溝址 …… 54
第 53 図　Ｍ５号溝址 (1) …… 55
第 54 図　Ｍ５号溝址 (2) …… 56
第 55 図　Ｍ６・７号溝址 (1) …… 57
第 56 図　Ｍ６・７号溝址 (2) …… 58
第 57 図　Ｍ９号溝址 (1) …… 59
第 58 図　Ｍ９号溝址 (2) …… 60
第 59 図　土坑 (1) …… 62
第 60 図　土坑 (2) …… 63
第 61 図　土坑 (3) …… 64
第 62 図　ピット出土遺物 …… 64
第 63 図　ピット (1) …… 65
第 64 図　ピット (2) …… 66
第 65 図　ピット (3) …… 67
第 66 図　ピット (4) …… 68
第 67 図　遺構外出土遺物 …… 69
第 68 図　西一本柳遺跡周辺集落の様相 …… 70
第 69 図　北・東・西一本柳遺跡、西八日町遺跡、下佐渡石遺跡出土人形土器 …… 73
第 70 図　仮称「一本柳型甕」集成図 (1) …… 74
第 71 図　仮称「一本柳型甕」集成図 (2) …… 75
第 72 図　西一本柳遺跡ⅩⅣ・北一本柳遺跡Ⅲ出土の墨書「丁字文」施文甕 …… 76
第 73 図　西一本柳遺跡ＸＸⅡ全体図 …… 77

H4 号住居址から出土した壺の中には、満杯のベンガラが貯蔵されていた。

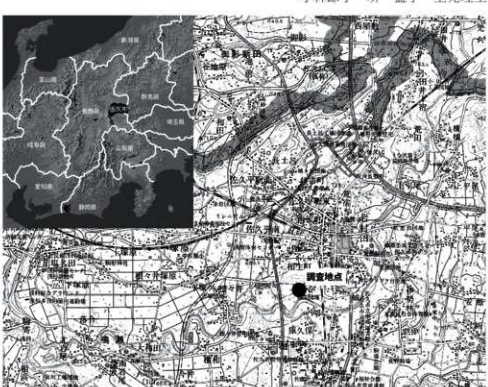
第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

平成 29 年３月 13 日､佐久市公園緑地課より「平成 29 年度　都市公園整備事業（仮称）一本柳公園整備工事」に伴う文化財保護法第 94 条が佐久市教育委員会に通知された。開発予定地の周辺では、過去に多くの調査が実施されており、遺跡の存在が確実視される場所であったため、試掘調査の必要はないと判断し、同年３月 16 日佐久市教育委員会は遺跡が破壊される部分について本調査を実施する旨の副申を長野県教育委員会に届出した。同年３月 24 日長野県教育委員会は記録保存を目的とする発掘調査を実施するよう佐久市教育委員会に通知した。これを受け、佐久市教育委員会は公園緑地課と協議を実施し発掘調査範囲の確定等を行い、７月６日より発掘調査を開始した。

第２節　調査体制

調査主体者	佐久市教育委員会	教育長	棚澤晴樹
事務局	社会教育部	部長	荻原幸一（平成 29 年度）青木　源（平成 30 年度）
	文化振興課	課長	小林義夫
		企画幹	小林登志朗（平成 29 年度）武者新一（平成３０年度）
	文化財調査係	係長	大塚広樹（平成 29 年９月まで） 塩川宏幸（平成 29 年 10 月から）
		係	小林眞寿　冨沢一明　上原　学　久保浩一郎 岩下　琴（平成 30 年６月まで） 荻原義治（平成 30 年７月から）
		臨時職員	森泉かよ子
		調査担当者	小林眞寿
		調査員	岩松茂年　大矢志穂　加藤ひろ美　小林喜久子 小林節子　堺　益子　里見理生　澤井智春



第１図　西一本柳遺跡ＸＸⅡの位置図（1/50,000）

清水律子　田中ひさ子　羽毛田利明　花岡美津子
細谷秀子　堀籠滋子　本田慶二　宮川真紀子
柳沢孝子　柳澤千賀子　山口ひとみ　山田叔正
油井満芳　依田三男

第３節　調査日誌

平成 28 年度

３月１３日	佐久市(公園緑地課)より土木工事のための埋蔵文化財発掘の通知。(文化財保護法 94 条第１項)
３月１６日	長野県教育委員会に副申。
３月２４日	長野県教育委員会より通知。

平成 29 年度

６月２３日	仮設建物賃貸借業務契約（履行期間７月３日～９月 29 日）
６月３０日	基準点基準線設定業務契約（履行期間６月 30 日～９月 29 日）
	重機賃貸借業務契約（履行期間６月 30 日～９月 29 日）
７月　６日	仮設建物設置、重機による表土除去開始。(第１回掘削範囲）平行して遺構検出作業を開始。
７月　７日	重機による表土除去終了。
７月１１日	基準点基準線設定。(第１回掘削範囲）
７月１３日	遺構掘り下げに着手。
７月１８日	調査員を増員する。
８月２８日	第１回掘削範囲調査終了。
	第２回目の掘削範囲の表土除去開始。調査済み部分の一部を埋戻し駐車場等を整備する。
８月２９日	重機による表土除去終了。
８月３１日	基準点基準線設定。(第２回掘削範囲）
９月２９日	現場作業を終了し、室内作業に移行する。
１０月２日	佐久警察署長に埋蔵文化財の発見の届出。
	長野県教育委員会に発掘調査終了の報告。

平成 30 年度

３月３１日	報告書を刊行し全ての作業を終了する。

重機による表土除去作業

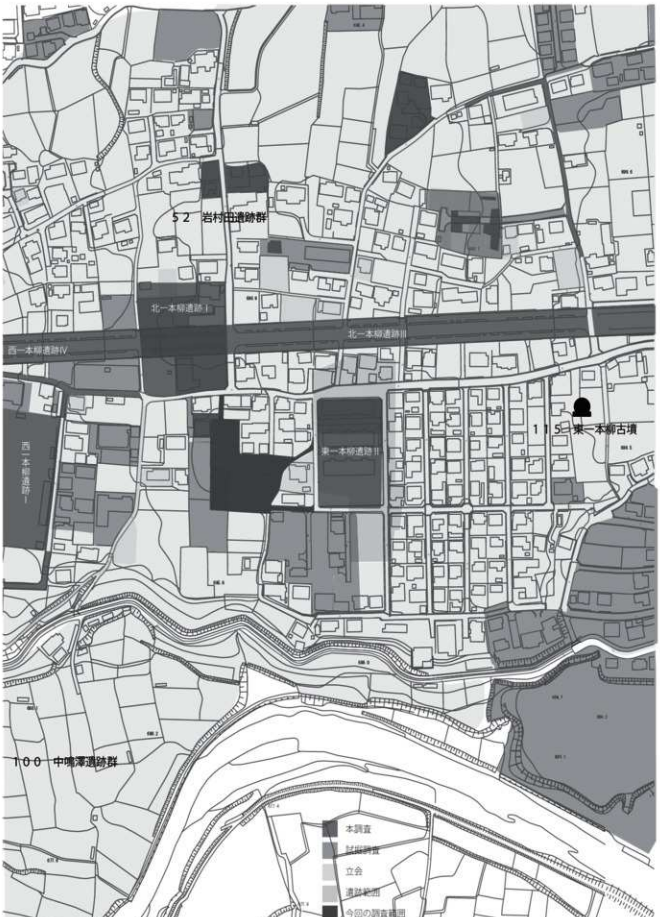
第Ⅱ章　遺跡の立地と環境

第１節　自然的環境

千曲川上流域の東西幅約６km、長さ約 15km の南北に長い菱形の平野部が佐久平であり、標高は 660 ～ 740 mを測る。行政区分的にはほぼ佐久市に属する。地形地質の成因的には二大別され、旧佐久市の中心部を東西に流れる滑津川を境に著しい差異が認められる。滑津川以南の佐久平は千曲川流域沖積層地帯で標高 680 m内外の平坦地で、千曲川とその支流の用水を活用した水田地帯である。滑津川以北は千曲川右岸にあたり、北部県境にそびえている浅間火山の堆積物分布地帯で標高 700 m内外と以南に比べ一段高台をなしている。浅間火山はわが国の火山としては最も新しい三重式成層火山で現在も活動を続けている。佐久平北部はその噴出物に覆われており、噴出物の南縁部は旧岩村田町・中込原にまで及んでいる。西一本柳遺跡は旧岩村田町の西南端湯川右岸沿に立地している。

西一本柳遺跡付近の地層の最下部層は浅間火山第一次黒斑火山の最活動期の山体を破壊した水蒸気爆発による塚原泥流が山麓南面一帯に流下して、平坦部千曲川沿岸で圧力を減じ溶岩熱泥流の内容物を散在堆積したものである。この塚原泥流は塚原部落・三岡駅付近まで流れ大小 100 ヶを超す残丘を作っている。これらの残丘は基盤整備以前は現在よりも多数存在しており、古墳や墓地に利用されている例も多い。

この塚原泥流の堆積上面は不規則な凹凸であったが、黒斑火山の長期に亘る火山活動の火山弾火山灰砂礫が厚く堆積し平準化した。佐久市北部の火山堆積物は全てこれに属し、第一軽石流（P_1）第二軽石流（P_2）の二期


52 岩村田遺跡群
北一本柳遺跡Ⅰ
北一本柳遺跡Ⅲ
西一本柳遺跡Ⅳ
115 東一本柳古墳
東一本柳遺跡Ⅱ
西一本柳遺跡Ⅰ
100 中嶋澤遺跡群
本調査
試掘調査
立会
遺跡範囲
今回の調査範囲

第２図　周辺遺跡分布図

に大別され小諸懐古園や鼻顔稲荷神社付近でその厚い堆積層を見ることが出来る。この軽石流の堆積時期は内部に包含されている自然木炭のC^{14}の測定によって 10,650 ± 250YBP 洪積期終期とされている。この堆積層は主として火山灰砂礫浮石によって構成されているため水の浸食に弱く、山麓緩傾斜地では水流洪水に浸食され、御代田・三岡付近では火山地域特有の「田切り地形」が見事に発達し、長土呂・小田井にまで及んでいる。

西一本柳遺跡付近は塚原泥流最終末端部分にあたり、その地表面の低所には地下水の湧出、雨水湧水の貯留等による湿地沼沢地も形成されており、若宮神社付近には沼沢状湿田が分布しており、古くから開拓された水田地帯であるといわれている。（1990 佐久埋蔵文化財センター調査報告書第 22 集　故白倉盛男先生の文書を一部割愛引用）

第２節　歴史的環境

西一本柳遺跡は岩村田遺跡群を構成する代表的な遺跡のひとつであるとともに、佐久市を代表する大規模弥生集落遺跡でもある。今回の調査地点は遺跡の北東端部にあたる。

周辺部では過去において数多くの調査が実施されてきた。その端緒は昭和 43 年宅地造成に伴い実施された東一本柳遺跡の調査であり、古墳時代後期の竪穴住居址５軒などが検出された。昭和 46 年には東一本柳古墳の調査が行われ、金銅製の豪華な馬具が発見されている。今回調査を実施した古墳も、東一本柳古墳と共に古墳群を形成する古墳のひとつであると考えられる。地域住民の話によればこの地域は昔「つか」と呼ばれていたこともあったようである。昭和 47 年には北一本柳遺跡が調査され、弥生時代の竪穴住居址７軒、平安時代の竪穴住居址 10 軒などが検出されている。平成３・４年度に行われた西一本柳遺跡の第１次調査では弥生時代中期後半の土偶形容器の頭部部分が発見されている。この資料は佐久市を代表する遺物のひとつとなっている。平成７・８年に行われた西一本柳遺跡の第３・４次の調査では東信濃で初めて弥生時代中期後半の石戈が２点発見された。平成 18 ～ 21 年にかけて行われた北一本柳遺跡の第３次調査では弥生時代後期の住居址から鉄剣や板状鉄斧２点が、西一本柳遺跡の 14 次調査では弥生時代中期後半の土偶形容器の頭頂部が出土している。今回の調査地点の東隣りでは、平成 21 ～ 23 年に東一本柳遺跡の第２次調査が実施され、弥生時代の円形周溝墓や環濠、古墳時代・中世の集落が検出され、弥生時代後期の人面付土器の腕、胴体、陽形土製品などが出土した。以上のことから東・北・西一本柳遺跡は、佐久地方の古代史上最も重要な遺跡のひとつと言える。

第Ⅲ章　調査の方法

第１節　調査の方法

遺跡名・調査区

佐久市詳細分布図の遺跡に照らし合わせ、西一本柳遺跡ＸＸⅡとした。ローマ数字は調査次数である。

調査区を網羅するように、国家座標に沿って 40 × 40 m の区画を設定し、南よりローマ数字を付した。この 40 m の区画を北東隅を起点に 4 m の各グリットに 100 分割しグリット名とした。

遺跡略記号・遺構略記号

遺跡略記号は以下の決まりに従い付けられている。

○アルファベット３文字の先頭は旧大字のローマ字表記の頭文字である。　Ｉ＝岩村田
○アルファベット３文字の２番目は遺跡名のローマ字表記の頭文字である。　Ｎ＝にし
○アルファベット３文字の３番目は遺跡名のローマ字表記の任意の文字である。　Ｐ＝ぽん
○末尾のローマ数字は発掘調査回数を表す。

遺構略記号は以下のとおりであり、佐久市共通である。

Ｈ＝住居址（竪穴住居址である。現在のところ佐久市内では明確な平地住居は確認されていない。）
Ｆ＝掘立柱建物址
Ｄ＝土坑（陥穴、貯蔵穴等）
Ｐ＝ピット（柱状のものを建てたと思われる、多くは小径の掘り込み）
Ｍ＝溝状遺構（環濠、水路、道路、堀等）
Ｔａ＝中世の竪穴建物址あるいは竪穴状遺構
ＯＴ＝周溝墓・古墳

遺構調査

住居址は均等に４分割し、対面する２区画を掘り下げ土層の観察・記録を行った後完掘し、床面を精査し、柱穴・炉・カマド等を適宜分割し、土層の観察・記録を行い、最終的に平面の記録を行った。遺物は４分割した各区毎に取り上げ、床面上の遺物に関しては連続する No を付け３次元の記録を行い取り上げた。

土坑は長軸方向に沿って２分割し、土層の観察・記録を行った後完掘した。遺物は分割した区毎に東西南北の英語頭文字を付し取り上げた。

ピットも土坑と同様であるが、遺物は遺構 No で一括した。

溝址・周溝墓は短辺方向に任意の場所で区分し、土層を観察・記録した。遺物は区毎に取り上げた。

遺構外の遺物はグリット毎に取り上げた。

遺構測量

平面図・断面図ともにトータルステイションを用い３次元データを取得した。取得したデータは株式会社ＣＵＢＩＣの「遺構君」により図化した。測量基準座標はグリット杭を用いた。

写真

現場での写真は、デジタル一眼レフカメラによる RAW 画質モードと、35㎜一眼レフカメラによるカラーリバーサルで同一カットを各々記録した。遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、データの状態で報告書に使用した。

遺構・遺物の整理等

遺構の図面修正は株式会社ＣＵＢＩＣの「遺構君」により行った。

遺物洗浄は竹ブラシを用い手で行い、室内で自然乾燥させた。

注記は白色のポスターカラーにより行い、薄めたラッカーをその上から塗布した。

遺物の接合はセメダインＣを使用し、遺物復元の際の充当材はエポキシ樹脂 XNR6504・XNH6504 を用いた。

金属器については、バキュウムシーラによるパックで現状保存した。

遺物実測は手取りと、デジダル一眼レフカメラで撮影した画像を Adobe 社製「Photoshop」で補正した写真実測を併用して行った。

遺物の保管に際しては報告書を台帳として、報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分し、コンテナに分類ラベルを貼り収蔵庫に収納した。

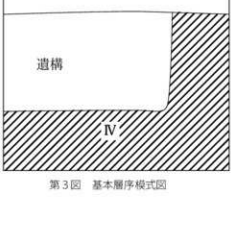
報告書

文章は MS 社製「ワード」で作成し、表については MS 社製「エクセル」で作成した。また、遺物実測図は Adobe 社製「Illustrator」によりデジタルトレースを行い、写真・拓本は Adobe 社製「Photoshop」により補正加工を行った。これらのデータを Adobe 社製「InDesign」でレイアウトし、印刷原稿を作成し、入稿した。

第２節　基本層序

基本層序は第３図のとおりである。Ⅳ層まで達するカクランが調査対象地全面に広がっている。調査範囲の南側は旧地形が下がっており、Ⅲ・Ⅳ層間に黒色土層が堆積している。遺構検出面は４層上面か、前述した黒色土上面で行った。

Ⅰ－灰黄褐色土層（10YR4/2）　耕作土。
Ⅱ－黄褐色土層（10YR5/6）　部分的に堆積。
Ⅲ－灰黄褐色土層（10YR5/2）　遺構によってはこの堆積土中から掘り込まれていることが確認できた。
Ⅳ－にぶい黄橙色土層（10YR7/4）　浅間火山第一軽石流（P_1）の堆積。



第３図　基本層序模式図

第３節　検出遺構・遺物の概要

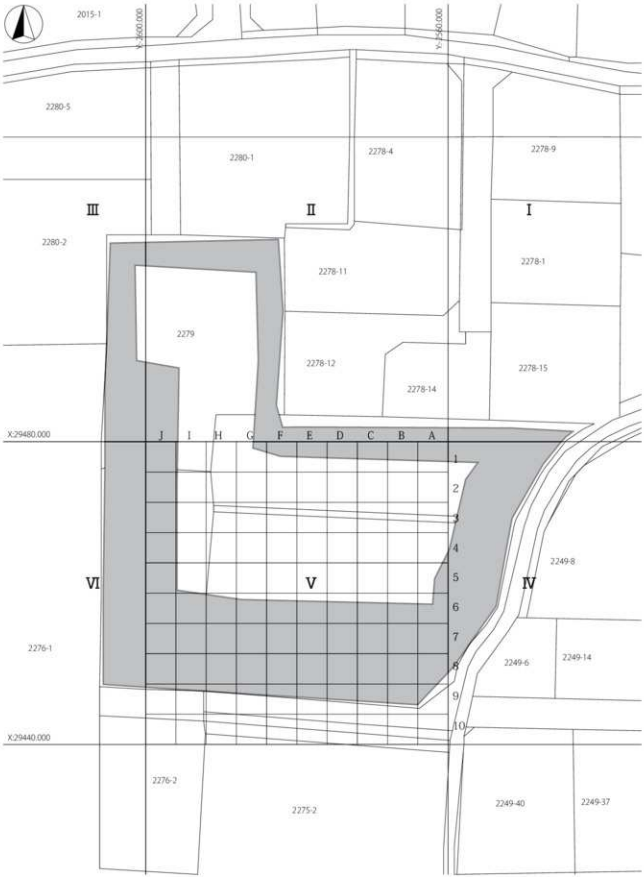
検出された遺構・遺物の概要は以下のとおりである。

検出遺構

竪穴住居址－ 19 軒、掘立柱建物址－３棟、古墳－１基
周溝墓－４基、溝址－ 11 条、土坑－ 23 基、ピット－ 99 基

出土遺物

弥生土器、土師器、須恵器、青磁、石器・石製品、鉄器、炭化材、人骨



第４図　西一本柳遺跡ＸＸⅡグリット配置図（1/500）

第Ⅳ章　遺構と遺物

第１節　住居址

Ｈ１号住居址（第５・６図）

ＩＨ 10 グリットで検出された。北方向に向かい調査区外に延びるため全容は不明である。Ｍ３号溝址を切って構築されている。北壁にカマドを有する事を前提にすると、N－ 13°－Ｅに主軸が想定出来る。短軸長 4.21 m、壁残高 0.22 mの規模を有している。調査範囲にはカマドは存在しなかった。ピットは６基検出されたが、配置に規則性は認められない。壁下には東壁の一部を除き周溝が巡らされている。東壁の周溝を有さない部分に出入り口が存在したものと思われる。床面上には炭化材・焼土を含む第２層が堆積しており、出土遺物の二次被熱も顕著なことから、本址は焼失住居と考えられる。また、第２層上部に堆積する第１層は人為埋土であり、焼失した住居の窪地を埋め戻したものと思われる。

遺物は土師器、石器・石製品が出土している。土師器には坏（１～７）、高坏（８・９）、甕（10 ～ 14）、鉢（15）、壺（16・17）、甑（18）の器種が認められる。坏にはＡ（6）、Ｃ（3）、Ｄ（2・7）、Ｋ（4・5）の形態が存在する。高坏は坏の稜が形骸化した８と、脚端部が「Ｌ」字状に屈折して開く９が存在する。甕は小型のものが多く、口縁部が外反するものがほとんどであるが、12 は受口である。鉢 15 は内面に黒色処理が施される。壺は「く」字状に口縁部が外反し、球胴である。甑は底部全体が開口する。石器・石製品は台石（19）、磨石（20）、敲石（21・22）、素材（23）が認められる。

以上の出土遺物の特徴は西山編年 (1995 年　信州の６世紀・７世紀の土器様相－現時点の概略として－) の佐久平後期１期、冨沢編年 (1996 年　佐久平における古墳時代の土器編年試案) の古墳時代後期Ｉ期に該当するものであり、５世紀後葉から６世紀前葉の年代が考えられている。

Ｈ２号住居址（第７・８図）

ⅡＡ 10 グリットで検出された。北方向に向かい調査区外に延びるため全容は不明である。Ｍ５号溝址を切って構築されている。北壁にカマドを有する事を前提にすると、N－ 0 °－Ｅに主軸が想定出来る。短軸長 6.54 m、壁残高 0.59 mの規模を有する。調査範囲にはカマドは存在していない。南壁の中央部分には張り出しが認められ、貯蔵穴が構築されている。張り出し部分も含め、壁下には周溝が巡らされる。均等に４本が配置されるであろう主柱と想定される P1 と P2 は、壁下の周溝から間仕切り溝が連結され、更に柱穴に被さるように南側に礎石が配置されていた。また、周溝内側の床面には小径のピットが等間隔に配置されており、壁立式竪穴住居址であった可能性が高い。床面上に堆積する第３層には炭化物が含まれていた。

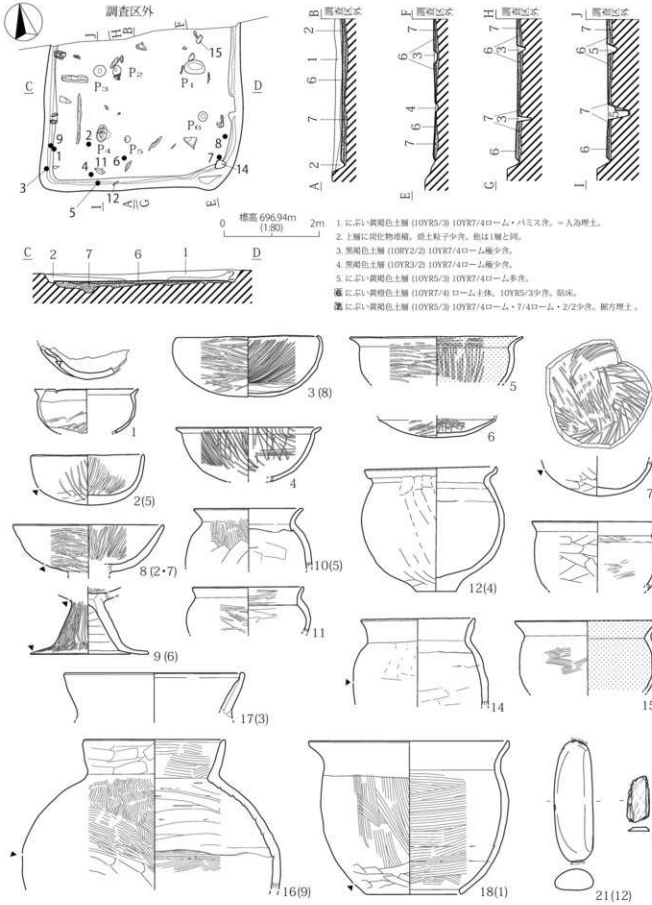
遺物は土師器、須恵器、石器・石製品、土製品、金属製品が出土している。土師器には坏（１～９）、高坏（10）、甕（13 ～ 17）、壺（18 ～ 21）、甑（23）の器種が認められる。坏にはＡ（１・２）、Ｃ（４・６）、Ｅ（３・７・８・９）、Ｋ（５）の形態が存在する。高坏（10）は坏部の稜が顕著である。カマド部分が調査されていないことに起因するのであろうが、甕は５点すべてが小型である。壺 19 は赤彩が施されている。甑は底部全体が開口する。須恵器は坏（11・12）と蓋（22）が出土している。石器・石製品には台石（25）、打製石斧（26）、臼玉（27）、管玉（28）の器種が認められる。土製品は丸玉（24）が、金属製品は器種・用途が不明な鉄塊（29）が認められる。

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期１期、冨沢編年の古墳時代後期Ｉ期に該当するものであり、５世紀後葉から６世紀前葉の年代が考えられている。

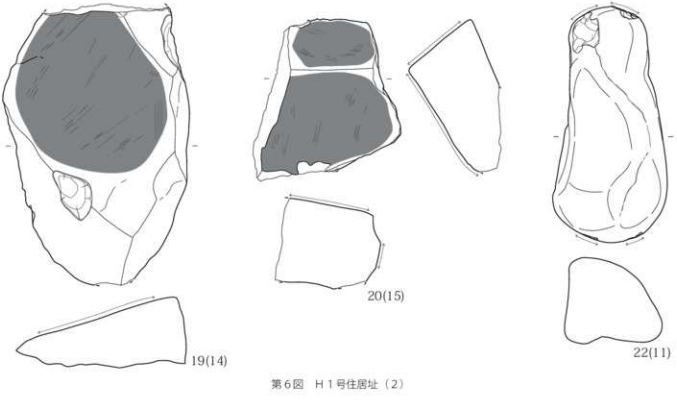
Ｈ３号住居址（第９図）

ⅡＦ７グリットで検出された。東・西方向に向かい調査区外に延びるため全容は不明である。Ｄ４号土坑に切られている。N－ 8 °－Ｅに主軸をとり、長軸長 5.16 m、壁残高 0.49 mの規模を有する。北壁の中央部分と思われる位置に石芯を粘土で被覆したカマドが構築されている。対面する南壁には張り出しがあり、貯蔵穴が構築されているが、南壁中央ではなく西側にずれた位置に存在している。張り出し部分以外の壁下には周溝が巡る。主柱穴 P3 には間仕切り溝が連結している。検出された７基のピットの内、P1 から P3 は主柱穴でφ 18cm前後の柱が確認できた。P5・P6 は出入り口と考えられる。

遺物は土師器、石器・石製品が出土している。土師器には坏（１・２）、鉢（３）、甕（４・５）の器種が認められる。坏にはＡ（１）とＫ（２）の形態が存在する。鉢（３）は口縁部を欠損するため、形態は定かではないが、内面には黒色処理が施されている。甕は小型の４と大型の５が出土している。どちらも体部に最大径を有する。


調査区外
P1
P2
P3
P4
P5
P6
標高 696.94m
(1:80)
0
2m
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・パミス含。＝入為理土。
2. 上層に焼化物堆積。焼土粒子少含。他は1層と同。
3. 黒褐色土層 (10RY2/2) 10YR7/4ローム極少含。
4. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム極少含。
5. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
⑥ にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR5/3少含。貼床。
⑦ にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・7/4ローム・2/2少含。掘方埋土。

第5図　H1号住居址（1）



第６図　Ｈ１号住居址（２）

石器・石製品は石製模造品の素材（６）、磨・敲石（７）が認められる。

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期１期、冨沢編年の古墳時代後期Ⅰ期に該当するものであり、５世紀後葉から６世紀前葉の年代が考えられている。

Ｈ４号住居址（第 10 ～ 12 図）

ＶＣ１グリットで検出された。南方向に向かい調査区外に延びるため全容は不明である。調査範囲内では他遺構との重複関係は有さない。推定ではあるが、Ｎ－５°－Ｅに主軸をとり、短軸長 6.07 m、壁残高 0.79 mの規模を有する。西壁下には周溝を有している。検出された６基のピットの内、P1・P2 は出入口、P6・P7 は主柱穴、P3・P4 は壁柱穴である。本址は焼失住居であり、７・６層中には炭化材が多量に包含されていた。出土遺物はこれらの堆積層下から出土しており、当時の位置を保持している。

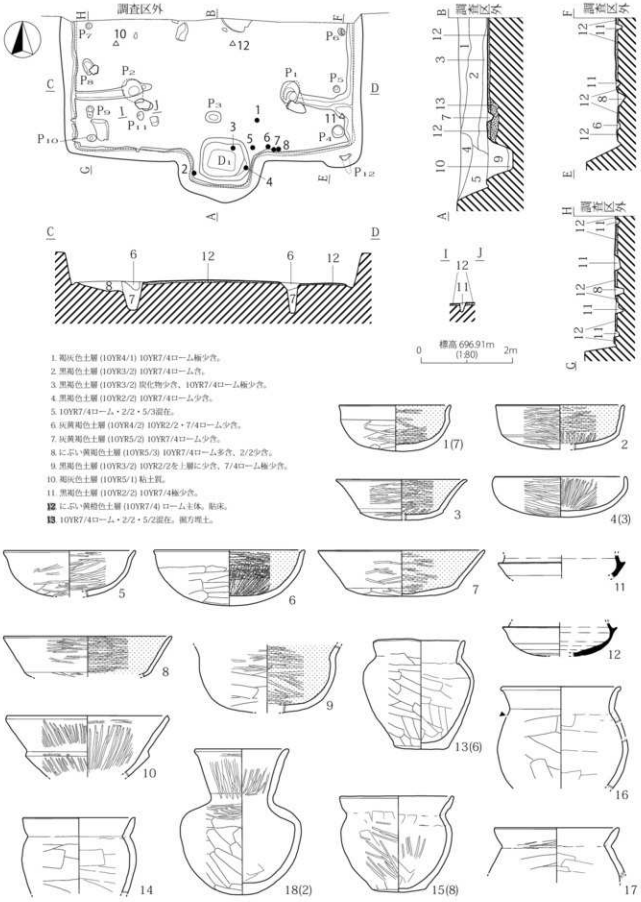
遺物は弥生土器、土製品、石器・石製品が出土している。弥生土器には鉢（１・２）、高坏（３・４）、甕（５～ 11）、壺（12・13）の器種が認められる。鉢は２点共に内外面に赤彩が施されている。高坏３は脚部が欠損した状態で使用されており、欠損面に再整形の痕跡が認められる。内外面赤彩で、坏部は碗状である。高坏４は小突起を有する鍔状の坏部で、脚も小型である。脚内を除き赤彩が施される。甕は頸部簾状文で口縁部と体部に波状文を施す５・８と、頸部簾状文は同様であるが口縁部と体部には横位の斜走文が施される７・９・10、頸部簾状文は持たず、口縁から体部に波状文が施される６が存在する。６を除き体部に最大径を有し、短い口縁部が強く外反する。壺は口縁部が受口の 12 と単口縁の 13 が存在する。外面は体部下端の稜まで、内面は口縁部に赤彩が施される。文様は櫛描の簾状文、あるいは直線文が頸部の括れ部分とその下に赤彩される無文帯を挟んで横位に巡らされている。受口の場合は口縁部に櫛描波状文が横位に巡る。土製品は 14 の土器片円盤が１点出土している。赤彩が施された壺の体部片を再利用したものである。石器・石製品４点は石材の相異はあるが、全て研磨に用いられたものである。

以上の出土遺物の特徴から、本址は小山岳夫の佐久地域弥生編年の後期Ⅳ期古に該当するものと思われる。

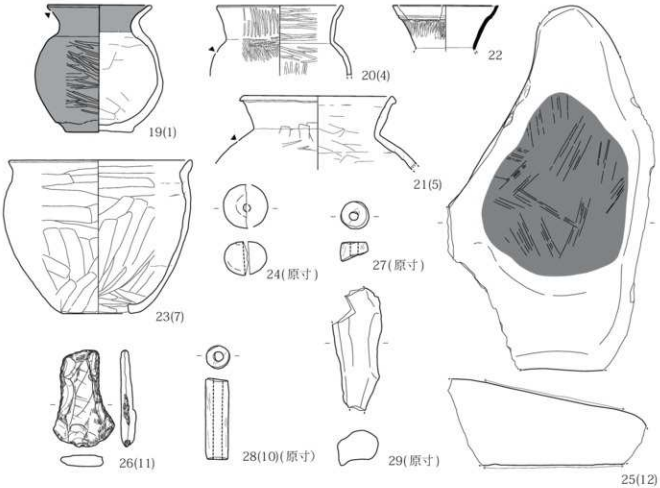
Ｈ５号住居址（第 13 図）

ⅡＦ４グリットで検出された。M６・７号溝址を切る。北及び東方向の調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高 0.37 mの規模を有する。南壁中央と思われる部分に方形の張出貯蔵穴を持つ。張出部分には周溝が巡るが、それ以外の壁下には周溝は認められない。調査範囲内にはカマドやピットは存在しなかった。

遺物は土師器、須恵質陶器、弥生土器、石器・石製品が出土している。土師器には甕（１・２）、甑（３）の


調査区外
高速区外
標高 696.91m
(1:80)
0
2m
1. 褐灰色土層（10YR4/1）10YR7/4ローム極少含。
2. 黒褐色土層（10YR3/2）10YR7/4ローム含。
3. 黒褐色土層（10YR3/2）炭化物少含、10YR7/4ローム極少含。
4. 黒褐色土層（10YR2/2）10YR7/4ローム少含。
5. 10YR7/4ローム・2/2・5/3混在。
6. 灰黄褐色土層（10YR4/2）10YR2/2・7/4ローム少含。
7. 灰黄褐色土層（10YR5/2）10YR7/4ローム少含。
8. にぶい黄褐色土層（10YR5/3）10YR7/4ローム多含、2/2少含。
9. 黒褐色土層（10YR3/2）10YR2/2を土層に少含、7/4ローム極少含。
10. 褐灰色土層（10YR5/1）粘土質。
11. 黒褐色土層（10YR2/2）10YR7/4極少含。
12. にぶい黄橙色土層（10YR7/4）ローム主体。貼床。
13. 10YR7/4ローム・2/2・5/2混在。個方埋土。

第７図　Ｈ２号住居址（１）



第８図　Ｈ２号住居址（２）

器種が認められる。甕は２点共に内外面にハケメ調整が施され、内面はその後ナデ、外面はミガキやケズリが施されている。体部下半に最大径を有している。甑は中型で底部が開口するものである。須恵質陶器は中世の混入品で、櫛状工具による条線が放射状に付けられている。弥生土器も混入品であり、本来はＭ６・７に伴うものである。５は甕の口縁部片、６は壺の底部片である。石器・石製品は７の台石が１点出土している。２面に使用の痕跡が認められる。

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期１期、冨沢編年の古墳時代後期Ⅰ期に該当するものであり、５世紀後葉から６世紀前葉の年代が考えられている。

Ｈ６号住居址（第 14 図）

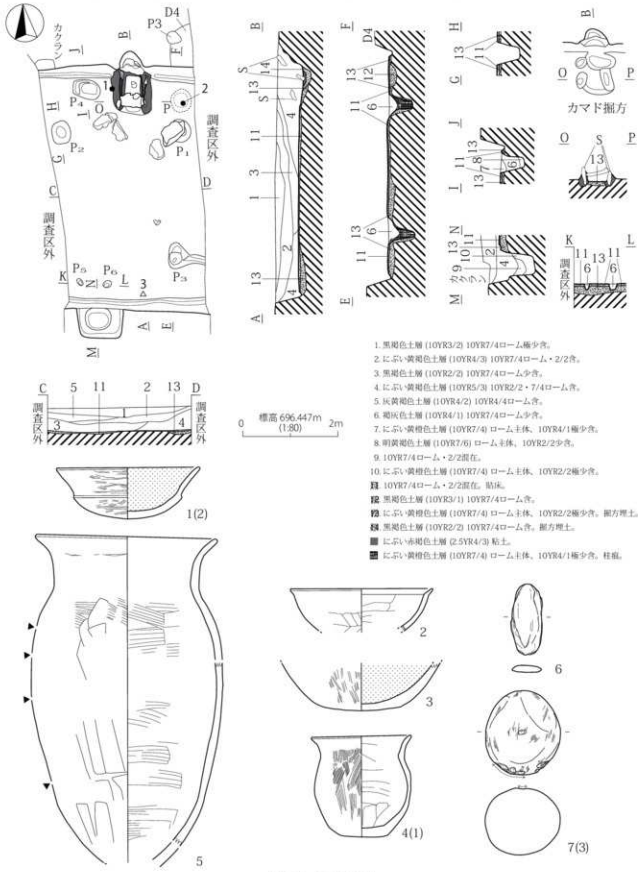
ⅡＨ４グリットで検出された。Ｄ 11・12・13 号土坑に切られ、Ｍ６・７号溝址を切る。Ｎ－ 20°－Ｅに主軸をとり、長軸長 3.5 m、短軸長 2.48 m、壁残高 0.49 m、面積 6.72㎡の規模を有する。北壁の中央やや西より部分に石芯を粘土で被覆したカマドが構築されており、かけ穴には４の甕が架けられ、１の坏が正位で蓋状に被せられていた。カマド西脇には貯蔵穴が構築され、この貯蔵穴部分を除く壁下には周溝が巡らされていた。床面上に検出された２基のピットは主柱穴である。床面直上には炭化物の堆積層が存在し、壁下に堆積する第４層中には焼土粒子が顕著であったことから、焼失した可能性が強いと思われる。

遺物は土師器と弥生土器、土製品が認められる。土師器には坏（１）、甕（２・３・４）、甑（５）の器種が認められる。坏はⅠの形態である。甕は２が台付甕、３が小型甕、４が長胴甕である。３点全てが外面ヘラケズリ、内面ナデ調整が施される。長胴甕の最大径は体部の中央付近にある。甑は大型で、底部が開口する。把手は持たない。内外ヘラミガキ調整である。弥生土器と土製品は２点共に混入品であり、本来はＭ６・７に伴うものである。６は内外赤彩の鉢、７は弥生の赤彩された壺の体部片を再利用した土器片円盤である。

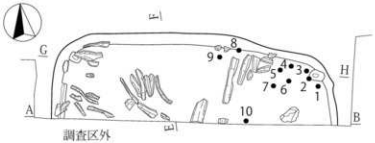
以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期１期、冨沢編年の古墳時代後期Ⅰ期に該当するものであり、５世紀後葉から６世紀前葉の年代が考えられている。

Ｈ７号住居址（第 15・16 図）

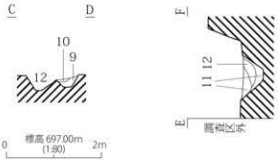
ⅢＡ２グリットで検出された。Ｆ３号掘立柱建物址を切る。Ｎ－ 13°－Ｗに主軸をとり、長軸長 3.57 m、壁残高 0.39 m の規模を有する。北壁のほぼ中央と思われる部分に石忌を粘土で被覆したカマドが構築されている。

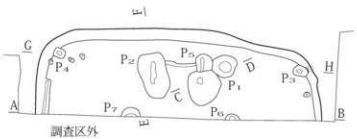


第９図　Ｈ３号住居址

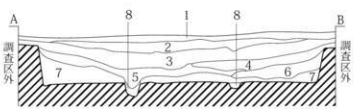


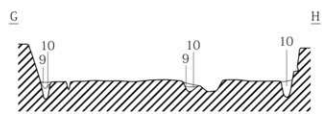
No遺物・炭化材分布図

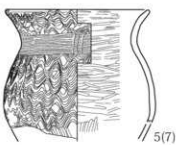


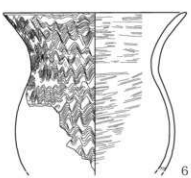


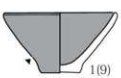
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 表土。
2. 褐灰色土層 (10YR5/1) 10YR7/4ローム少含。
3. 灰黄褐色土層 (10YR5/2) 10YR2/2少含。7/4～7/6ローム含。
4. 10YR7/6ローム・2/2交互帯状堆積。
5. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4～7/6ローム含。
6. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム主体、炭化物少含。
7. 6層中に多量に炭化物含。
8. にぶい黄橙色土層 (10YR6/3) 10YR7/4ローム多含。
9. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/6ローム少含。
10. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム二次堆積。
11. 炭化物の堆積。
12. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム二次堆積。

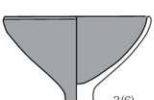


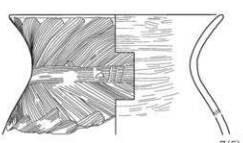




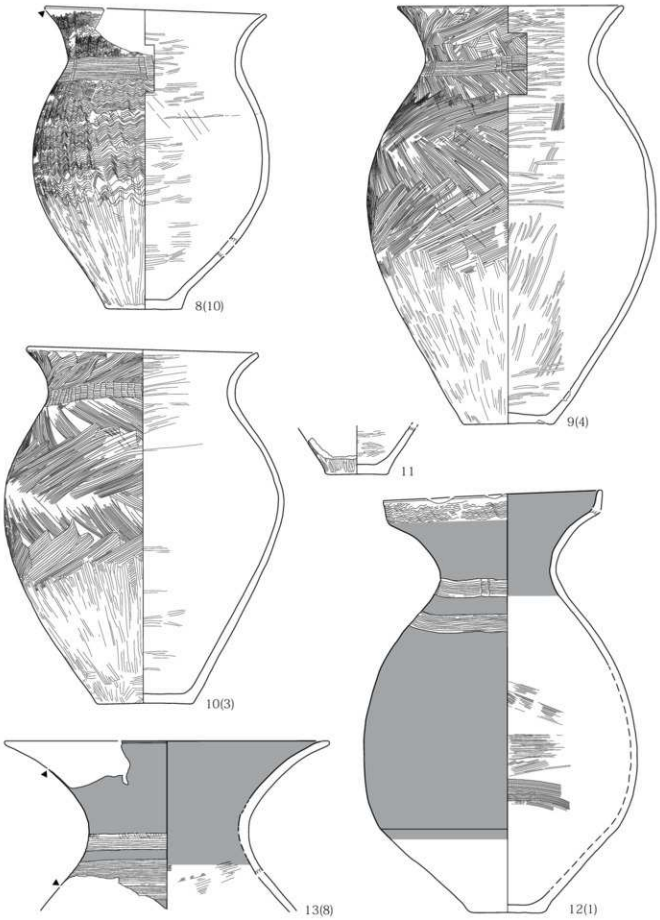






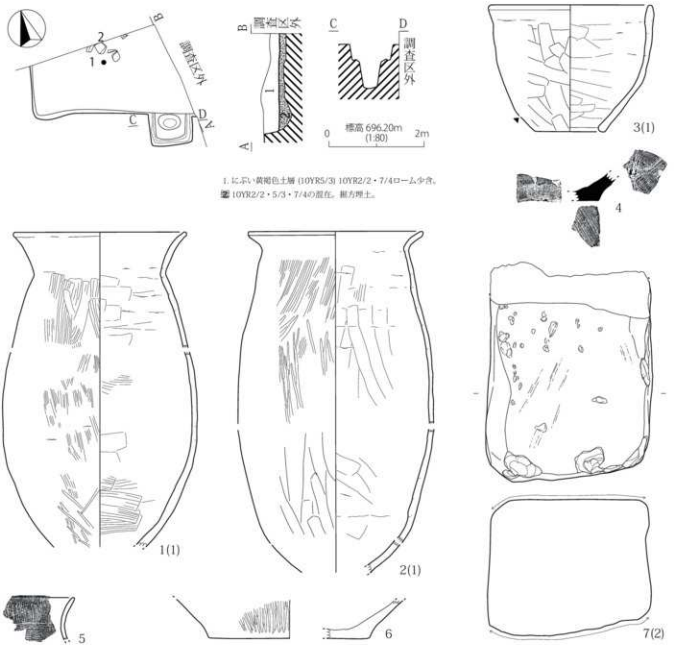


第10図　H4号住居址(1)



第 11 図　H 4 号住居址 (2)

第12図　H４号住居址 (3)

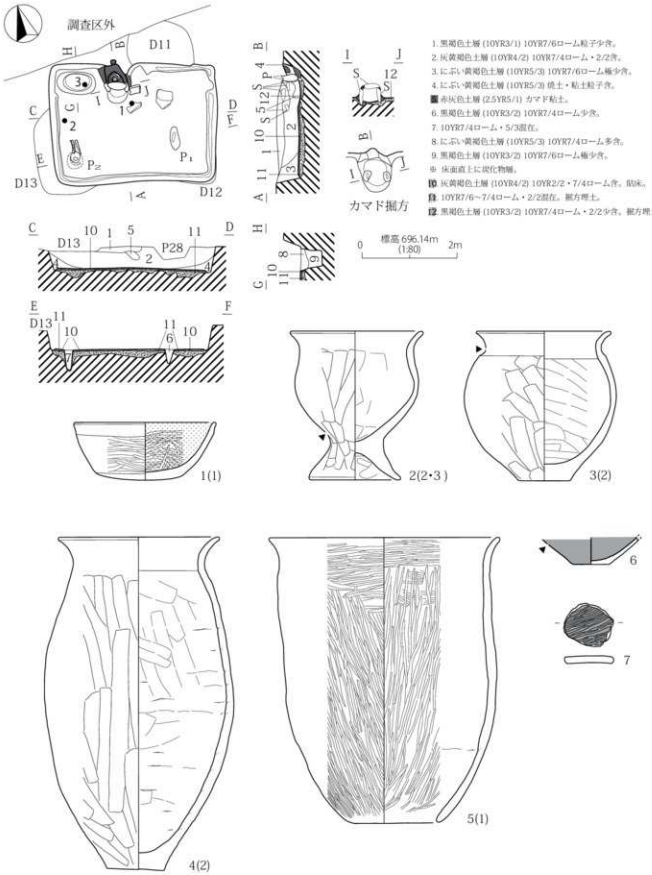


第13図　H５号住居址

調査範囲内の壁下には周溝が巡り、西壁中央やや南よりの周溝の縁から間仕切溝が垂直に延びている。柱穴は存在しない。覆土内に包含されていた多量の礫は、最終堆積層である１層下面に位置しており、本址が埋没した後廃棄されたものと思われる。

遺物は土師器、須恵器、石器・石製品が出土している。土師器には坏（１～３）、甕（４～13）の器種が認められる。坏にはＢ（１）、Ｋ（２）、Ｘ－２（３）の形態が存在する。２は底部に木葉痕が残されている。甕は４が台付、５・６が小型の他は長胴である。７・10・11は調整にハケメが認められるが、他は外面ケズリ、内面ナデを基本とする。最大径は体部ではなく、口縁部に有している。台付甕４は内面黒色処理が施されている。須恵器は14の縁が１

点出土している。破片であり、全容は不明である。肩部に引かれた、２条の平行沈線により作りだされた横位２段の文様帯に櫛描波状文が施されている。石器・石製品は 15 の台石、16・17 の敲石が出土している。



1. 黒褐色土層 (10YR3/1) 10YR7/6ローム粒子少含。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・2/2含。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/6ローム極少含。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 焼土・粘土粒子含。
■ 赤灰色土層 (2.5YR5/1) カマド粘土。
6. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。
7. 10YR7/4ローム・5/3混在。
8. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
9. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6ローム極少含。
⊕ 床面直上に炭化物層。
10 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR2/2・7/4ローム含。貼床。
11 10YR7/6～7/4ローム・2/2混在。掘方埋土。
12 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・2/2少含。掘方埋土。

第 14 図　Ｈ６号住居址

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期３期、冨沢編年の古墳時代後期Ⅱ期に該当するものであり、６世紀中葉から後半の年代が考えられている。

Ｈ８号住居址（第 17・18 図）

ⅢＡ９グリットで検出された。Ｈ９・Ｈ 12 号住居址を切る。Ｎ－ 18°－Ｗに主軸をとり、長軸長 4.65 m、短軸長 4.03 m、壁残高 0.53 m、面積 13.37㎡の規模を有する。南東隅が張り出すため、平面形は台形状の隅丸長方形である。北壁の中央部分にカマドが構築されていたが、ほぼ掘方状態に破壊されていた。壁下には周溝が巡り、主柱穴は均等位置に４基が配置されている。φ 16 ～ 20㎝大の柱痕が確認できた。南壁下中央に検出された P5・P6 の２基のピットは出入口と思われる。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器・石製品が出土している。土師器には坏（１～５）、手捏土器（６～10）、鉢（13）、甕（14・15）、壺（16）の器種が認められる。坏にはＡ（１）とＣ（２～５）の形態が存在し、Ｃ形態は北武蔵型の坏である。手捏土器は一括状態で出土した。臼玉、有孔円板を含め、祭祀道具のセットとしてとらえられる資料であろう。鉢 13 は内外面にヘラミガキ調整が程される。15 は小型の台付甕の脚部、甕 14 は長胴で、口縁部に最大径を有する。壺 16 は短い口縁部が弓なりに外反する球胴のものである。須恵器は高坏の脚 11 と、高盤の脚 12 が出土している。弥生土器は 17 の赤彩される蓋が１点出土した。混入品である。石器・石製品は混入品の黒曜石製の打製石鏃（18）、磨石（19）、敲石（20・21）、磨・敲石（22）、臼玉（23 ～ 32）、有孔円板（33）が出土している。

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期６期、冨沢編年の古墳時代後期Ⅵ期に該当するものであり、７世紀後半の年代が考えられている。

Ｈ９号住居址（第 19・20 図）

ⅢＢ７グリットで検出された。Ｈ８号住居址に切られる。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。Ｎ－ 16°－Ｅに主軸をとり、長軸長 5.08 m、壁残高 0.43 m の規模を有する。カマドは北壁の中央と思われる部分に石芯を粘土で被覆して構築されていた。調査範囲内では壁下に周溝が巡り、P2 と周溝をつなぐ、間仕切溝が存在した。検出されたピットの内、P1、P2 は主柱穴であり、φ 16㎝大の柱痕が確認された。２・３・４層中には炭化物が包含されており、床面に接する２層は特に顕著であった。P1 の東にはベンガラの散布が２ヵ所認められた。覆土中の礫は２層中に内包され、床面に近い位置から出土していることから、本址のカマド構築材と思われる。

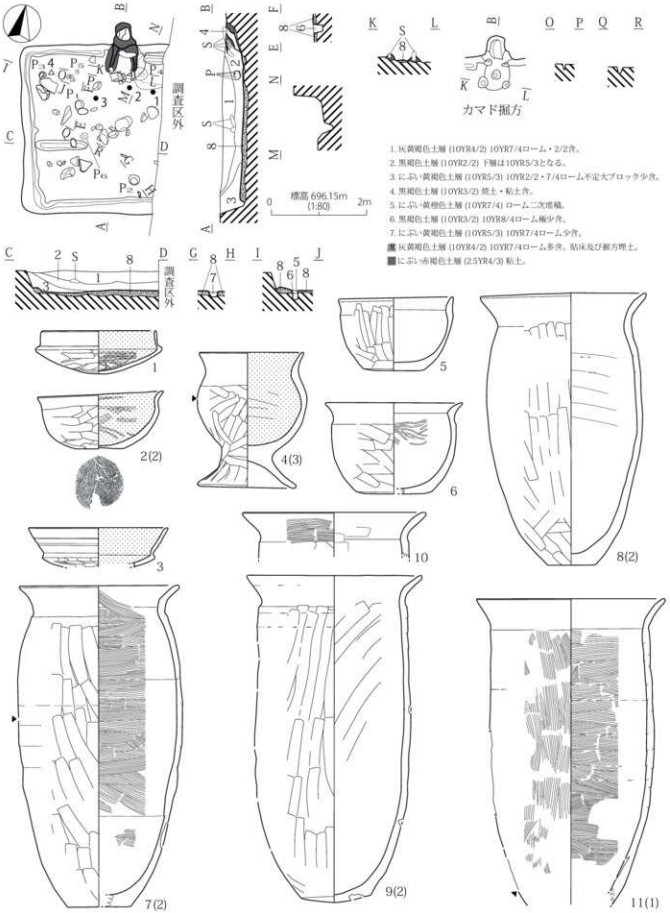
遺物は土師器、石器・石製品が出土している。土師器には坏（1）、鉢（2）、甕（3 ～ 5）、甑（6・7）の器種が認められる。坏はＫ形態のものが１点出土している。鉢は口縁部が円ではなく楕円に成形されており、「杓状」を呈する。外面ヘラケズリ、内面ナデ調整である。甕は体部に最大径を有する。外面ヘラケズリ、内面ナデ調整である。甑は２点共に大型で、底部が開口する形態と思われる。７は把手付で、焼成前に破損した口縁部を補修した痕跡が残っていた。２点共に内外面ヘラミガキ調整が施されている。石器・石製品は磨・敲石が３点出土している。いづれも円礫を利用したものである。

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期１期、冨沢編年の古墳時代後期Ⅰ期に該当するものであり、５世紀後葉から６世紀前葉の年代が考えられている。

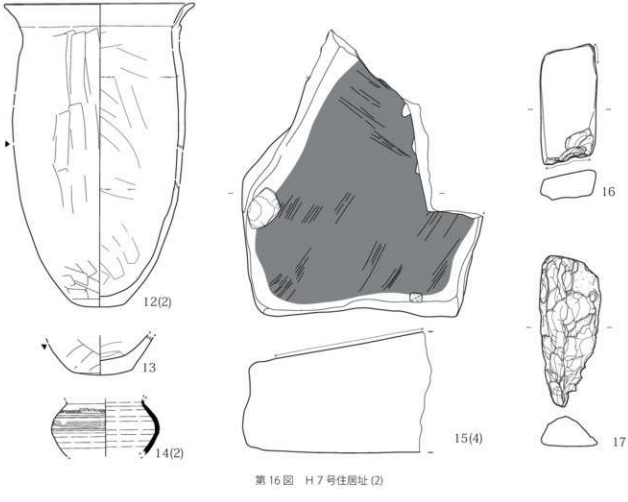
Ｈ 10 号住居址（第 21・22 図）

ⅣＢ２グリットで検出された。Ｐ 66 に切られる。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。Ｎ－ 29°－Ｗに主軸をとり、長軸長 4.35 m、壁残高 0.34 m の規模を有する。カマドは北壁の中央部分に構築されていることが調査区外の壁面土層で確認できた。調査範囲内では壁下に周溝が巡っている。南東隅の壁下には貯蔵穴が構築されていた。P1 ～ P3 は主柱穴であり、調査区外に存在するであろう１基を加えた４基が均等に配置されているものと思われる。P2 に向かい周溝の東、南縁から間仕切溝が２条確認された。貯蔵穴に付随するものであろう。南壁下の P5 ～ P8 の４基のピットは出入口施設と思われる。覆土内の礫は２・３層中に内包されており、遺物もここに包含されていた。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器・石製品が出土している。土師器には坏（１～６）、高坏（７～ 10）、甕（15 ～ 19）、壺（20）、甑（21）の器種が認められる。坏にはＣ（4）とＫ（１～３、5・6）の形態が存在する。高坏は坏部に稜が明瞭な８～ 10 と、形骸化した７が存在する。脚端部は全てのものが「Ｌ」字状に屈折して開く。甕は体部下端に稜を有し、最大径は体部に有する。長胴ではあるが、あまり長くはない。調整はハケメが多用される。壺は小型の広口形態で、内外面にヘラミガキ調整が施される。甑は底部片である。底部全体が開口してい



第15図　H７号住居址 (1)



第 16 図　H 7 号住居址 (2)

る。須恵器には坏（11 ～ 13）、坏蓋（14）、甕（22 ～ 24）の器種が認められる。24 は底部に叩目が顕著である。弥生土器は後期の人面付土器の頭部片が出土している。群馬県「有馬遺跡」出土例と同様な形態と思われ、赤彩が施されている。混入品である。石器・石製品は磨石（26・27）と磨・敲石（28 ～ 31）、石製模造品の勾玉未成品（32）、石製模造品作成のための素材（33）が出土している。

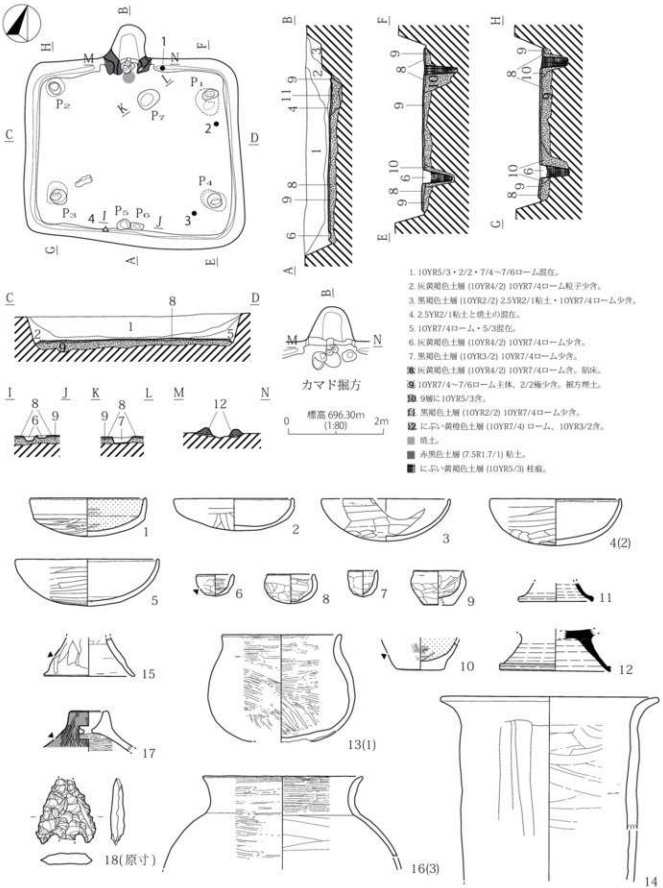
以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期 1 期、冨沢編年の古墳時代後期Ⅰ期に該当するものであり、5 世紀後葉から 6 世紀前葉の年代が考えられている。

H 11 号住居址（第 23・24・25 図）

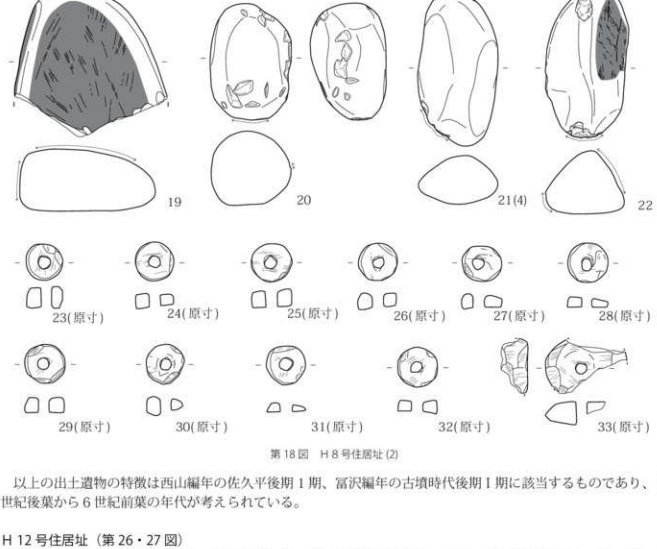
ＶＪ４グリットで検出された。M 9 号溝址を切る。N－210°－Wに主軸をとり、長軸長 5.99 m、短軸長 4.17 m、壁残高 0.35 m、面積 21.55㎡の規模を有する。カマドは南壁の中央やや東寄りに構築されている。佐久市内の古代住居址のカマドは北カマドが普遍的であり、これに東カマドが少数存在し、平安時代末に東南隅カマドが出現する。西や南カマドは極めて少なく特異な存在である。カマドは石芯を粘土で被覆して構築されていた。カマド西脇には貯蔵穴が存在し、カマド部分と西南隅を除く壁下には周溝が巡る。貯蔵穴の西と北壁の北東隅寄りには周溝から垂直方向に延びる間仕切溝が存在する。ピットは掘方も含め 14 基検出されたが耕作によるカクランが著しく、主柱は判然としない。床面上からは滑石の微小チップや素材等が多数検出されており、本址は玉作工房址と思われる。

遺物は土師器、石器・石製品が出土している。土師器には坏（1 ～ 8）、高坏（9 ～ 11）、甕（12 ～ 18）、壺（19）、甑（20 ～ 22）の器種が認められる。坏にはＣ（7）とＫ（1 ～ 6、8）の形態が存在する。高坏は坏部の稜が不明瞭となり、脚端部の屈折も緩やかである。甕は大型（15・17・18）のものと小型（12 ～ 14）が認められる。15 は壺に分類すべきかもしれない。有段口縁の名残のような直立した口縁形態で、球形の体部下半に最大径を有する。17･18 は 15 に比べ長胴である。小型甕は広口の形態で、鉢としても良いのかもしれない。壺 19 は「小型丸底」である。甑は小型の 20・21 と大型の 22 が出土した。小型の 2 点は単孔、大型の 22 は底部全体が開口する。石器・石製品は磨・敲石（23）、編物石（24 ～ 39）、臼玉（40 ～ 42）、臼玉未成品（43 ～ 45）、勾玉

未成品（46）、有孔円盤か勾玉の未成品（47）、剣形模造品（48・49）、石製模造品の素材（50 ～ 53）が出土しており、臼玉に特化した工房ではないことが伺われる。



第 17 図　H 8 号住居址 (1)



第 18 図　H 8 号住居址 (2)

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期 1 期、冨沢編年の古墳時代後期Ⅰ期に該当するものであり、5 世紀後葉から 6 世紀前葉の年代が考えられている。

H 12 号住居址（第 26・27 図）

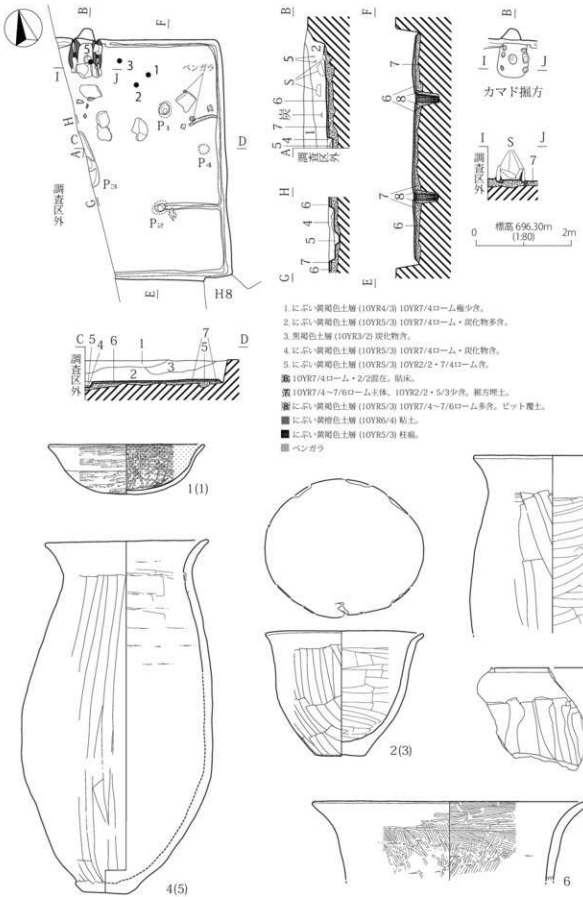
ⅢA 10 グリットで検出された。H 8 号住居址、M 8 号溝址に切られ、M 5・9 号溝址を切る。N－0°－E に主軸をとり、長軸長 5.24 m、短軸長 4.91 m、壁残高 0.52 m、面積 19.97㎡の規模を有する。カマドは北壁の中央に石芯を粘土で被覆して構築されている。カマド部分が突き出るため、住居の平面形は五角形を呈する。カマド部分を除く壁下には周溝が巡り、P1 に向かい 1 本、東壁中央やや南に 1 本、南壁から P5 に向かい 1 本の計 3 本の間仕切溝が存在する。9 基検出されたピットの内､均等に配置された P1 ～ P4 の 4 基が主柱穴であり、P6・P7 の 2 基が出入口施設と思われる。覆土の 2 層以下には炭化物が含まれており、本址は焼失住居と考えられる。

遺物は土師器､石器･石製品､鉄製品が出土している。土師器には坏（1 ～ 5）､甕（6 ～ 8）､壺（9 ～ 11）､甑（12･13）の器種が認められる。坏にはA（2）､C（4）､D（1）､E（5）､X－2（3）の形態が存在する。甕は長胴で、体部下半に最大径を有する。調整はヘラケズリ調整が主体であるが、7 は内面にハケメ調整が施される。壺は完形のものがなく、全容は不明である。甑は小型で単孔の 12 と大型で底部全体が開口する 13 が存在する。石器・石製品は玉類（14 ～ 19）と編物石（20）､磨石（21 ～ 23）の器種が存在する。玉類は坏（1）に内包され出土したものであり、一括のセットである。19 が切小玉の他は臼玉で、全て滑石製である。鉄製品は釘（24）が 1 点出土している。

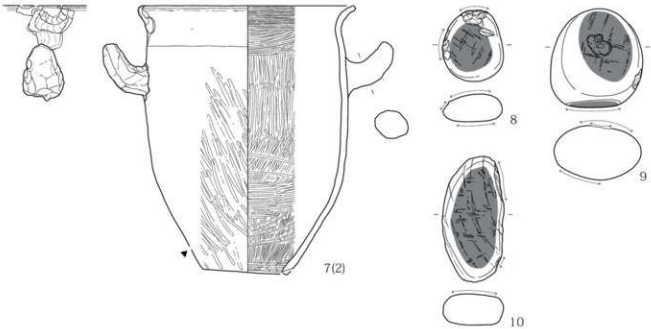
以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期 2 期、冨沢編年の古墳時代後期Ⅱ期に該当するものであり、6 世紀前半から 6 世紀中葉の年代が考えられている。

H 13 号住居址（第 28 図）

ⅣA 5 グリットで検出された。西半部の大半がカクランにより消失していた。N－25°－E に主軸をとり、長軸長 3.61 m、短軸長 3.22 m、壁残高 0.18 m の規模を有する。カマドは北壁の中央に石芯を粘土で被覆して構



第19図　H９号住居址(1)



第 20 図　H 9 号住居址 (2)

築されているが、袖は所謂「地山削り出し」である。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。ピットは 6 基検出されているが、主柱穴は見当たらない。P5・P6 の 2 基は出入口施設と思われる。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、鉄器が出土している。土師器は甕の底部片であり、ヘラケズリ調整が施される。須恵器は壺の底部片で回転ヘラケズリが施される。弥生土器は、赤彩が施される高坏の脚片であるが混入品である。鉄器は木質が残る刀子が 1 点出土している。

以上の出土遺物から本址の時期を特定するのは困難であり、古墳時代後期という大枠で捉えておきたい。

H 14 号住居址（第 29 図）

ＶＩ８グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。Ｎ－０°－Ｅに主軸をとり、長軸長 3.32 m、壁残高 0.52 m の規模を有する。カマドは北壁中央東寄りに構築されているが、掘方状態に破壊されていた。周溝は有さない。1 基検出されたピットは出入口施設と思われる。

遺物は土師器が出土している。坏（1 ～ 3）、壺（4・5）の器種が認められる。坏はＣ（1）、Ｅ（2・3）の形態が存在する。壺は 4 が底部片、5 は内面ヘラミガキ、黒色処理が施される、壺の頸部と思われる。

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期 2 期、冨沢編年の古墳時代後期Ⅱ期に該当するものであり、6 世紀前半から 6 世紀中葉の年代が考えられている。

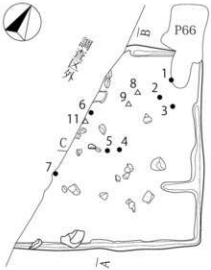
H 15 号住居址（第 30 ～ 33 図）

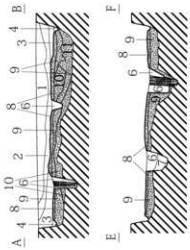
ＶＩ５グリットで検出された。M 9 号溝址を切り、カクランに切られる。Ｎ－55°－Ｗに主軸をとり、長軸長 4.74 m、短軸長 3.91 m、壁残高 0.23 m の規模を有する。東北隅がカクランにより消失しているため判然としないが、調査範囲にはカマドは存在しなかった。周溝は有さない。P1、P10 の 2 基のピットが主柱穴である。H11 号住居址と同様に、本址からも大量の滑石製の石製模造品や未成品、原石、剥片、チップが出土しており、玉作工房址と考えられる。P6 は貯蔵穴と思われる。工作ピットと断定できるものは存在しない。

遺物は土師器、石器・石製品、鉄器が出土している。土師器には坏（1 ～ 4）、高坏（5）、甕（6）の器種が認められる。坏にはＤ（1）、Ｋ（2 ～ 4）の形態が存在する。高坏は坏部に稜を有している。甕は口唇部外面に凹線が周回する。石器・石製品は 7 の磨・敲石の他に多量の石製模造品（9・10）と白玉（11 ～ 68）及び、これらの未成品（69 ～ 448）や剥片、チップ、原石が出土している。鉄器は斧が 1 点出土している。滑石原石の打割に使用したものであろうか？

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期 1 期、冨沢編年の古墳時代後期Ⅰ期に該当するものであり、5 世紀後葉から 6 世紀前葉の年代が考えられている。

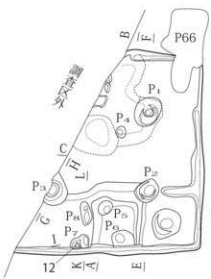
H 16 号住居址（第 34・35 図）

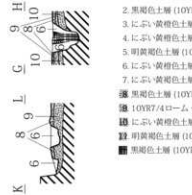


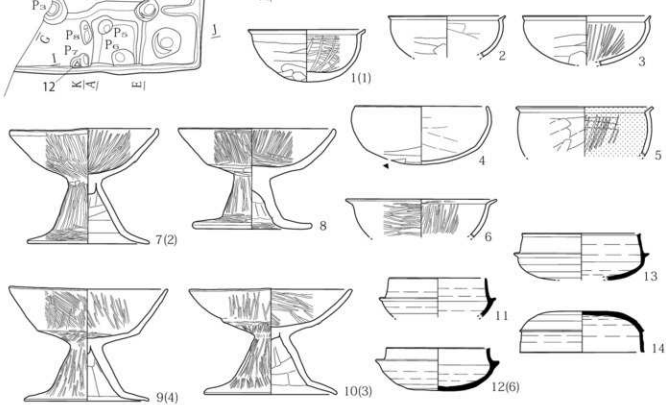


1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/6ローム含。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 炭化物含。10YR7/4ローム少含。
3. にぶい黄橙色土層 (10YR6/3) 10YR7/4ローム少含。
4. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム。10YR5/3少含。
5. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム。10YR5/3少含。
6. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR2/2・5/3含。
7. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/6ローム少含。

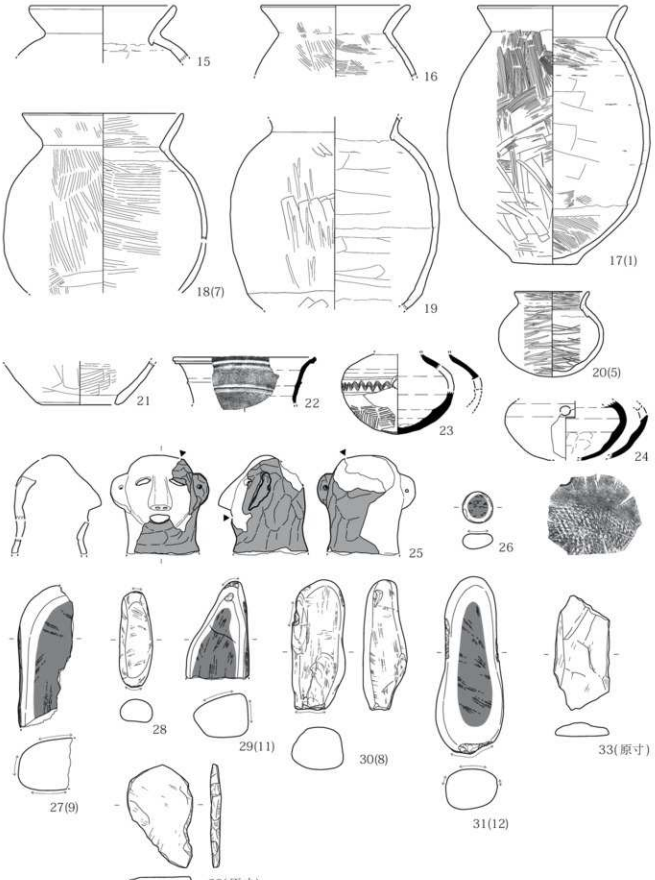
張 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム含。貼床。
地 10YR7/4ローム・3/2混在。
地 にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム二次堆積。
地 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム二次堆積。
■ 黒褐色土層 (10YR3/2) 柱痕。



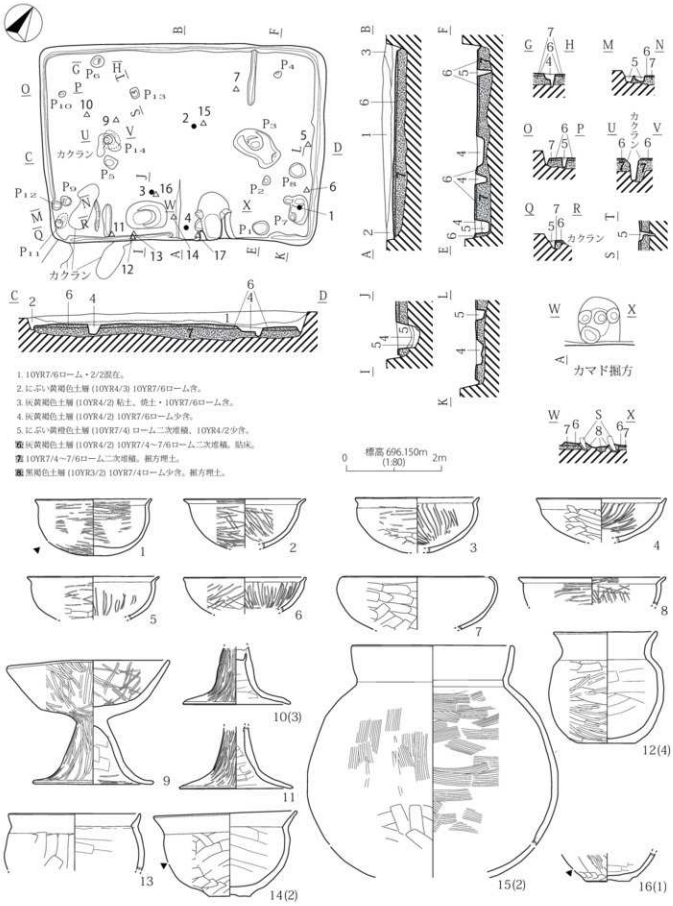




第 21 図　H 10 号住居址 (1)

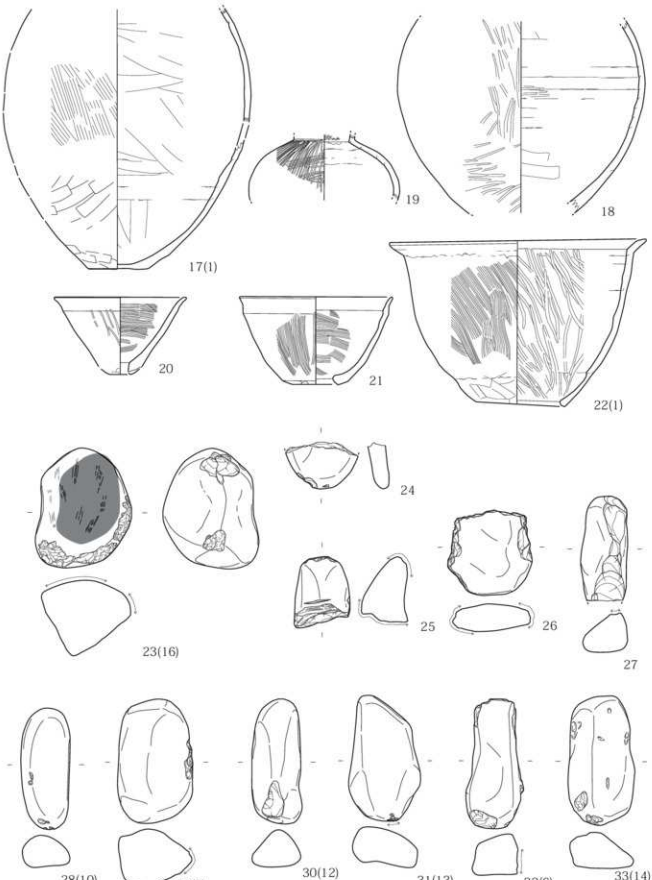


第 22 図　H 10 号住居址 (2)



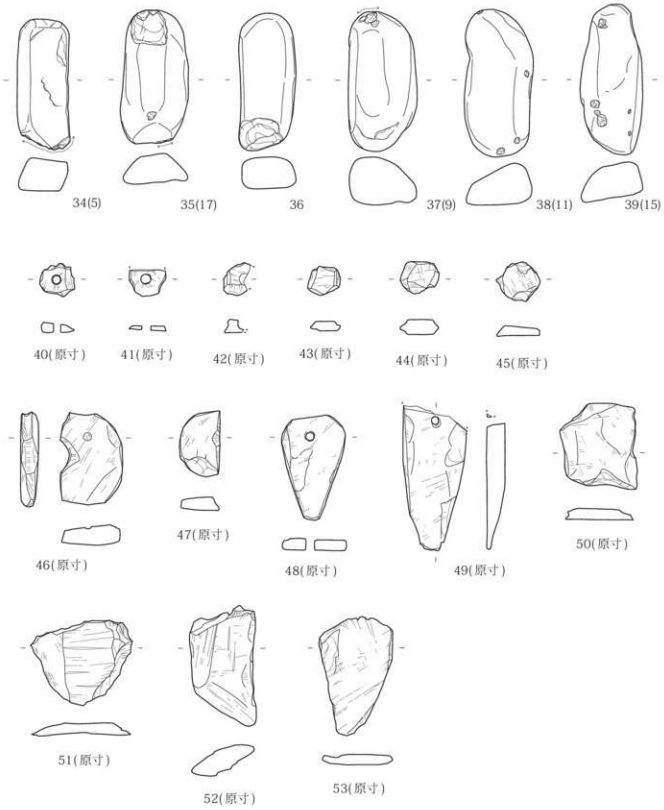
1. 10YR7/6ローム・2/2炭在。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/6ローム含。
3. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 粘土。焼土・10YR7/6ローム含。
4. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/6ローム少含。
5. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム二次堆積、10YR4/2少含。
敲 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4～7/6ローム二次堆積。貼床。
カ 10YR7/4～7/6ローム二次堆積。竈方理土。
敲 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。竈方理土。

第23図　H 11 号住居址 (1)

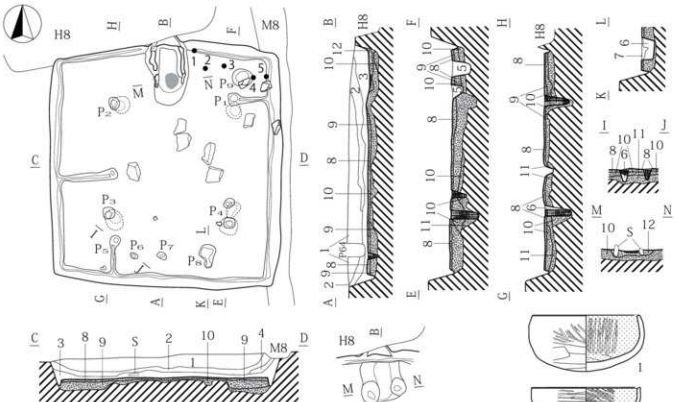


第 24 図　H 11 号住居址 (2)

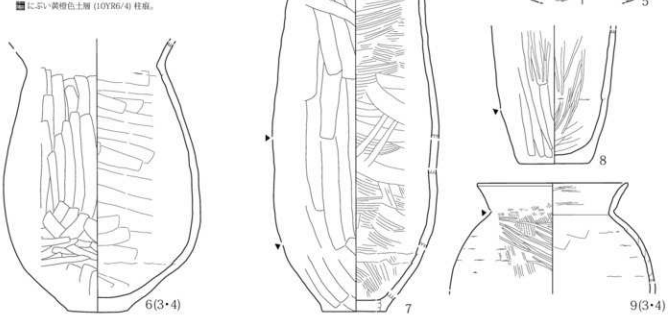
ⅥB 7 グリットで検出された。M10 号溝址に切られ、M1 号溝址を切る。西側に向かい調査区外に延びるため全容は不明である。N－6°－Eに主軸をとり、長軸長 4.9 m、壁残高 0.56 mの規模を有する。カマドは北壁の中央と思われる場所に石芯を粘土で被覆して構築されていた。カマド部分が突き出るため、H12 同様に住居の平面形は五角形を呈するものと思われる。カマド部分を除く壁下には周溝が巡らされ、周溝から P1 に向かい



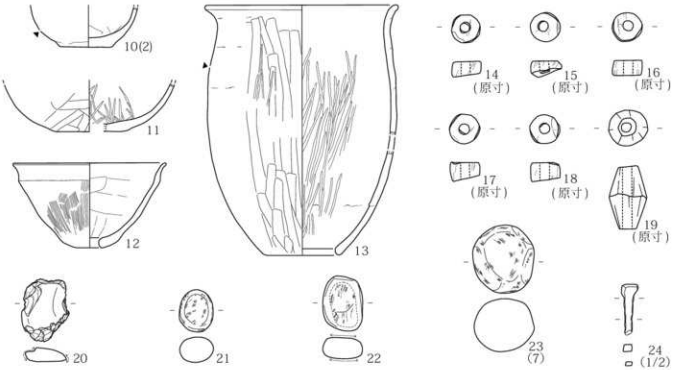
第 25 図　H 11 号住居址 (3)



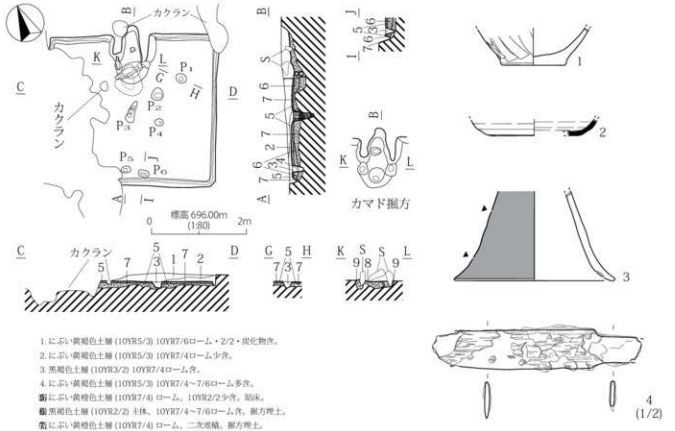
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4～7/6ローム多含。2/2少含。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含。炭化物含。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 下層に炭化物の帯状堆積。10YR2/2・7/4ローム少含。
4. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR5/3少含。
5. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR2/2・7/4ローム少含。
6. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) 10YR7/6ローム主体。5/3・2/2少含。
7. にぶい黄橙色土層 (10YR6/4) 10YR7/6ローム少含。
8. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。貼床。
9. 10YR2/2・3/2・8/6ローム混在。掘方埋土。
10. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム二次堆積。掘方埋土。
11. 黒褐色土層 (10YR2/2)。
12. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム含。カマド掘方埋土。
■ 焼土。
■ にぶい黄橙色土層 (10YR6/4) 柱痕。



第 26 図　H 12 号住居址 (1)

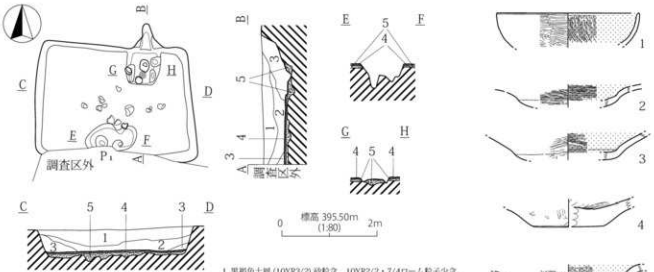


第 27 図　H 12 号住居址 (2)



1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/6ローム・2/2・炭化物含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム少含。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム含。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4～7/6ローム多含。
5. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム、10YR2/2少含。崩壊。
6. 黒褐色土層 (10YR2/2) 主体、10YR7/4～7/6ローム含。掘方埋土。
7. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム、二次堆積。掘方埋土。
8. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。
9. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR2/2少含。
■ 黒褐色土層 (10YR3/2) 粒痕。

第 28 図　H 13 号住居址



第 29 図　H 14 号住居址

間仕切溝が連結されていた。北東隅の壁下には貯蔵穴が存在する。P1・P2 の 2 基のピットは主柱穴で、φ 15 ㎝前後の柱痕が確認できた。覆土は単層で人為埋土である。床面直上に多量の炭化材、灰、焼土の堆積が認められたことから、本址は焼失住居と考えられる。

遺物は土師器、弥生土器、石器・石製品が出土している。土師器には高坏（1）、鉢（2）、甕（3 ～ 9）、甑（10・11）の器種が認められる。高坏は脚部片で、端部は「L」字状に屈折して開いている。鉢は広口で体部に最大径を有する。甕は体部が球胴気味で、あまり長胴ではない。口縁形態は頸部から緩やかに開くもの（4・5）と強く「く」字に開くもの（6・7）が存在する。3・9 はハケメ調整が用いられるが、他はヘラナデかヘラケズリ調整である。甑は 2 点共に大型のものである。11 は底部を欠損するため確証を欠くが、内外面がヘラミガキ調整であることと、その形態から甑とした。底部は全開する。弥生土器は混入品で、全て中期後半の栗林式である。12 が甕の他は壺である。石器・石製品は台石（16）、磨石（17・18）、剣形模造品（19）が出土している。

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期 1 期、冨沢編年の古墳時代後期Ⅰ期に該当するものであり、5 世紀後葉から 6 世紀前葉の年代が考えられている。

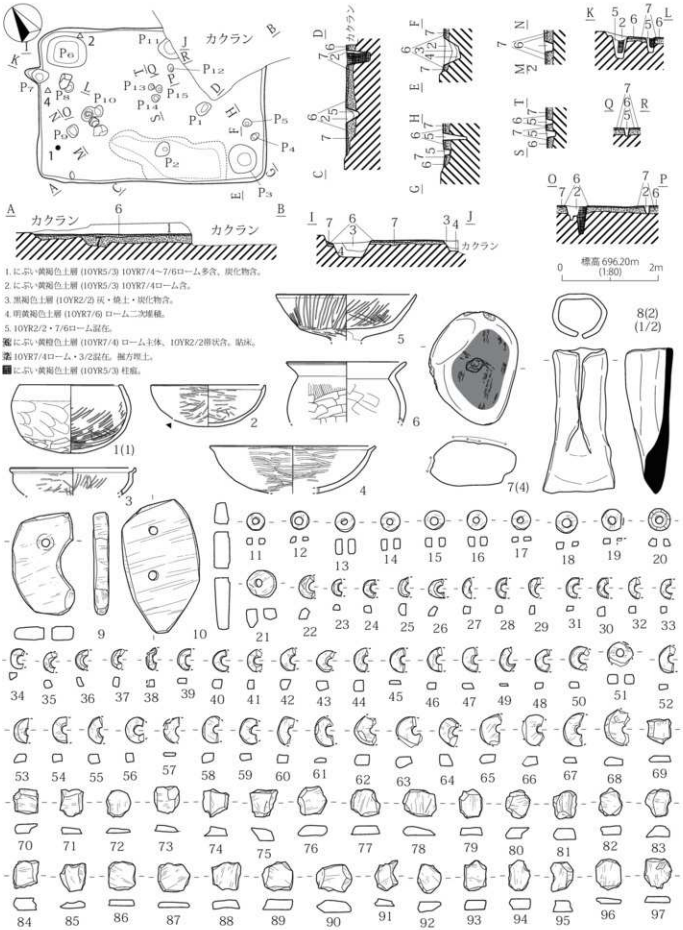
H 17 号住居址（第 36 図）

ＶＨ８グリットで検出された。ＯＴ２号周溝墓を切る。南側に向かい調査区外に延びるため全容は不明である。Ｎ－ 0°－Ｅに主軸をとり、短軸長 3.6 m、壁残高 0.37 m の規模を有する。北辺に比べ、南辺が広い台形の平面形態である。カマドは東壁の東北隅近くに石組で構築されていた。また、北壁中央東寄りには旧カマドの痕跡が認められた。周溝は有さず、柱穴も判然としない。P3・P4 の 2 基は出入口施設と思われる。

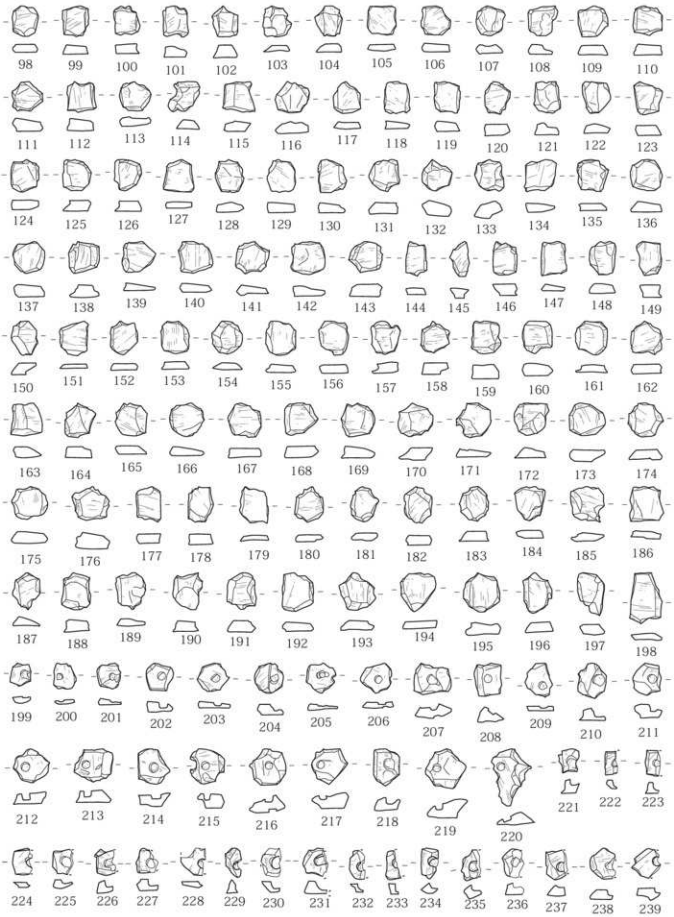
遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器・石製品、鉄製品が出土している。土師器には坏（1 ～ 5）、高坏（6）、甕（8 ～ 10）、甑（11）の器種が認められる。坏のロクロからの切り離しは回転糸切で、内面はヘラミガキ→黒色処理か暗文・黒色処理であるが、3 は外底及び周縁部にヘラケズリ調整が施されている。また、5 には墨書が認められるが、判読できない。高坏は脚部の破片であり、混入品である。須恵器は坏が 1 点出土している。底部に回転糸切痕をのこす。甕はロクロ甕とナデ調整のものである。甑は混入品である。弥生土器は全て混入品である。12 ～ 15 は後期、16・17 は中期後半栗林式である。石器・石製品は砥石（18）、磨製石斧（19）、磨石（20）、剣形模造品(21)の器種が認められる。本址に伴なう可能性があるのは 18 と 20 であり、他の 2 点は混入品である。鉄製品は釘（22・23）と鎹（24）の器種が認められる。

以上の出土遺物の特徴は聖原編年の奈良・平安時代Ⅵ期に該当し、9 世紀後半の実年代が想定されている。

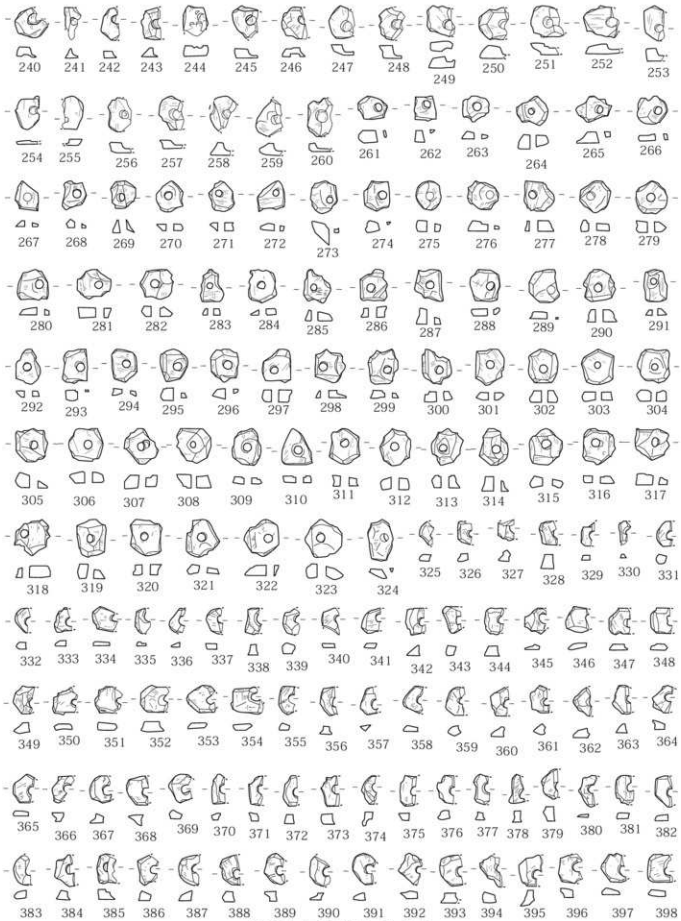
H 18 号住居址（第 37 図）



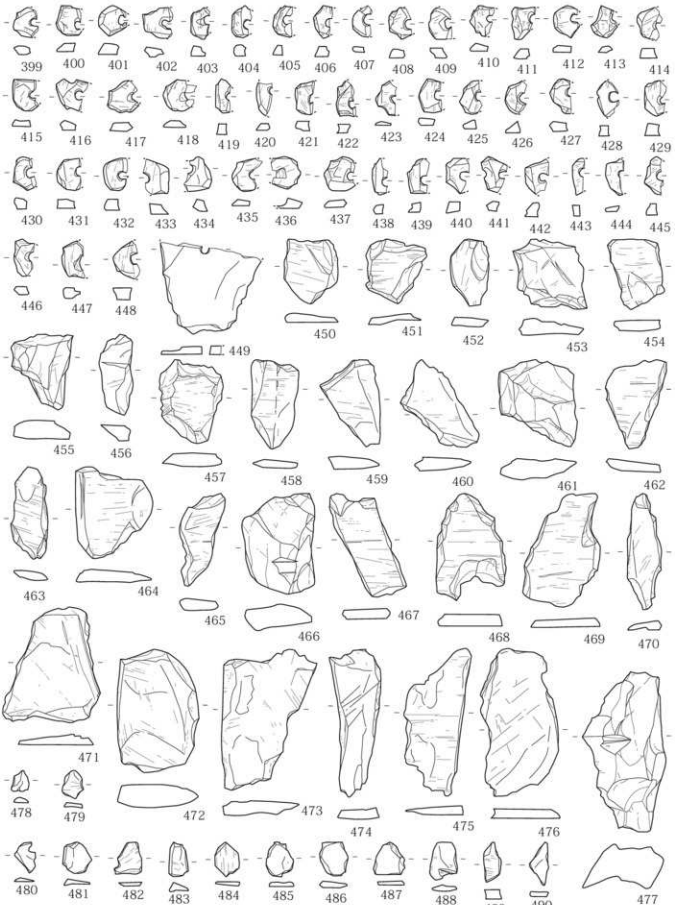
第30図　H 15 号住居址（1）（1～8 以外は原寸）



第31図　H 15 号住居址（2）（原寸）



第32図　H 15 号住居址（3）（原寸）



第 33 図　H 15 号住居址（4）（原寸）

ＶＦ７グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。Ｎ－０°－Ｅに主軸をとり、長軸長 3.97 m、短軸長 3.78 m、壁残高 0.3 m、面積 12.43㎡の規模を有する。北辺に比べ、南辺が広い台形の平面形態である。カマドは北壁の中央に石芯を粘土で被覆して構築されていた。カマド部分を除く北壁及び東壁下には周溝が巡らされる。６基検出されたピットは、P3・P6 の２基が主柱穴で、φ 16㎝大の柱痕が確認された。その他のピットの性格は不明である。東南隅の壁下の土坑は貯蔵穴と思われる。

遺物は土師器と石器・石製品が出土している。土師器には坏（1・2）、高坏（3・4）、鉢（5）、甕（6）、壺（7・8）の器種が認められる。坏はＤ（1）とＫ（2）の形態が存在する。高坏は坏部に明確な稜をもち、脚端部が「Ｌ」字状に屈折して開いている。鉢は坏Ｋ形態を深くして、最大径を体部中央に持たせた形態で、外面ヘラケズリ、内面ナデ調整が施される。甕は小型で、最大径を体部に有する。口縁部は広口で、頸部から「く」字状に緩やかに開く。壺はいずれも口縁部が「く」字に強く外反して開き、７は端部が立ち上がり気味に摘み上げられる。８は面取り状に平坦な口唇である。石器・石製品は台石（9）と編物石（10）が出土している。

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期１期、冨沢編年の古墳時代後期Ⅰ期に該当するものであり、５世紀後葉から６世紀前葉の年代が考えられている。

Ｈ 19 号住居址（第 38 ～ 41 図）

ＶＤ７グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。Ｎ－６°－Ｅに主軸をとり、長軸長 5.72 m、短軸長 5.46 m、壁残高 0.41 m、面積 25.04㎡の規模を有する。カマドは北壁の中央に石芯を粘土で被覆して構築されていた。カマド部分および東壁中央から東南隅を除く壁下には周溝が巡る。主柱穴 P1 ～ P4 の４基のピットに向かい東壁、西壁から間仕切溝が連結される。また、P7 には南壁から間仕切溝が連結されている。主柱穴にはφ 16㎝大の柱痕が確認できた。P7 ～ P9 の３基のピットは出入口施設と思われる。東南隅に存在する土坑は貯蔵穴である。覆土中には多量の炭化材が包含されており、床面直上にも散乱していたことから本址は焼失住居と思われる。また、数多くの石製模造品やその未成品、素材、原石が出土していることから、玉作工房址と考えられる。

遺物は土師器、弥生土器、石器・石製品が出土した。土師器には坏（1 ～ 9）、高坏（10）、鉢（11）、甕（12 ～ 15）、壺（16 ～ 21）、甑（22 ～ 24）の器種が認められる。坏はＤ（5）とＫ（1 ～ 4、6 ～ 8）の形態が存在する。高坏は坏部の破片で明瞭な稜をもつ。鉢は坏Ｋ形態を深くした形状で、器壁は厚く、輪積痕が明瞭である。甕は広口で最大径を体部に有する。壺は頸部が「く」字状に強く外反する。18 は口唇部に強い面取りが施される。また、有段口縁の 19 も存在する。甑は底部が開口する形態で、頸部の括れがある。弥生土器はすべて混入品である。25 のような後期のものと、27・28 のような中期後半のものが存在する。石器・石製品には台石（29）、編物石（30 ～ 42）、使用痕の有る剥片（43）、石製模造品の原石（44）、臼玉及び臼玉未成品（45 ～ 56）、剣形模造品（57 ～ 66）、石製模造品の素材（67 ～ 78）が認められる。剣形模造品は孔が縦方向に２孔が穿たれ、鏑がなく、切先に向かい右側面が直線的な特徴的な形態である。

以上の出土遺物の特徴は冨沢編年の古墳時代中期Ⅲ期に該当するものであり、５世紀後葉の年代が考えられている。

第２節　掘立柱建物址

Ｆ１号掘立柱建物址（第 42 図）

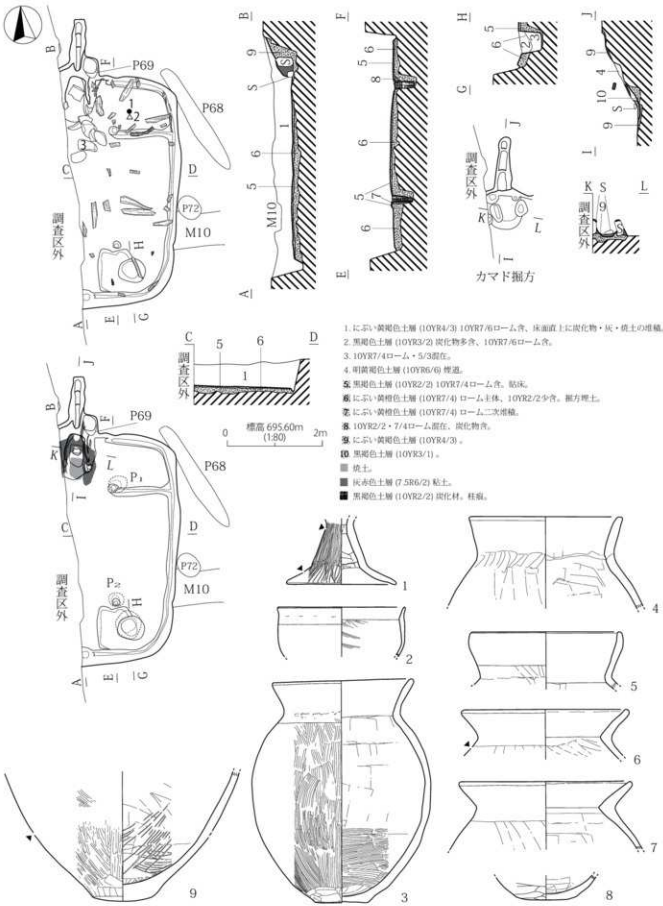
ⅥＨ２グリットで検出された。P40 に切られ M3 を切る。Ｎ－ 90°－Ｅに主軸をとる。桁行長 3.79 m、桁行柱間 1.9 m、梁間長 2.31 m、梁間柱間 2.31 m、面積 8.77㎡、柱径φ 15㎝の規模を有する側柱の形態である。P5 内には礎石が認められた。

出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

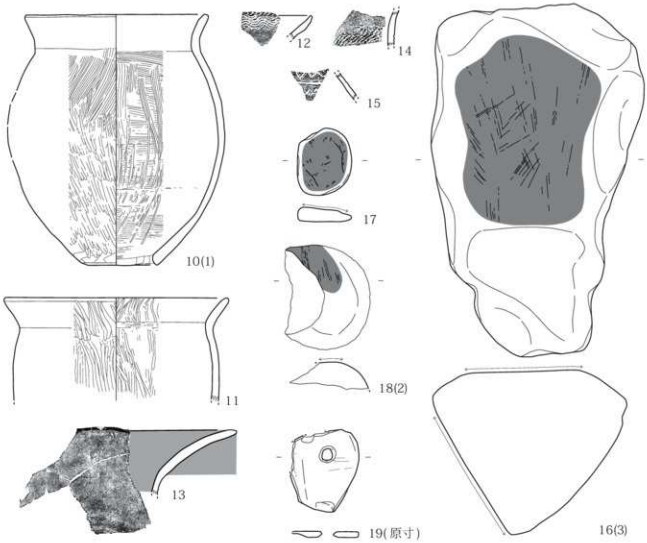
Ｆ２号掘立柱建物址（第 42 図）

ⅥＡ８グリットで検出された。P73 に切られる。桁行柱間 1.65 m、柱径 19㎝の規模の他は、調査区外に延びるため全容は不明である。

遺物は土師器坏片が２点出土しており、その形態から古墳時代後期の所産と思われる。



第 34 図　H 16 号住居址 (1)



第 35 図　H 16 号住居址 (2)

F 3 号掘立柱建物址（第 42 図）

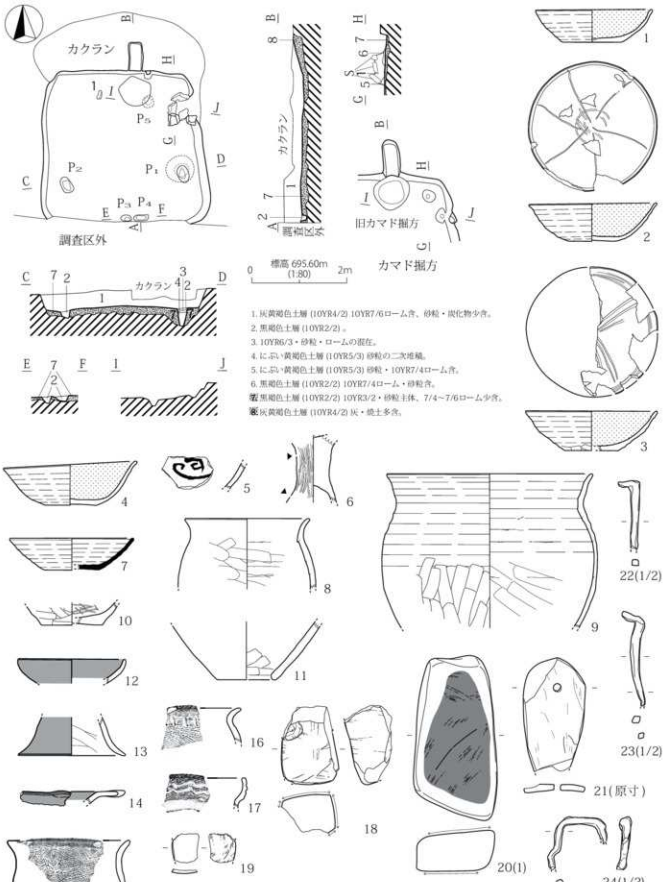
ⅢA 5 グリットで検出された。H7 に切られる。N－74°－E に主軸をとる。調査区外に延びるため全容は不明である。梁間長 4.16 m、桁行柱間 1.27 ～ 1.69 m、梁間柱間 2.08 m の規模である。

出土遺物は皆無であるが、重複関係から H 7 号住居址に先行するものである。

第 3 節　古墳及び周溝墓

古墳（OT1）（第 43・44 図）

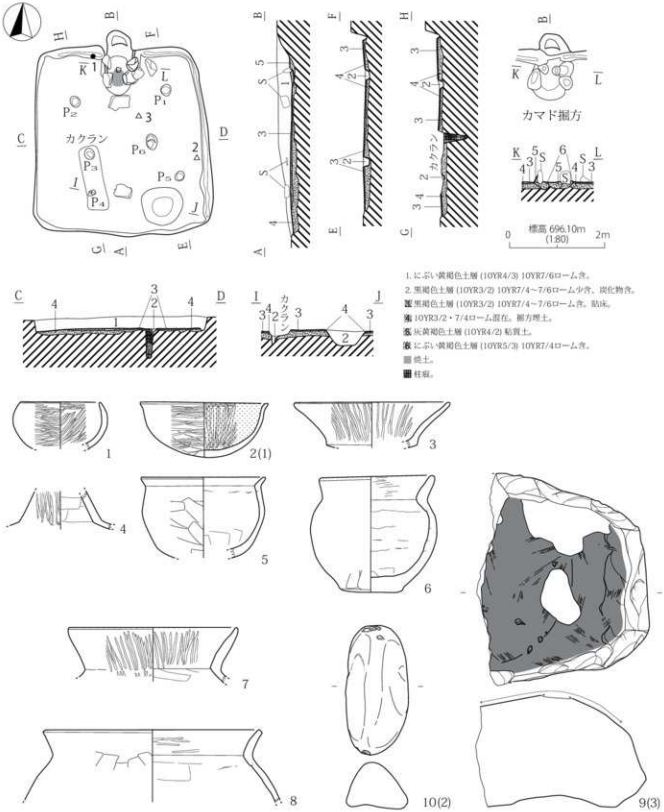
ⅣH 5 グリットで検出された。M1 を切る。カクランによる破壊が著しい。調査区外に延びるため全容は不明である。周溝の最大幅 2.05 m、最大深度 0.7 m であった。羨道部分は下水管の埋設時に破壊され、框石と思われる方柱状の石がその埋土の中に存在した。60 年以上前から既に天井石は存在していないことが、住民からの聞き取りで判明した。石室構築材の中では最大級であったであろう奥壁の石のみが人力では引き抜けずにそのまま残存していたものと思われる。調査時点までは未周知の古墳であった。側壁の石は奥壁に比べかなり貧弱であり、1 ～ 2 段の石積みが残されていた。封土や外護列石、裏込石等は存在しなかった。耕作による破壊が礫床面にまで及んでいた。人骨は奥壁際から頭蓋骨が少なくとも 2 体分出土した。また、すぐ脇から大腿骨と思われる部位も出土しており、埋葬時の位置は保っていないものと思われる。頭蓋骨及び付随する歯はあまり大きくなく



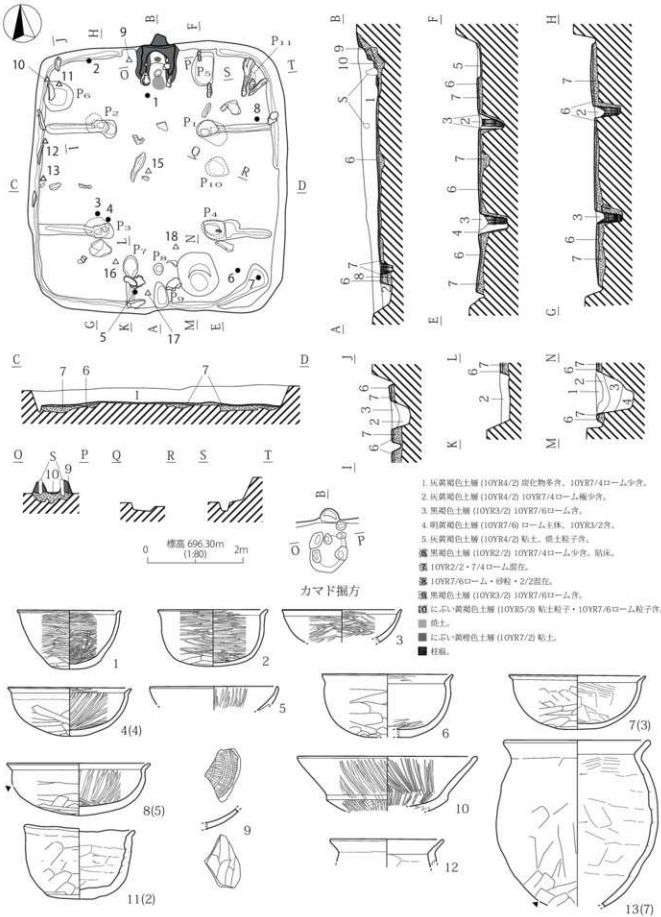
第 36 図　H 17 号住居址

女性か子供の可能性が高い。

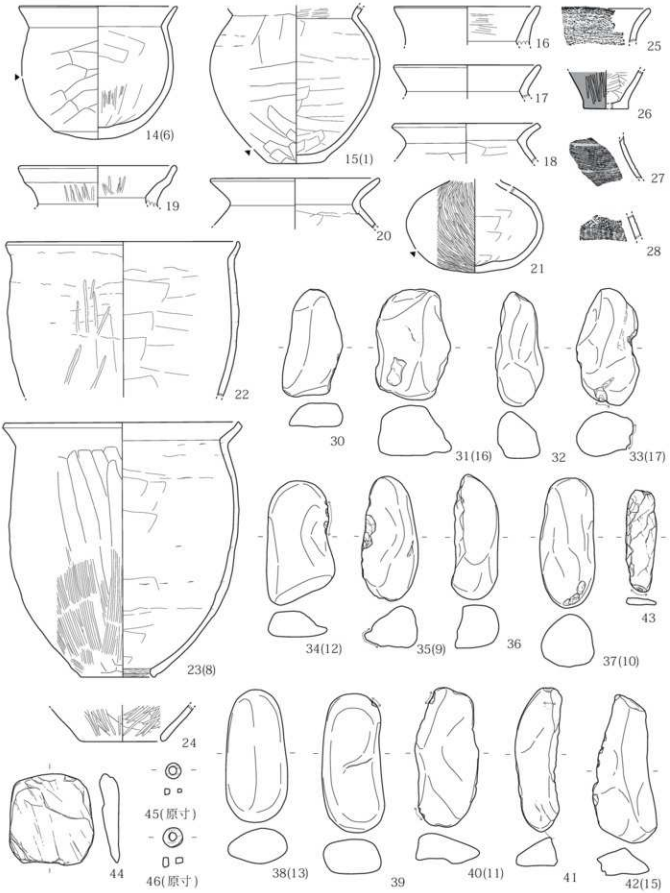
遺物は須恵器、緑釉陶器、鉄器が出土した。須恵器には坏（1～4）、有台坏（5～7）、短頸壺蓋（8）、坏蓋（9・10）、甕（13～15）、壺（16～18）、横瓶（19）の器種が認められる。緑釉陶器は碗が2点出土している。鉄器は2本を撚り合わせた軸状のもの（20）と刀子（21・22）が2点出土した。出土土器は7世紀末から10世



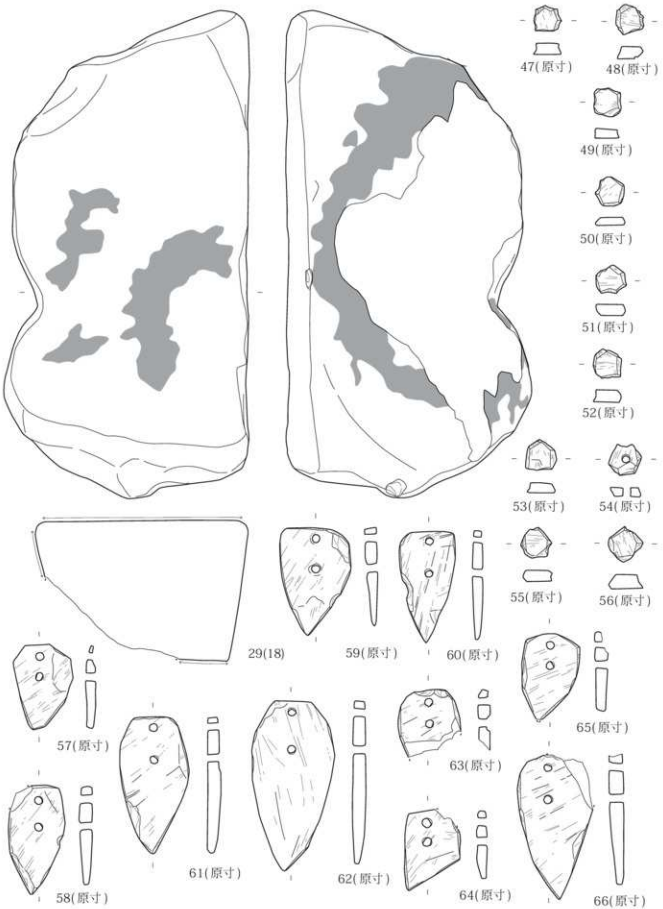
第37図　H18号住居址



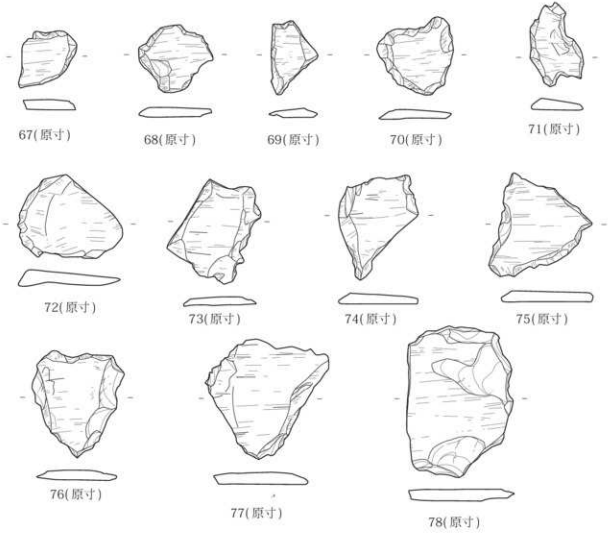
第 38 図　H 19 号住居址（1）



第 39 図　H 19 号住居址（2）



第 40 図　H 19 号住居址（3）



第41図　H19号住居址（4）

紀前半に及ぶことから複数回の追葬が行われたものと思われる。出土遺物の出土位置は22の刀子が礫床から出土したのみであり、その他のものは周溝及び覆土内からの出土である。

ＯＴ２円形周溝墓（第45図）

ＶＧ７グリットで検出された。H17号住居址、カクランに切られる。周溝の長径の外周径5.61 m、内周径4.52 m、溝の最大幅0.72 m、最大深度0.3 mの規模である。形態的には２か所か１か所が切れるものと思われる。主体部は組み合わせ式の木棺墓で長さ1.59 m、幅0.82 m、深度0.27 mの規模で、隅丸長方形の平面形である。長軸は東西にとる。

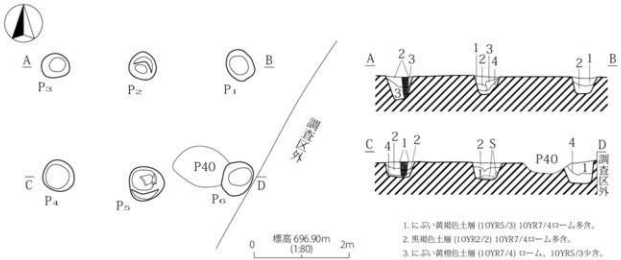
遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器・石製品が出土している。弥生土器以外は混入品である。弥生土器は２点共に高坏で赤彩が施されている。

以上の出土遺物から本址は弥生時代後期の所産と思われる。

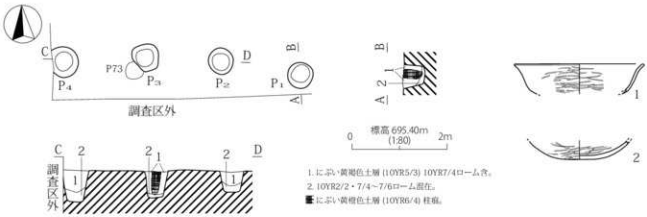
ＯＴ３円形周溝墓（第46図）

ＶＢ７グリットで検出された。カクランによる破壊を受けている。周溝の長径の外周径5.97 m、内周径3.82 m、短径の外周径5.58 m、内周径4.69 m、溝の最大幅0.74 m、最大深度0.37 mの規模である。２か所で溝が切れる平面形態である。主体部は残存していなかった。

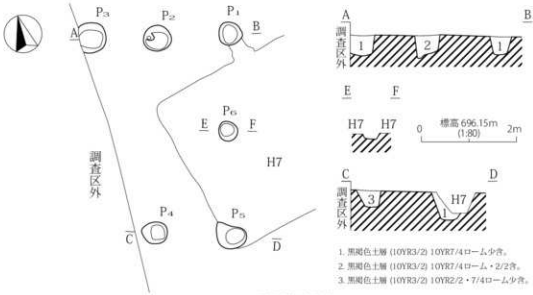
遺物は弥生土器と石器・石製品が出土している。弥生土器の器種には鉢（1）、高坏（2～5）、甕（6～8）、壺（9・



F 1 号掘立柱建物址

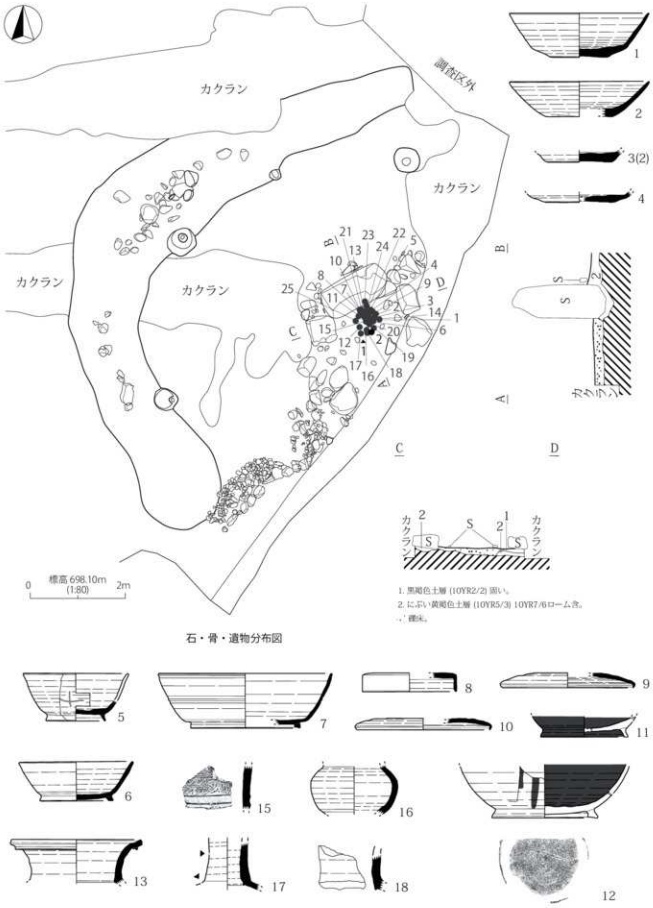


F 2 号掘立柱建物址



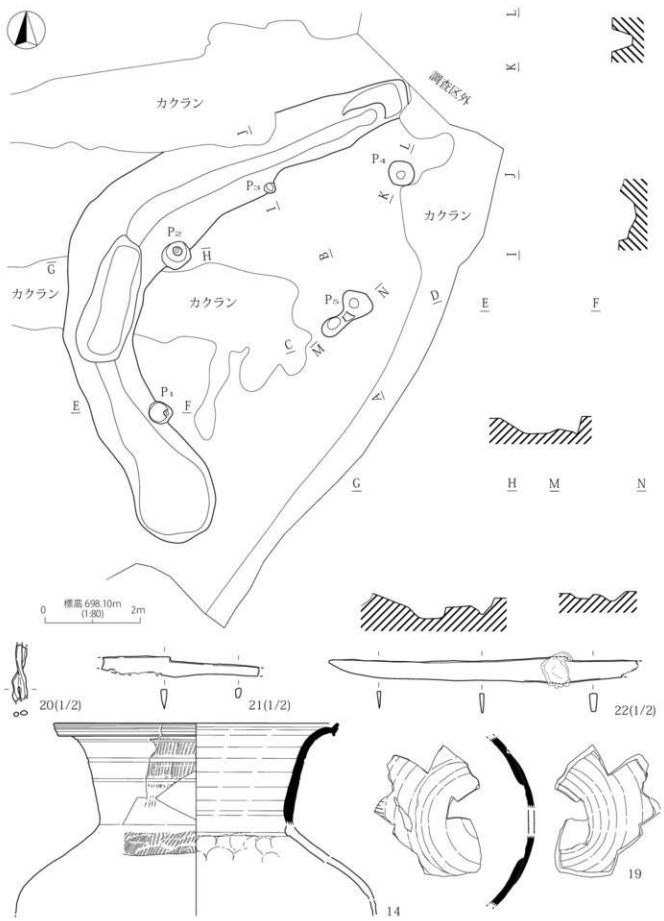
F 3 号掘立柱建物址

第 42 図　掘立柱建物址



石・骨・遺物分布図

第43図　古墳（ＯＴ１）(1)


カクラン
調査区外
カクラン
カクラン
カクラン
P4
P24
P22
P25
P4
標高 698.10m
(1:80)
0
2m
20(1/2)
21(1/2)
22(1/2)
14
19

第44図　古墳（OT1）(2)

10）がある。甕以外は全て赤彩が施される。甕の櫛描文は波状文のものと、斜走文のものがあり、頸部文様帯を有さないものと、櫛描簾状文が巡るものがある。高坏は口縁部が屈折するが、坏下部に稜は持たない。脚部に透かし孔をもつものが存在する。壺は体部下半が屈折し、頸部に櫛描「T」字文が施文されている。口縁部は単純口縁のものと、受口のものが存在する。石器・石製品は黒曜石製のスクレイパーが1点出土しているが混入品であろう。

以上の出土遺物の特徴から本址の時期は、小山編年の弥生時代後期Ⅳ期古に該当するものと思われる。

ＯＴ４円形周溝墓（第 47 図）

ＶＡ６グリットで検出された。P87 に切られ、M1 号溝址を切る。カクランにより著しい破壊を受けていた。長径の外周径 4.49 m、内周径 3.82 m、短径の外周径 4.1 m、内周系 3.63 m、溝の最大幅 0.62 m、最大深度 0.34 mの規模である。主体部は残存していなかった。２か所で溝が切れる平面形態である。

出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

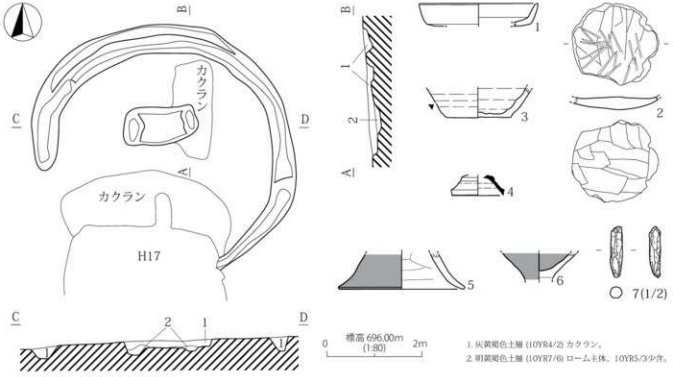
ＯＴ５円形周溝墓（第 48 図）

ＶＡ７グリットで検出された。残存部分では他遺構との重複関係は有さない。溝の最大幅0.32 m、最大深度0.16 mの規模である。主体部は残存していなかった。全容が不明なため平面形態も不明である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

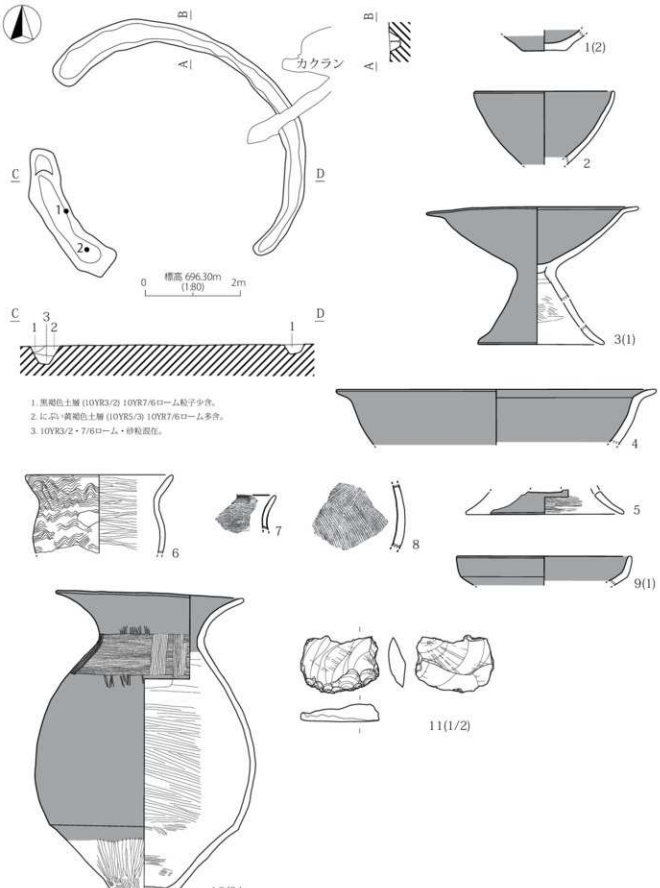
第４節　溝址

Ｍ１号溝址（第 49・50 図）

ⅣＨ５～ⅥＢ７グリットで検出された。H16 号住居址、OT1 古墳、OT4 円形周溝墓、P68、カクランに切られる。検出長 52.53 m、最大幅 1.87 m、最大深度 0.89 m の規模である。底面が極端に狭い「Ｖ」字の断面形状である。北一本柳の弥生集落を囲む環濠の一部分と思われる。

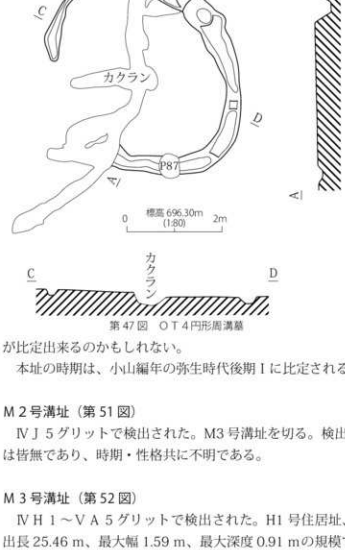


第 45 図　ＯＴ２円形周溝墓



1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6ローム粒子少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/6ローム多含。
3. 10YR3/2・7/6ローム・砂粒混在。

第46図　ＯＴ３円形周溝墓



第 47 図　ＯＴ４円形周溝墓

第 48 図　ＯＴ５円形周溝墓

出土遺物は弥生土器と石器・石製品が認められる。弥生土器には高坏（1・2）、甕（3 ～ 12）、台付甕（13）、壺（14 ～ 22）、甑（23）の器種が認められる。石器・石製品には砥石（24）、台石（25）、磨製石斧（26）、凹石（27・28）、編物石（29・30）、磨石（31）、ガラス質安山岩素材（32）の器種が認められる。土器の時期は同一ではなく、3・5・18 のような後期前半のものと、8 ～ 12・16、20 ～ 22 のような中期後半のものが存在する。石器・石製品の時期も弥生時代以外の土器が混入しない状況から土器と同一の時期が比定出来るのかもしれない。

本址の時期は、小山編年の弥生時代後期Ⅰに比定される。

Ｍ２号溝址（第 51 図）

ⅣＪ５グリットで検出された。M3 号溝址を切る。検出長 5.45 m、最大深度 0.14 m の規模である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

Ｍ３号溝址（第 52 図）

ⅣＨ１～ＶＡ５グリットで検出された。H1 号住居址、F1 号掘立柱建物址、P40、カクランに切られる。検出長 25.46 m、最大幅 1.59 m、最大深度 0.91 m の規模である。底面が極端に狭い「Ｖ」字の断面形状である。M9 号溝址に連結するものと思われるが、未調査部分が介在するため別遺構とした。北一本柳の弥生集落を囲む環濠の一部分と思われる。

遺物は弥生土器、縄文土器、石器・石製品が出土している。弥生土器には鉢（1）、甕（2 ～ 4）、壺（5）の器種が認められる。鉢は内外面赤彩、甕は櫛描波状文のものと斜走文ものがあり、波状文のものは頸部文様帯を有さない。壺は頸部に櫛描簾状文と直線文が横位に密着施文され、その他の外面部分は赤彩が施されている。縄文土器（6）は後期堀之内式の深鉢底部片で、網代底である。石器・石製品には打製石斧片（7）と敲石（8）が認められる。

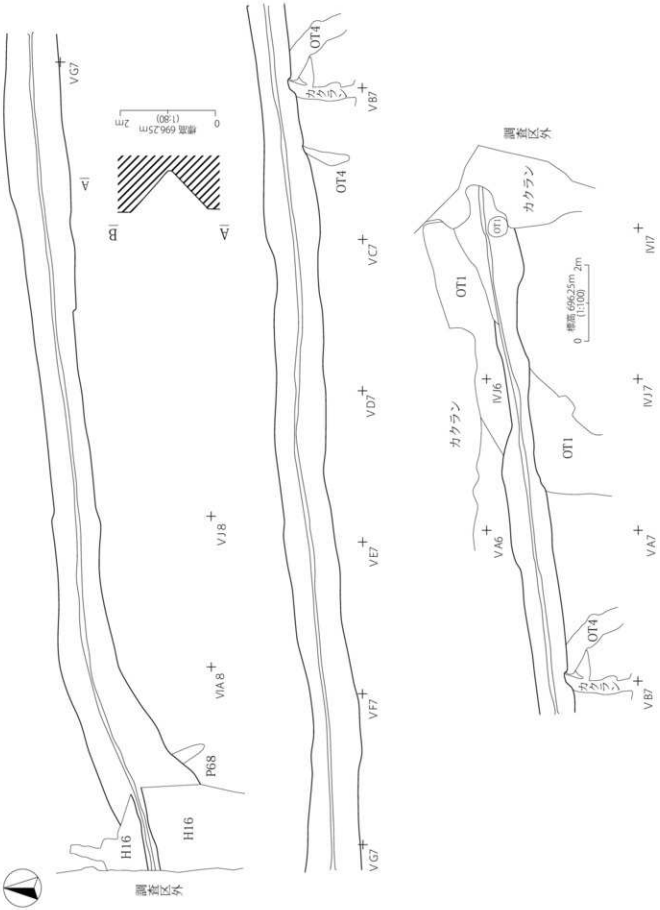
以上の出土遺物から本址の時期は、小山編年の弥生後期Ⅳ期に比定される。

Ｍ４号溝址（第 51 図）

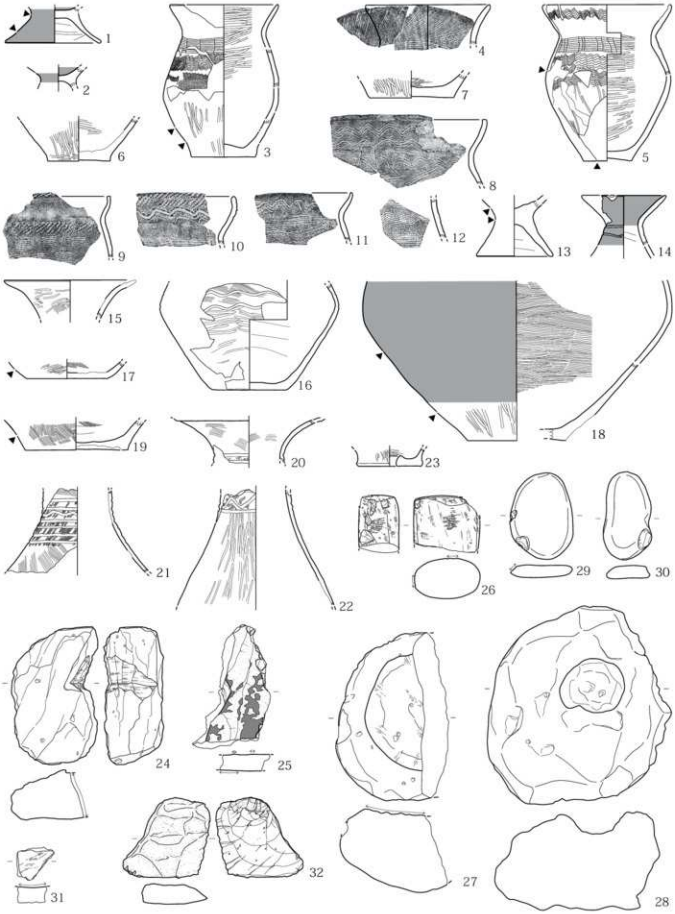
ＩＦ 10 グリットで検出された。調査区東北端部で極めて狭い範囲が確認されたものであり、規模・性格共に不明である。出土遺物も皆無であり、時期も不明である。

Ｍ５号溝址（第 53・54 図）

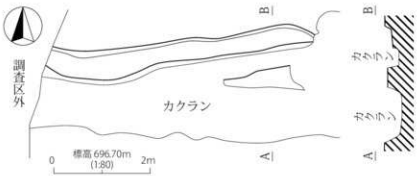
ＩB10 ～ⅡＪ９グリットで検出された。H2、H12 号住居址、M8、M9 号溝址に切られる。検出長 34.27 m、最大幅 1.67 m、最大深度 1.26 m の規模である。底面が極端に狭い「Ｖ」字の断面形状である。北一本柳の弥生


調査区外
H16
H16
P68
VIA8
VJ8
VG7
B
A
標高 696.25m
(1:80)
0
2m
VF7
VE7
VD7
VC7
VB7
VG7
OT4
カクラン
OT4
カクラン
VB7
調査区外
カクラン
OT1
OT1
OT1
IVJ6
VA6
VA7
IVJ7
IVI7
標高 696.25m
(1:100)
0
2m

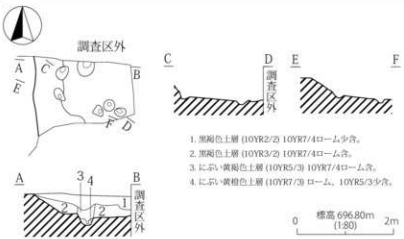
第 49 図　M 1 号溝址（1）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

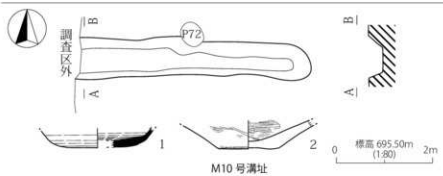
第50図　M1号溝址（2）



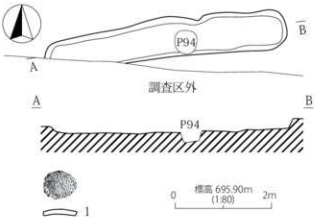
M2 号溝址



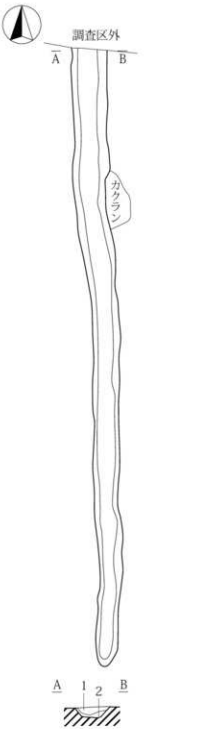
M4 号溝址



M10 号溝址

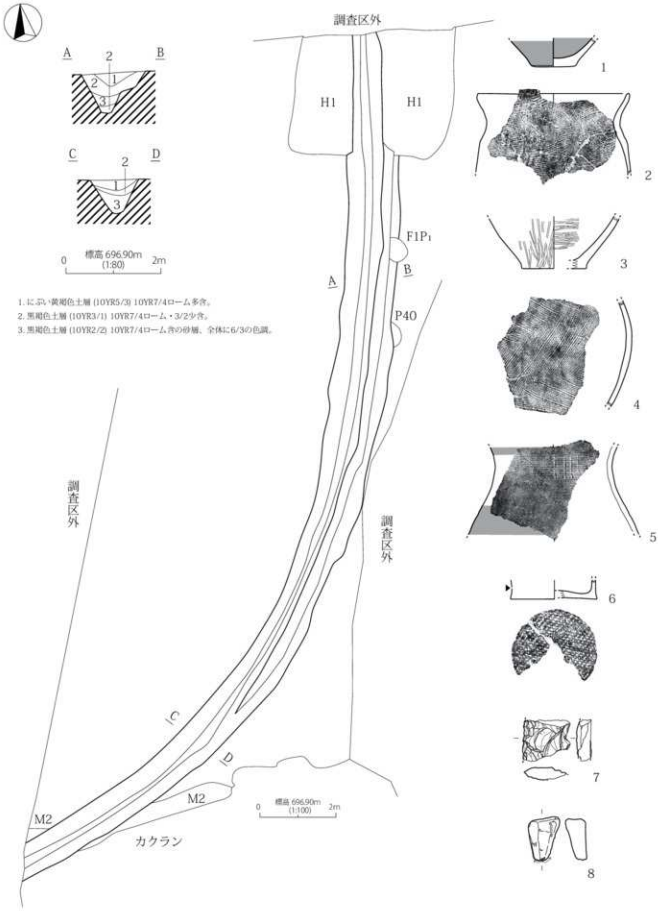


M11 号溝址

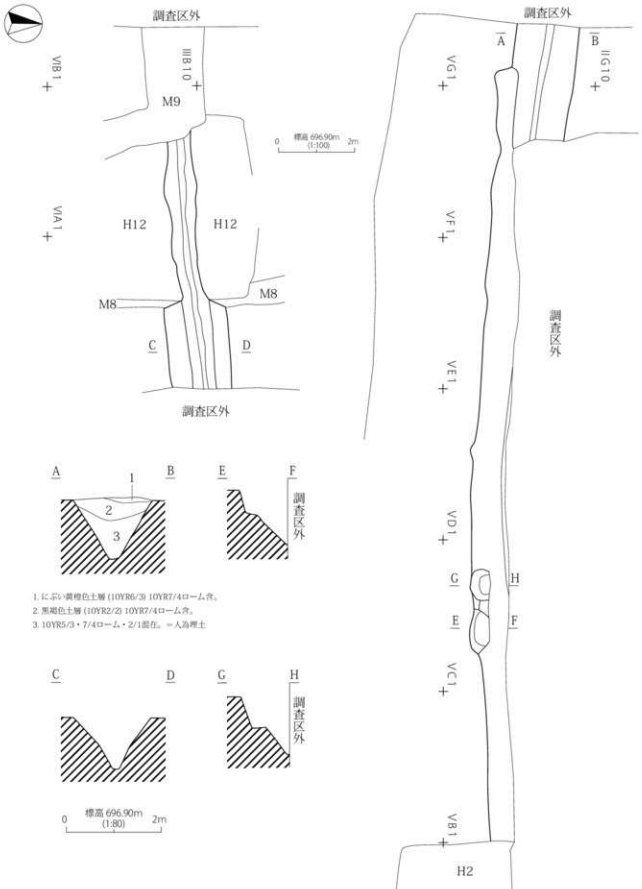


M8 号溝址

第 51 図　M 2・4・8・10・11 号溝址


調査区外
A
2
B
C
D
3
標高 696.90m
(1:80)
0
2m
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
2. 黒褐色土層 (10YR3/1) 10YR7/4ローム・3/2少含。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム含の砂層、全体に6/3の色調。
H1
H1
F1P1
P40
調査区外
調査区外
M2
M2
カクラン
標高 696.90m
(1:100)
0
2m
1
2
3
4
5
6
7
8

第52図　M３号溝址


調査区外
VIB 1
IIIB 10
M9
0 標高 696.90m (1:100) 2m
VIA 1
H12
H12
M8
M8
C
D
調査区外
A
B
1
2
3
E
F
調査区外
1. にぶい黄橙色土層 (10YR6/3 10YR7/4ローム含。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム含。
3. 10YR5/3・7/4ローム・2/1混在。＝人為埋土
C
D
G
H
調査区外
0 標高 696.90m (1:80) 2m
調査区外
A
B
VG 1
IIG 10
VF 1
調査区外
VE 1
VD 1
G
H
E
F
VC 1
VB 1
H2

第 53 図　M 5 号溝址（1）

集落を囲む環濠の一部分と思われる。

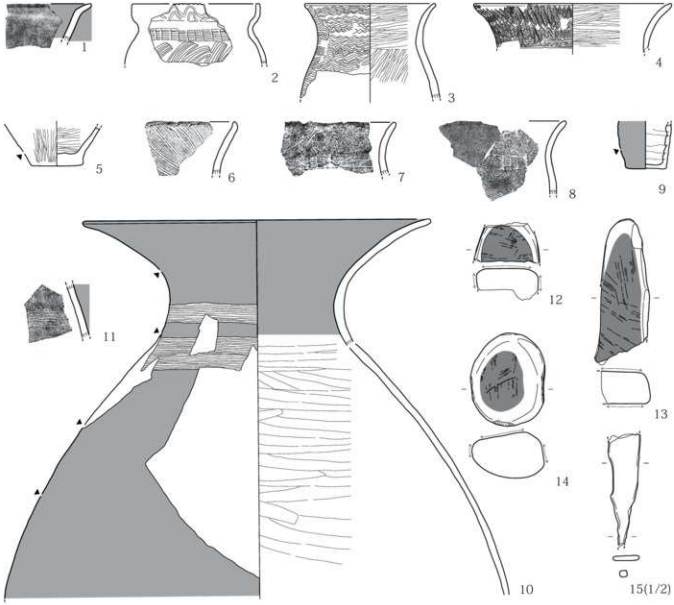
遺物は弥生土器、石器・石製品、鉄器が出土した。弥生土器には高坏（1）、甕（2～8）、人形土器底部（9）、壺（10・11）の器種が認められる。高坏は内外面共に赤彩で、口縁部屈折する。甕は2が中期後半栗林期の他は口縁部と体部は櫛描波状文、頸部には櫛描簾状文が施されるが、3は頸部文様帯を有さない。人形土器底部は外面に赤彩が施され、内面には輪積痕を残している。壺は2点共に頸部に横位の櫛描直線文が施され、赤彩が施される。石器・石製品は磨石（12・13）と磨・敲石（14）が出土している。鉄器は短頸鏃（15）が1点出土した。

以上の出土遺物から本址の時期は、小山編年の弥生時代後期Ⅳ期新に比定される。

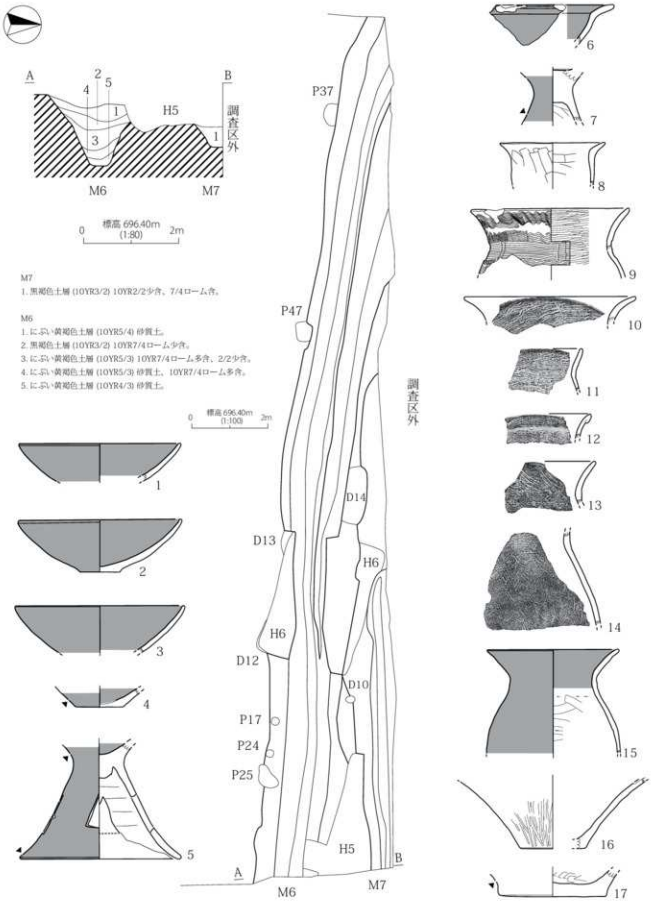
M 6 号溝址（第 55・56 図）

ⅡＦ４～ⅢＢ４グリットで検出された。H5・H6 号住居址、D9・D10・D12～15 号土坑、P16・P17・P19・P20・P24～28・P33・P34・P37・P38・P45～47 に切られる。M7 号溝址を切る。検出長 21.53 m、最大幅 1.81 m、最大深度 1.49 mの規模である。底面が極端に狭い「V」字の断面形状である。北一本柳の弥生集落を囲む環濠の一部分と思われる。また、底面付近の壁に地震によるものと思われる地層のズレが確認された。

遺物は弥生土器、石器・石製品が出土した。弥生土器には鉢（1～4）、高坏（5～7）、甕（8～14）、壺（15



第 54 図　M 5 号溝址（2）



第 55 図　M 6・7 号溝址（1）

～21）の器種が認められる。鉢は全て内外面赤彩が施される。高坏も脚内を除き赤彩が施される。5は脚に三角形の透孔が認められる。また、6は口縁部が屈折する。甕は口縁部と体部が櫛描波状文ないし斜走文、頸部簾状文が基本であるが、8は無文である。12は折り返し口縁である。壺15は無文で、外面と内面口縁部に赤彩が施される。16は底部片で角度的に体部下半で屈折するものと思われる。18・19は中期後半栗林式、20は縄文施文であり、吉ケ谷系の土器であろう。21は頸部にヘラ描き斜状文が施文され、赤彩が施される。石器・石製品は磨製石斧（22）、編物石（23）、磨・敲石（24）、敲石の器種が認められる。

以上の出土遺物から本址の時期は、小山編年の弥生時代後期Ⅳ期古に比定される。

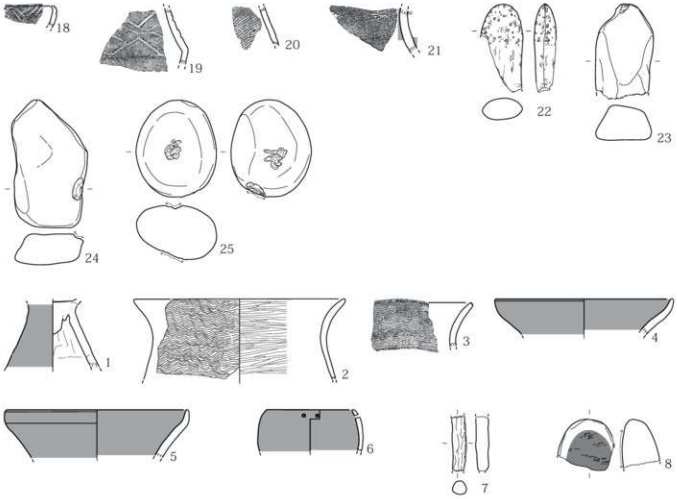
M７号溝址（第55・56図）

ⅡＦ４～ⅡＩ４グリットで検出された。H5・H6号住居址、D10・D11・D14号土坑、P18・P23・P34・P38・P41～44、M6号溝址に切られる。検出長12.93 m、最大幅・最大深度は調査区外に延びるため不明である。M6は本址の付け替えと思われる。

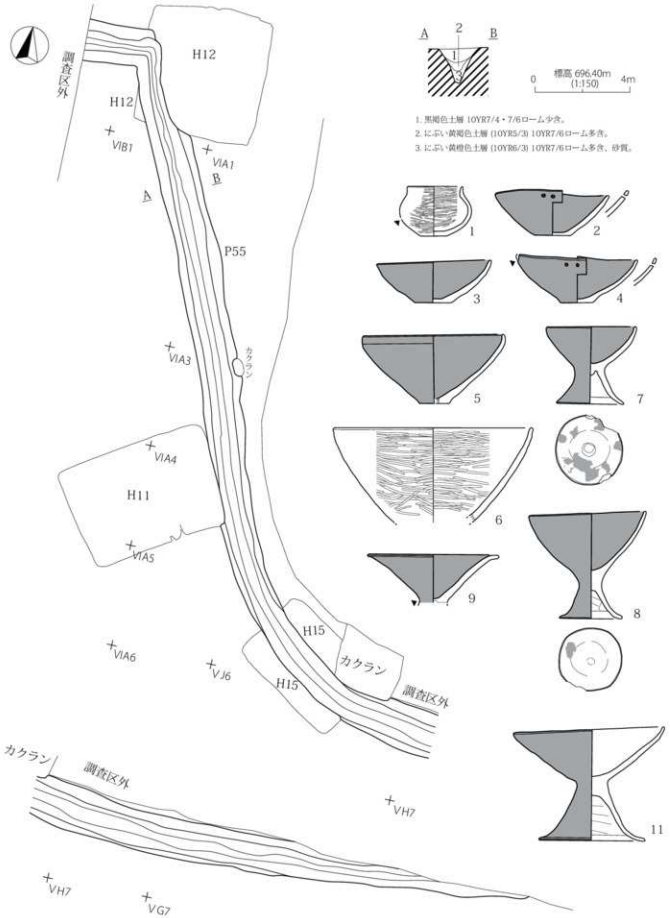
遺物は弥生土器と石器・石製品が出土している。弥生土器には高坏（1）、甕（2）、鉢（3）、壺（4～6）、人形土器（7）の器種が認められる。高坏は脚内を除き赤彩が施される。甕2は頸部文様帯を有さない。3は口唇部に刻目が施される。壺は2点共に受口口縁で、内外面に赤彩が施される。鉢は口縁部に2ケの円孔が穿たれる。内外面に赤彩が施される。人形土器は腕の破片である。石器・石製品は磨石が1点出土している。

以上の出土遺物から本址の時期は、小山編年の弥生時代後期Ⅳ期古に比定される。

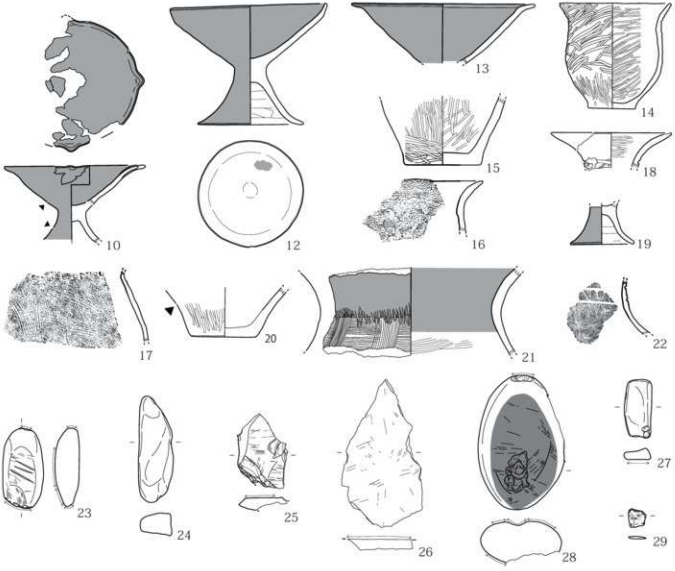
M８号溝址（第51図）



第56図　M６・７号溝址（2）


調査区外
H12
H12
VIB1
VIA1
A
B
P55
VIA3
カクラン
VIA4
H11
VIA5
VIA6
VJ6
H15
H15
カクラン
調査区外
カクラン
調査区外
VH7
VH7
VG7
A
2
B
1
3
標高 696.40m
(1:150)
0
4m
1. 黒褐色土層 10YR7/4・7/6ローム少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/6ローム多含。
3. にぶい黄橙色土層 (10YR6/3) 10YR7/6ローム多含、砂質。
1
2
3
4
5
7
6
9
8
11

第57図　M9号溝址（1）



第 58 図　M 9 号溝址（2）

ⅡＪ８～ＶＪ１グリットで検出された。カクランに切られ、H12 号住居址・M5 号溝址を切る。検出長 12.85 m、最大幅 0.8 m、最大深度 0.24 m の規模である。断面は逆梯形の形状である。出土遺物は皆無であり時期・性格共に不明である。

M 9 号溝址（第 57・58 図）

ＶＤ６～ⅢB10 グリットで検出された。H11・H12・H15 号住居址、P55、カクランに切られ、M 5 号溝址を切る。M3 号溝址に連結するものと思われるが、未調査部分が介在するため別遺構とした。検出長 47.43 m、最大幅 1.83 m、最大深度 1.26 m の規模である。底面が極端に狭い「V」字の断面形状である。北一本柳の弥生集落を囲む環濠の一部分と思われる。

遺物は土師器、弥生土器、石器・石製品が出土している。土師器は 1 の小型の広口壺が出土した。内外面ヘラミガキ調整が施されている。弥生土器には鉢（2 ～ 6）、高坏（7 ～ 13）、甕（14 ～ 17）、壺（18 ～ 22）の器種が認められる。鉢は全てが内外面にヘラミガキ後赤彩が施される。2・4 は口縁部に横並びに円孔が 2 ヶ所に穿たれている。高坏は脚内面以外はヘラミガキ後赤彩が施されている。7・8・12 は脚内に斑点状に赤彩が付着している。形態的には口縁部が屈曲する 9・10・13 と、しない 8・11・12 が存在する。甕は櫛描き斜走文が施される、14 や 17 と櫛描波状文が施される 16 が認められる。時期的には 17 が中期後半の他は後期後半の所産と思われる。壺は赤彩されない 18・22 のような中期後半栗林期のものと、赤彩が施される後期後半の

19・21 が出土している。石器・石製品は砥石（23）、編物石（24）、磨石（25・26）、磨・敲石（27・28）、石製模造品の素材（29）が出土している。

以上の出土遺物から本址は弥生時代後期後半の所産と思われる。

M 10 号溝址（第 51 図）

ⅥＡ８グリットで検出された。P72 に切られ、H16 号住居址を切る。検出長 4.78 m、最大幅 0.89 m、最大深度 0.30 mの規模である。断面は逆梯形の形態である。遺物は須恵器坏と土師器壺が出土している。須恵器坏は底部回転ヘラ切りであり、壺の形状も加味すると本址は聖原編年の奈良・平安時代Ⅱ期ぐらいに位置付けられる。性格は不明である。

M 11 号溝址（第 51 図）

ＶＣ９グリットで検出された。P94、石組２に切られる。長辺 5.06 m、短辺 0.83 m、最大深度 0.55 mの規模である。出土遺物は、弥生時代後期の甕の体部片を再利用した土器片円盤が１点出土している。時期・性格共に定かではないが、弥生時代後期の方形周溝墓の可能性がある。

第５節　土坑

Ｄ１号土坑～Ｄ 23 号土坑（第 59 ～ 61 図）

検出位置、規模等については計測表を参照願いたい。調査範囲内において２ヶ所に集中して検出されている。１ヶ所は調査区北端部分であり、弥生時代の環濠Ｍ６・７号溝址からＨ３号住居址周辺に集中するもので、他の遺構を切って構築されている。形態は隅丸の方形や楕円である。小径のピットもこの部分に集中している。数少ない出土遺物や形態的特徴から中世のものと思われ、北一本柳や東一本柳から連続する中世遺構群の南限であろう。もう１ヶ所は調査区東南端部分で、弥生時代後期の墓域と重なる部分である。時期・性格を確定できるような遺物の出土はないが、弥生時代後期の墓壙の可能性もある。Ｄ 23 号土坑は唯一縄文時代の陥穴である。

尚、石組とした２基の集石遺構は時期・性格共に不明であり、断ち割ってみたが下部に掘り込みは認められなかった。出土遺物はない。

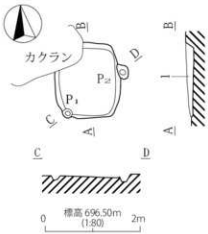
第６節　ピット

Ｐ１～Ｐ 99（第 62 ～ 66 図）

99 基検出された。検出位置、規模等については計測表を参照願いたい。土坑同様に調査区北端部分に中世と思われる小径のものが集中して検出されている。多くのものは出土遺物はなく時期・性格共に不明である。

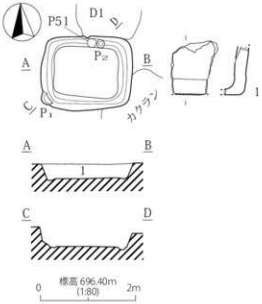
第７節　遺構外出土遺物（第 67 図）

弥生土器、土師器、石器・石製品、鉄器・鉄製品、銅製品が認められる。弥生土器は口唇部に縄文が施される中期後半栗林式の壺片が１点出土している。赤彩は施されない。土師器は坏、高坏、鉢が各１点出土している。いずれも内面ヘラミガキ黒色処理が施され、外面はヘラケズリ後ヘラミガキ調整が施される。坏と鉢はＨ３付近で立木の抜根時に出土したようで、調査直前の現地協議時に採取した。時期的には古墳時代後期７世紀前半のものである。石器・石製品は加工痕の有る剥片が１点出土している。鉄器は刀子が１点、鉄製品は釘が４点、銅製品は古銭（永楽通宝）が１枚出土している。



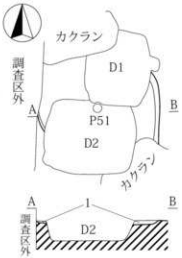
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム極少含。

D1 号土坑



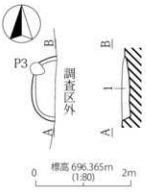
1. 10YR5/3・7/4ローム・2/2混在。

D2 号土坑



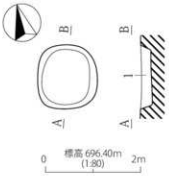
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム極少含。

D3 号土坑



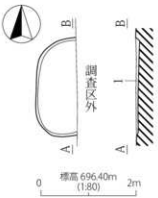
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム含。

D4 号土坑



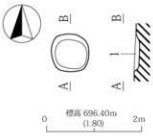
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム含。

D5 号土坑



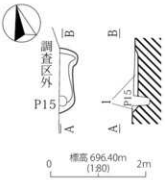
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・2/2少含。

D6 号土坑



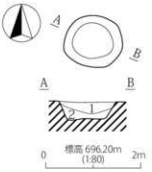
1. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム、10YR3/2少含。

D7 号土坑



1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。

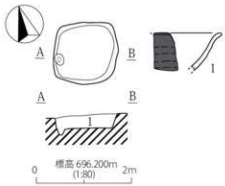
D8 号土坑



1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム極少含。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・2/2含。

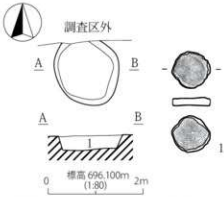
D9 号土坑

第 59 図　土坑 (1)



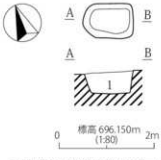
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含、2/2少含。

D10 号土坑



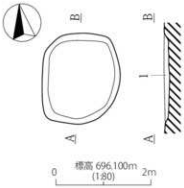
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・2/2極少含。

D11 号土坑



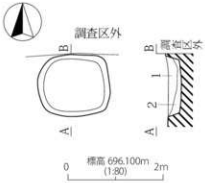
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム含。

D12 号土坑



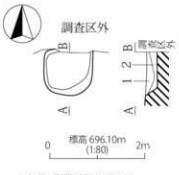
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム極少含。

D13 号土坑



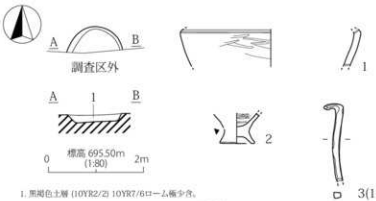
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・2/2含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。

D14 号土坑



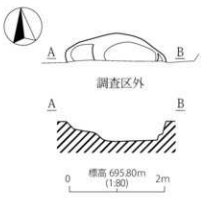
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3)。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム少含。

D15 号土坑

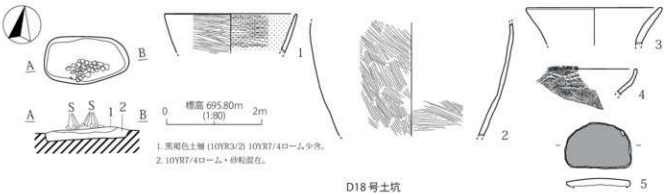


1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/6ローム極少含。

D16 号土坑



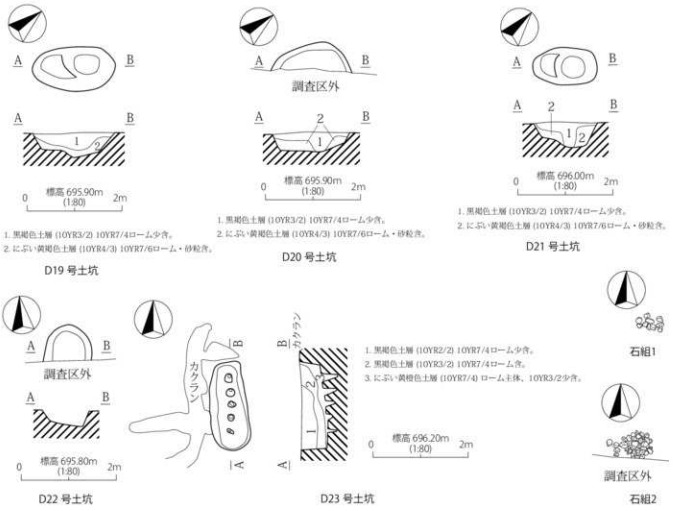
D17 号土坑



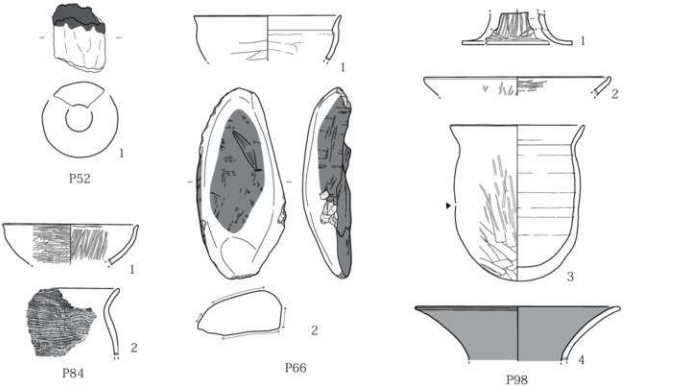
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。
2. 10YR7/4ローム・砂粒混在。

D18 号土坑

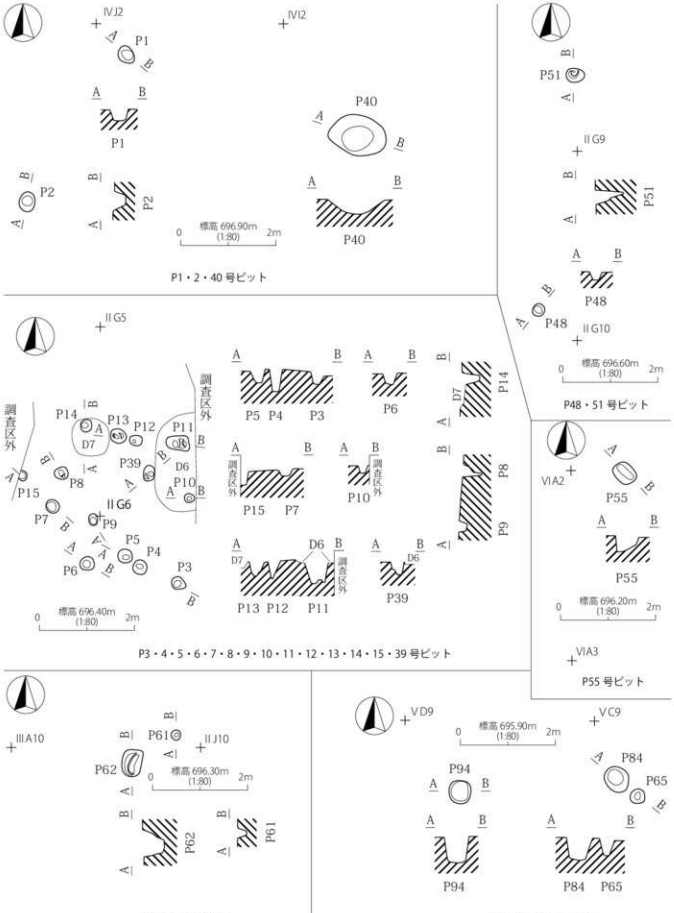
第 60 図　土坑 (2)



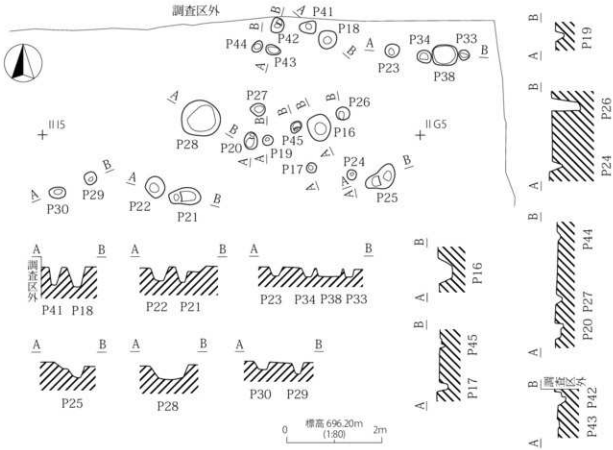
第 61 図　土坑 (3)



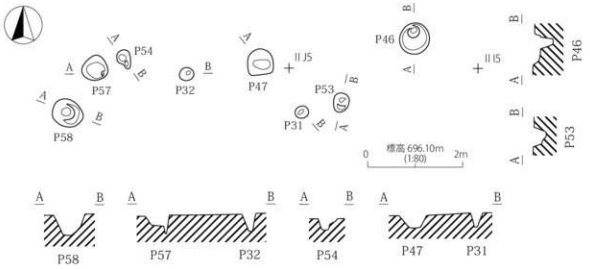
第 62 図　ピット出土遺物


IVJ2
IVI2
P1
P2
P40
標高 696.90m
(1:80)
0
2m
P1・2・40 号ピット
P51
IIG9
P48
IIG10
標高 696.60m
(1:80)
P48・51 号ピット
IIG5
調査区外
P14
P13
P12
P11
P39
D6
D7
P10
P15
P8
P7
IIG6
P9
P5
P4
P6
P3
P15 P7
P10
P13 P12 P11
P39
標高 696.40m
(1:80)
P3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・39 号ピット
VIA2
P55
標高 696.20m
(1:80)
VIA3
P55 号ピット
IIIA10
IIJ10
P61
P62
標高 696.30m
(1:80)
P61・62 号ピット
VD9
VC9
標高 695.90m
(1:80)
P94
P84
P65
P65・84・94 号ピット

第 63 図　ピット (1)

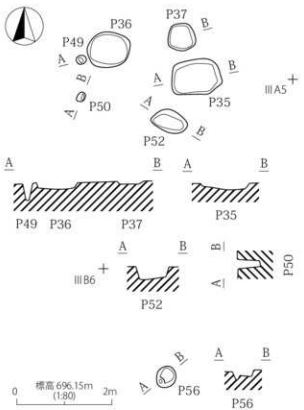


P16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・33・34・38・41・42・43・44・45 号ピット

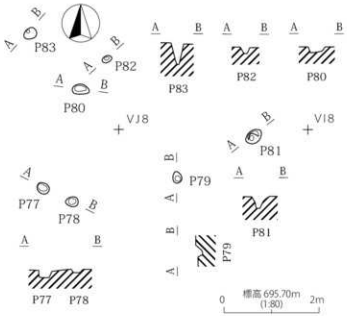


P31・32・46・47・53・54・57・58 号ピット

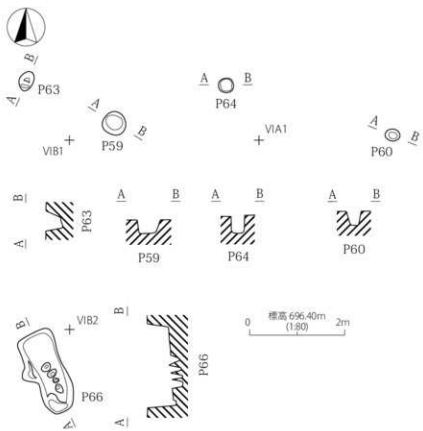
第 64 図　ピット (2)



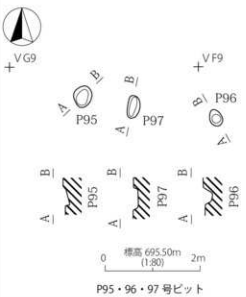
P35・36・37・49・50・52・56号ピット



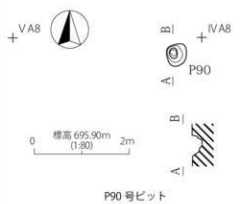
P77・78・79・80・81・82・83号ピット



P59・60・63・64・66号ピット

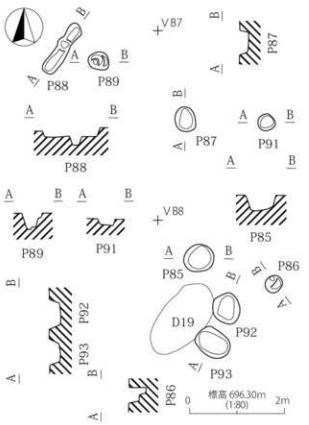


P95・96・97号ピット

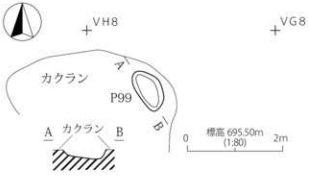


P90号ピット

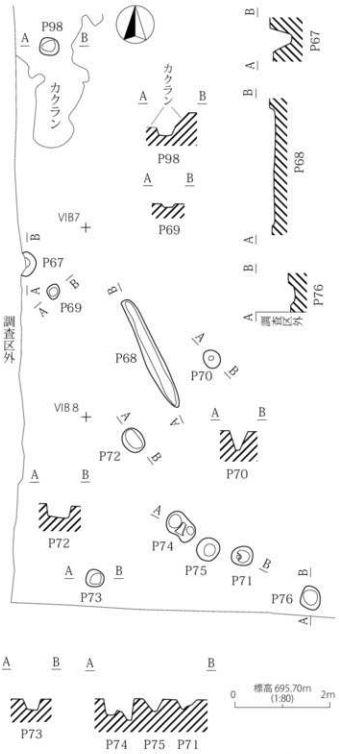
第65図　ピット(3)



P85・86・87・88・89・91・92・93 号ピット

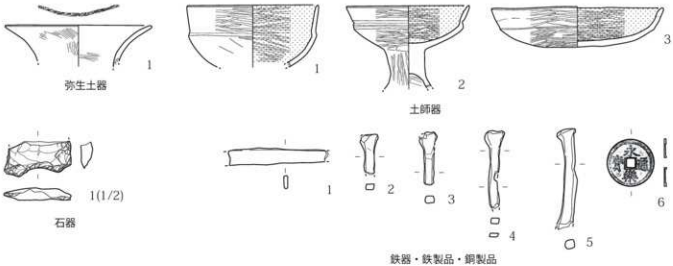


P99 号ピット



P67・68・69・70・71・72・73・74・75・76・98 号ピット

第 66 図　ピット (4)



第 67 図　遺構外出土遺物

第Ⅴ章　まとめ

第 1 節　弥生時代の環濠について

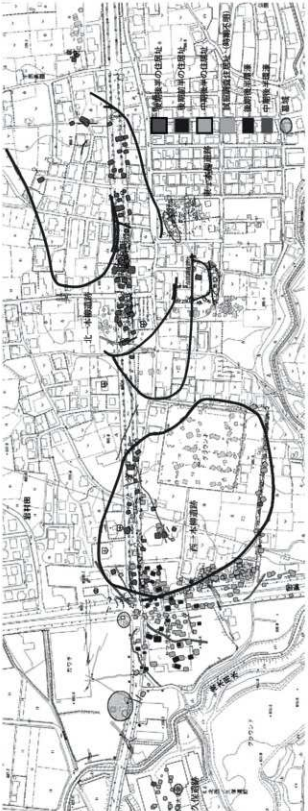
今回の調査では北一本柳遺跡に付随する環濠が複数検出された。その結果、単一時期の所産ではないこと、形状も単純な楕円形のようなものではないことが明らかとなった。そこで、北西の久保、西一本柳、北一本柳遺跡で実施された、過去の調査結果を検証し、明らかとなっている弥生時代住居址と環濠を地図上に表現（第 68 図）してみたところ以下のことが判明した。

1. 集落
- 北西の久保遺跡、西一本柳遺跡では中期後半栗林期に集落が成立し、後期後半まで継続する。
- 北一本柳遺跡では、後期後半に集落が成立する。ただし、北一本柳遺跡の東南東方向に隣接する西八日町遺跡では、栗林期の住居址が存在し、更に古い前期の土器も出土している。

2. 墓域
- 北西の久保遺跡には、後期集落の北東部分に礫床木棺墓群と四隅切の方形周溝墓が存在する。方形周溝墓は後期前半に比定されるが、礫床木棺墓群の時期は判然としない。
- 西一本柳遺跡では、集落の北西部分に後期前半の方形周溝墓が存在する。形態的には四隅切と円形である。
- 北一本柳遺跡では、集落の南端に周溝墓群が存在する。時期は後期後半、形態は円形である。

3. 環濠
- 北西の久保遺跡では、今ところ発見されていない。
- 西一本柳遺跡では中期後半栗林期に成立している可能性が強く、後期には北西－南東方向に長い楕円形で、一重のものが存在する。
- 北一本柳遺跡では、おおよそ 3 期に及ぶ環濠の掘削が想定され、今回の調査で明らかとなった張り出しのような部分も認められる。もしも、この張り出し部分に存在する住居が今回調査されたＨ４だけであるとしたら、この家の性格は極めて特殊なものであった可能性があるのではないだろうか？

この地域の弥生集落は、前期に湯川沿いの下信濃石遺跡から西八日町遺跡に入植した人々が端緒となり、中期後半栗林期に北西の久保遺跡や西一本柳遺跡に大規模集落を成立させた。後期前半に入ると北西の久保遺跡や西一本柳遺跡では規模の縮小化が見られ、後半に入り北西の久保遺跡では更に縮小化するが、西一本柳遺跡は拡大する。この時期に北一本柳の集落は成立し、隆盛する。北一本柳遺跡の東に存在する西八日町遺跡や、北西の久保遺跡の西に存在する五里田遺跡も含め隣接した位置で同時期に存在していることから、連合体を形成していた



第 68 図　西一本柳遺跡周辺集落の様相

ものと思われる。それは、北一本柳遺跡の環濠西端部に呼応するかのように凹んだ西一本柳遺跡の環濠東端部形状にも表れているように思われる。

環濠の性格、あるいは掘削する目的についてであるが、本来は防御施設であり掘削土を盛り上げた土塁も存在したのであろうが、規模的に防御施設としては機能しないと思われる。第２節で後述する、人形土器の役割を辟邪と捉え、その対象を環濠集落全体と考えるのであれば、環濠は外敵だけではなく、「邪」に対する結界も目的として掘削されたと捉えることも可能かもしれない。

（佐久市内の遺跡で検出されている環濠すべてについて同様なことが言える。防御施設としては機能しないと思われる。）

第２節　人形土器について

佐久市の弥生時代を代表する遺物のひとつである西一本柳遺跡Ⅰ出土の土偶形容器頭部１は、今回の調査地点の西方 100 m で出土したものである。このような人形の造形物が、佐久市岩村田地域では前期から後期後半まで作られ続けたことが、出土資料の増加により近年明らかとなってきた。（もうひとつの分布集中地域である長土呂地域では、後期を遡るものは今のところ発見されていない。）

佐久地方において、弥生時代の人形造形品の存在が初めて認識されたのは、昭和９年の「北佐久郡の考古学的調査」に記載された伝鷺林出土の中佐都小学校収蔵品である。この中で八幡一郎は、この資料と縄文時代の中空土偶や古墳時代の埴輪との差異を明らかとし、弥生時代の土偶と位置付けた。また、壺に人面表現を施す人面付土器とも区別をした。そして、弥生時代の土偶として日本最初の発見であるとした。しかし、この文献が正確に継承されなかったため、昭和 63 年刊行の「長野県史　考古資料編　遺構・遺物」では鷺林古墳出土埴輪として前掲文献掲載写真から図化されたと思われる図と共に掲載されている。その後、平成 24 年に堤隆により展開写真と実測図が作成され、佐久考古通信 No110 に「赤彩された弥生顔面－佐久市中佐都小学校所蔵資料－」として紹介されたが、前掲した二つの文献が検証されておらず、出土地は中佐都地区が想定された。この後、伝鷺林出土の中佐都小学校所蔵資料については、堤氏の文献が引用され続け今日に至っている。弥生時代の人形土器の研究において、先見的な八幡文献が継承されなかったことが悔やまれる。

現在までのところ、市内で出土した弥生時代の人形の造形品は下信濃石遺跡－１点、西八日町遺跡－１点、西一本柳遺跡－４点、北一本柳遺跡－４点（今回調査分３点を含む）、東一本柳遺跡－３点（陽器形土製品１点を含む）、北

西の久保遺跡－１点、大豆田遺跡－１点、西近津遺跡群－ 18 点、西一里塚遺跡群－２点、既出資料として中佐都小学校収蔵の伝鷺林出土品１点の計 36 点が確認されている。下信濃石遺跡の１点、西八日町遺跡の１点、北西の久保遺跡の１点と西一本柳遺跡の２点、西一里塚の１点以外は後期の所産であり、出土数からは後期に盛行した様子が伺える。

北西の久保遺跡の３、西一本柳遺跡出土の１・２、（西一里塚の１点も中期の土偶形容器の女性像と思われ、時期的には中期前半に遡る可能性もある）は、中期後半のもので３例共に男性像の土偶形容器であり、全て頭部あるいは頭部片である。頭部以外の部分が確認されていない理由は、土器と異なる部分がないか、極めて少ないことに起因するのかもしれない。赤彩は部分的ないし施されておらず、頭部にターバンのような布を巻いたかのような表現は共通している。西一本柳の１と北西の久保例は頭頂部が開口するが、西一本柳の２は、閉じている。（櫻井秀雄氏はこれを土偶形容器の開口部の蓋と考えている。）出土場所は西一本柳の２例は住居址、北西の久保は遺構外であるが、住居址出土例２点も住居址に帰属するものではない。

後期のものは、形態的には群馬県渋川市「有馬遺跡」出土例と同様のものが多いようである。赤彩を施すものがほとんどであり、外面は成形痕を消去するが、内面には輪積痕をそのまま残している。腕が付くものも多いらしく、腕の部位の出土例は多い。足の表現は行わず、体部下半は土器底部同様の形状と思われる。出土場所については環濠覆土や他時期の住居址覆土などであり、その他には遺構に伴なう例はない。完形での出土例はなく、全てが破片で出土している。出土状態から考えると人為的な破壊後に廃棄されている可能性が高く、成形時の内面輪積痕がそのままであることも、製作時から破壊を前提に作られているように感じられ、縄文時代の土偶と共通する要素も多いように思われる。設楽博巳氏や櫻井秀雄氏は、この様な人面付土器の役割を墓に添えて邪霊を防ぐ「辟邪」にあると捉えている。辟邪の対象が、墓だけに限定されるのではなく、環濠に囲まれた集落全体であったと捉えることは出来ないであろうか？そのように考えるならば、環濠からの出土例が多い事の一つの回答になるように思われる。

７の陽形土製品については、人形の造形物という観点から掲載したが、調査報告書でも述べられているように、胎土や造りは人形土器と同じである。人形土器の一部分であるか否かについては現時点では判断出来ない。また、下信濃石遺跡出土例は前期のものであり、頭部が表現されない事、腰から足にかけての形態、刺突文などから「Ｔ字形土偶」の範疇で捉えられるものと思われ、現時点では佐久市出土の最も古い弥生時代の人形造形品である。西八日町遺跡出土例は未報告資料であるが、弥生時代中期前半以前の「黥面の後頭部結髪土偶」である。

以上の出土例から推測される佐久地方における弥生時代の人形造形品の変遷は、前期の「Ｔ字形土偶」から「黥面の後頭部結髪土偶」や佐久穂町館遺跡のような「黥面の土偶形容器」に変化し、中期後半には「土偶形容器」の黥面表現が消失する。そして、後期に至り弥生時代の人形造形品が完成したものと思われる。人形土器の終焉については現時点では定かではないが、桐原健氏は長野市若穂町出土の挙手人面土師器に連なるとの見解を提示している。

第３節　仮称「一本柳型壺」の提唱

弥生時代後期後半の壺型土器の頸部文様帯が多段密着の一帯構成で、文様帯部分に赤彩を施さないことは千曲川流域に共通である。しかし、佐久の一本柳地域では弥生時代後期箱清水期後半（小山岳夫の佐久地域弥生編年の弥生時代後期Ⅳ期）になると、密着施文されていた頸部文様帯を二帯に分離するものが出現する。二帯間に生じる無文帯には赤彩を施すため、明確な意図をもって文様帯を分離しているものと思われる。類例を探すと西一本、北一本柳遺跡以外にはほとんど存在しないことが判明した。佐久市内では西一里塚遺跡に１例、西八日町遺跡に１例、古仁田遺跡Ⅱに３例（確実なものは１例）、群馬県富岡市南蛇井増光寺遺跡に３例が認められるだけであることから、この壺型土器を仮称「一本柳型壺」と命名し、弥生時代後期箱清水期後半の佐久一本柳地域に特有な土器として提唱する。

仮称「一本柳型壺」の定義

１．頸部文様帯が横位２帯に分割される。

2．文様帯間の無文部分にも赤彩が施される。
3．施文は櫛描で、簾状文、直線文、T字文、波状文及びこれらの組み合わせで描かれる。
4．器形は同時期の佐久地域の壺型土器と同様であり、赤彩が施される。
5．口縁は単口縁と受口があり、単口縁のものには突起が付加されるものもある。また、受口の場合は横位櫛描波状文が施される。稀有な例であるが、単口縁内面に櫛描波状文が施されたものが存在する。
6．時期的は箱清水期後半に位置付けられる。（小山編年Ⅳ期古・新）
7．地域的には西一本柳遺跡、北一本柳遺跡を中核とすることは明らかであるが、分布域は確定できていない。
8．成立過程・終焉は明らかではないが、佐久市北西部に位置する長土呂地域の、周防畑遺跡群や西近津遺跡群の弥生後期集団は、吉ケ谷式・系の土器を受容していることが小山岳夫などにより指摘されている。長野県埋蔵文化財センターが行った西近津遺跡群の調査では、第71図－23の土器が出土している。器形や赤彩などは当地方の特徴を備えるが、横位2帯に分割施文された頸部文様帯には縄文が施文される。縄文を櫛描文に換えれば一本柳型壺であり、一本柳型壺の成立が吉ケ谷式・系土器に由来する可能性が指摘出来る。終焉時期についても定かではないが、小山編年古墳時代前期Ⅰ期頃と思われる。

尚、縄文施文ではないが、刺突による疑似縄文とも言うべき文様が認められる甕が1点北一本柳遺跡ⅢのM16号溝址から出土している。吉ケ谷式・系土器の影響と思われる。

第4節　頸部「T字文」施文甕について

後期後半の箱清水式期の甕型土器の文様帯構成は口縁部、頸部、体部上半の3帯構成が基本である。佐久地域では、口縁部と体部上半の文様帯には櫛描波状文か櫛描斜走文が施文されるが、頸部文様帯は簾状文が施文されるのが普通であり、直線文のものや、文様帯そのものが存在しない例は見出せるが、頸部「T字文」施文甕の出土例は皆無であった。長野県では、頸部「T字文」施文甕は、上田市の和手遺跡で発見されたのが初例であり、現在までのところ出土数も最多である。その為、頸部「T字文」施文甕は上田地域に特有な存在と考えられてきた。ところが、頸部「T字文」の甕が北一本柳遺跡Ⅲで2例、西一本柳遺跡ⅩⅣの調査で1例の出土が確認された。北一本柳遺跡ⅢのH37号住居址－8（頸部に簾状文とT字文の両方が施文され、口縁部内面に赤彩が施される。口縁部と体部上半文様帯には波状文が施される。）、M20号溝址－119（頸部「T字文」、口縁部と体部上半文様帯には波状文が施される。）、西一本柳遺跡ⅩⅣのM12号溝址－52（頸部「T字文」、口縁部と体部上半は斜走文）である。

さて、北一本柳遺跡Ⅲ・西一本柳遺跡ⅩⅣ出土の頸部「T字文」施文甕の系譜をどこに求めるかが問題となるが、今回「人形土器」について調べていく過程で、群馬県「有馬遺跡Ⅱ」報告書中に多数の類例を認めたため、群馬県の同時期の遺跡について、可能な限り報告書等を当たってみたが発見できなかった。時期的には、有馬遺跡の甕は「樽式土器」後期3期のものであり、時期的な矛盾はないように思われる。何れにせよ、頸部「T字文」施文甕の出自や系譜を考えるうえで新たな方向性を示唆する資料の発見と思われる。

蛇足であるが、折り返し口縁の存在も、積極的に「樽式土器」の影響と捉えて良いようにも思われる。

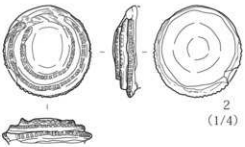
（西一本柳ⅩⅣの頸部「T」字文甕については小山2016においてその存在が指摘されている。）

第5節　石製模造品工房址について

石材産地について　2014年に、佐久市出土の古墳時代玉類の化学分析・鉱物分析、産地同定を、㈱第四紀地質研究所の井上巌氏が行った。分析資料は佐久市の北部に位置する下聖端遺跡Ⅱ・Ⅲと、南部に位置する市道遺跡Ⅲ出土の所謂「滑石」製玉類であった。結果は、下聖端遺跡Ⅱ・Ⅲのものは群馬県藤岡市大奈良、甘楽町秋畑産、市道遺跡Ⅲのものは群馬県藤岡市大奈良、甘楽町秋畑産のものと兵庫県八鹿系のものであり、佐久市内の遺跡出土「滑石」製玉類の主要な原石産地として、群馬県藤岡市大奈良、甘楽町秋畑産などの三波川帯を示唆するものであった。

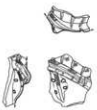
1
(1/4)

西一本柳Ⅰ　H3 号住居址



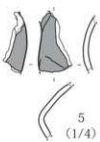
2
(1/4)

西一本柳ⅩⅣ　H25 号住居址

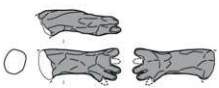


3
(1/4)

北西の久保Ⅱ　グリット

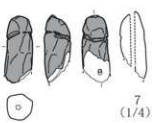


5
(1/4)

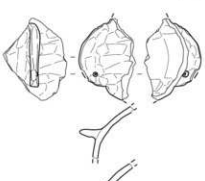


6
(1/4)

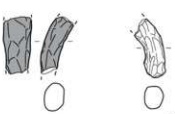
東一本柳Ⅱ　グリット



7
(1/4)



8
(1/4)



9
(1/2)

10
(1/2)

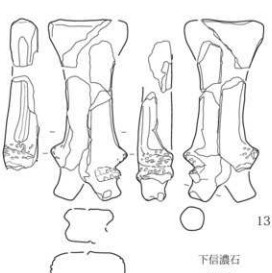
西一本柳ⅩⅦ　グリット

11
(1/2)

北一本柳Ⅲ　H19 号住居址

12
(原寸)

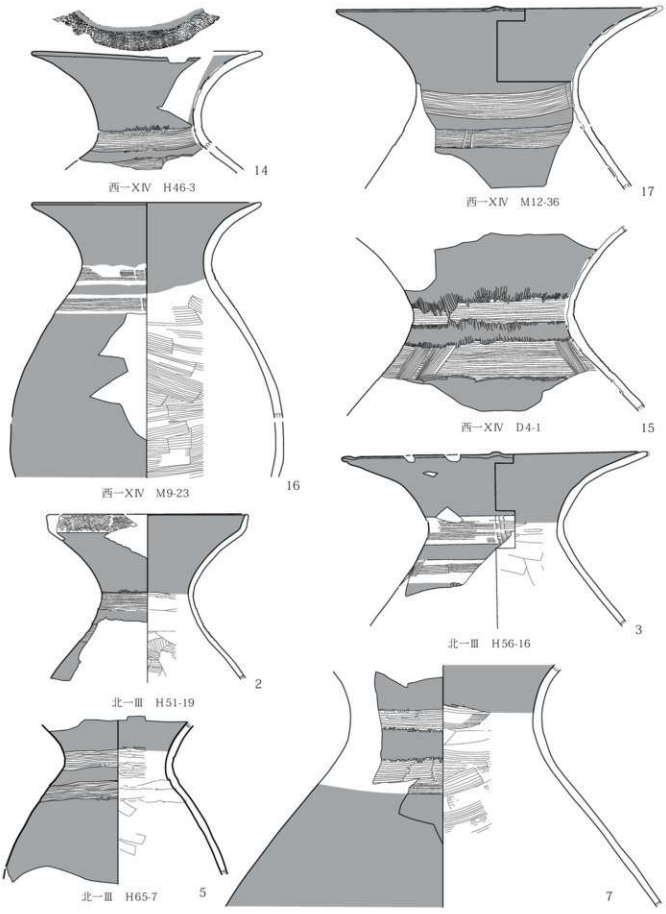
西八日町　未報告



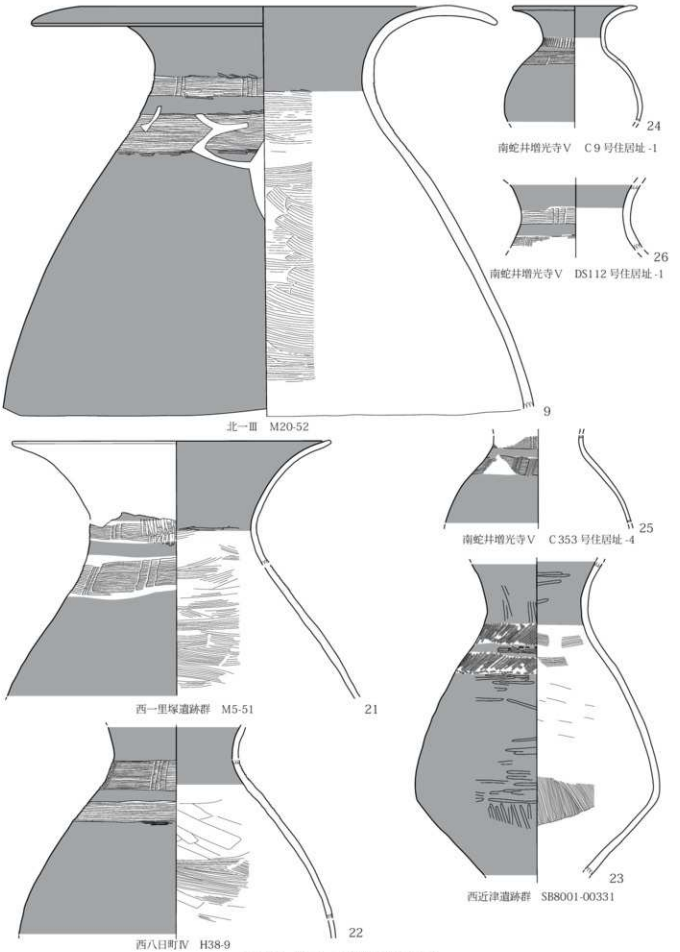
13

下信濃石
(1/4)

第 69 図　北・東・西一本柳遺跡、西八日町遺跡、下信濃石遺跡出土人形土器



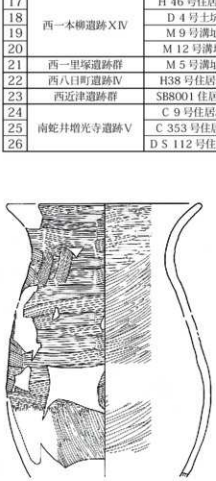
第70図　仮称「一本柳型壺」集成図（1）



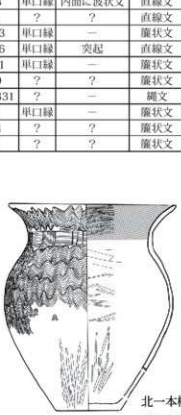
第 71 図　仮称「一本柳型壺」集成図（2）

仮称「一本柳型壺」一覧表（拓影＋断面資料は割愛してある）

No.	遺跡名	遺構名	土器No.	口縁	口縁文様	上段文様	下段文様	時期	備考
1	北一本柳遺跡Ⅲ	H 1 号住居址	34	?	?	簾状文	波状文	Ⅳ期古	
2		H 51 号住居址	19	受口	波状文	直線文	?	Ⅳ期古	
3		H 56 号住居址	16	単口縁	突起	簾状文	T字文	Ⅳ期新	
4		H 61 号住居址	20	?	?	直線文	直線文	Ⅳ期古	
5		H 65 号住居址	7	?	?	直線文	直線文	Ⅳ期古	
6		M 1 号溝址	48	?	?	簾状文	簾状文	Ⅳ期古	
7		M 16 号溝址	68	?	?	直線文	直線文	Ⅳ期古	
8		M 17 号溝址	70	?	?	直線文	直線文	Ⅳ期古	
9		M 20 号溝址	52	単口縁	—	簾状文	直線文	Ⅳ期古	
10			60	?	?	直線文	直線文	Ⅳ期古	
11			64	?	?	直線文	直線文	Ⅳ期古	
12			72	?	?	簾状文	直線文	Ⅳ期古	
13			80	?	?	直線文	直線文	Ⅳ期古	
14	西一本柳遺跡XXⅡ	H 4 号住居址	12	受口	波状文	簾状文	直線文	Ⅳ期古	
15			13	単口縁	—	直線文	直線文	Ⅳ期古	
16		M 5 号溝址						Ⅳ期古	
17	西一本柳遺跡XⅣ	H 46 号住居址	3	単口縁	内面に波状文	直線文	T字文	Ⅳ期古	
18		D 4 号土坑	1	?	?	直線文	T字文	?	
19		M 9 号溝址	23	単口縁	—	簾状文	簾状文	古墳後期	
20		M 12 号溝址	36	単口縁	突起	直線文	簾状文	Ⅳ期新	
21	西一里塚遺跡群	M 5 号溝址	51	単口縁	—	簾状文	簾状文	Ⅳ期古	
22	西八日町遺跡Ⅳ	H38 号住居址	9	?	?	簾状文	直線文	Ⅳ期新？	
23	西近津遺跡群	SB8001 住居址	00331	?	—	縄文	縄文	Ⅲ期古？	参考資料
24	南蛇井増光寺遺跡Ⅴ	C 9 号住居址	1	単口縁	—	簾状文	直線文	古墳前期	
25		C 353 号住居址	4	?	?	簾状文	簾状文＋T字文	Ⅳ期古	
26		D S 112 号住居址	1	?	?	簾状文	T字文	Ⅳ期古	

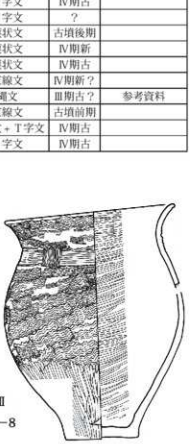


西一本柳遺跡XⅣ
M12 号溝址－52



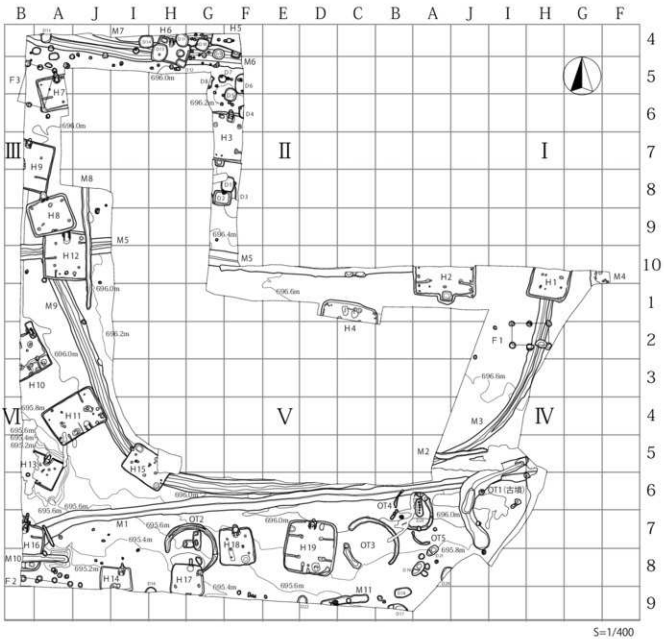
北一本柳遺跡Ⅲ
H37 号住居址－8

北一本柳遺跡Ⅲ
M16 号住居址－163



北一本柳遺跡Ⅲ
M20 号住居址－119

第 72 図　西一本柳遺跡XⅣ・北一本柳遺跡Ⅲ出土の頸部「T字文」施文壺



第 73 図　西一本柳遺跡ⅩⅩⅡ全体図

滑石製玉類の生産・流通を考察した文献として、1989「八寸大道上遺跡」（群馬県埋蔵文化財事業団）がある。報文中に示された見解によれば、鏑川流域で原料を掌握している集団が、玉製品の主体的生産を行い、榛名山麓、赤城山麓、粕川下流域、本庄・櫛挽台地にも原料を供給し、これらが第２生産地となり、グループ内や利根川上流域、渡良瀬川中流域、利根川中流域にも製品を供給した。これらの生産と流通を管理していたのは鏑川流域と第２生産地の豪族たちであり、千曲川上流域へは、第２グループの豪族から供給された原料が、入山峠などで製品に加工され供給されたと考察している。しかし、今回の石製模造品工房址の発見により、佐久地域では内山峠や田口峠経由などで、直接鏑川流域から原料の供給を受け玉類の生産を行っていた可能性が強くなった。

工房址の時期について　今回の調査で検出された工房址は、H11 号住居址と H15 号住居址、H19 号住居址の３軒である。出土遺物からは５世紀後葉から６世紀前葉の年代が比定される。群馬県で検出されている滑石製玉作製作工房址の時期と同時期である。女屋和志雄氏の「群馬県における古墳時代の玉作（1988 年）」に準拠すれば４期に該当し、５世紀末から６世紀前半に比定される。

工房址の形態について　「高崎城遺跡 24」では、竪穴住居内での滑石玉作製作について否定的な見解をとっている。しかし、本遺跡の３軒の住居の内、H11 と H15 の２軒の場合、床面直上や、ピット内から多量のチップや

剥片が出土しており、竪穴住居が工房として使用されていた事を示唆している。工作ピットのような施設は存在しないが、佐久市ではほぼ皆無であろうH11号住居址の南カマドの位置や、H15はおそらくカマドが構築されていない事、H11の主柱が判然としない事や、H15が2本主柱である事、2軒共に長方形の平面形態で比較的近くに構築されている事や主軸の方向など、明らかに今回の調査で検出された当遺跡の、同時期の住居址とは異質である。また、この2軒が一組として機能していた可能性も否定できない。玉作工房としての直接的な機能は遺構には反映されていないが、竪穴住居址が工房として機能していたものと思われる。なお、H19号住居址からは、チップやフレイクは出土していないため、異なる工程の作業が行われていたか、製品や素材を管理していた場所ではないかとの推測も可能かもしれない。

工程について　三波川帯から、鏑川を流域経由で供給されたであろう原石はあまり大きなものではなかったと思われる。製作されたものは剣形、円盤、勾玉、管玉、臼玉であり、大きさや、厚みを必要とするものは製作されていないことから推測される。製作工程は、H15号から出土している鉄斧などを用い、原石から方形状で、ある程度均一な厚さを求めた素材を取り出し、更に正方形に分断した後、（臼玉以外は原石から素材を取り出す時に大きさが決められている。どちらかと言えば原石の規格が製品の規格を規制している。）中央（臼玉以外は異なる）に両側から穿孔を行っている。その後、研磨作業により、形状を仕上げている。規格的な統一はあまり意識されてはおらず、素材の状況により、臨機応変に作り分けているように思われる。

尚、当遺跡出土の剣形石製品には、両側縁の向かって右の側縁が直線的に仕上げられる特徴がある。消費地における識別の手掛かりになるかもしれない。

引用・参考文献

八幡一郎	1934年	『北佐久郡の考古学的調査』	北佐久教育会
女屋和志雄	1988年	『群馬の考古学　群馬県における古墳時代の玉作』	群馬県埋蔵文化財事業団
群馬県考古資料普及会	1989年	『八寸大道上遺跡』	
群馬県埋蔵文化財事業団	1990年	『有馬遺跡Ⅱ』	
群馬県埋蔵文化財事業団	1994年	『白倉下原・天引向原遺跡Ⅲ』	
大木紳一郎	1995年	『中高瀬観音山遺跡』Ⅲ－3	群馬県埋蔵文化財事業団
群馬県埋蔵文化財事業団	1996年	『天引狐崎遺跡Ⅱ』	
大木紳一郎	1997年	『南蛇井増光寺Ⅴ』第5章－第2節－1	群馬県埋蔵文化財事業団
群馬県埋蔵文化財事業団	1997年	『長根安坪遺跡』	
群馬県埋蔵文化財事業団	1998年	『田篠塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿嶋遺跡・福島椿森遺跡』	
吉井町教育委員会	2004年	『長根遺跡群発掘調査報告書Ⅶ』	
佐久市教育委員会	2010年	『岩村田遺跡群西一本柳遺跡XⅣ・北一本柳遺跡Ⅲ・東大門先遺跡Ⅱ・西八日町遺跡Ⅲ・Ⅶ』	
長野県埋蔵文化財センター	2012年	『濁り遺跡　久保田遺跡　西一里塚遺跡群』	
佐久考古学会	2012年	特集　佐久の弥生顔面　佐久考古通信　No110	
長野県埋蔵文化財センター	2015年	『西近津遺跡群』	
櫻井秀雄	2015年	『人形土器の研究－弥生時代の顔面造形－』金沢大学考古学研究紀要36	
かみつけの里博物館	2015年	『ゆくものくるもの－北関東の後期弥生文化－』	
小山岳夫	2016年	『前方後円墳未築造地域における弥生から古墳時代前期の集落』　専修考古学15号	
桐原　健	2016年	『偶感・弥生土偶』　佐久考古通信　No115	
設楽博巳・石川岳彦	2017年	『弥生時代人物造形品の研究』	㈱同成社
大塚昌彦	2017年	『高崎城遺跡24－第8章まとめ』	㈱測研
櫻井秀雄	2018年	『人形土器の新資料』　金沢大学考古学研究紀要39	

住居址計測表

遺構名	検出位置	重複関係	主軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	ピット	付属施設	備考	時期
H 1	Ⅰ H 10	M3を切る	N－13°－E	－	4.21	0.22	－	(6)	周溝	焼失住居	5 C後半～6 C前葉
H 2	Ⅱ A 10	M 5を切る	N－0°－E	－	6.54	0.59	－	(12)	礎石・壁柱穴・周溝・間仕切・張出貯蔵穴		5 C後半～6 C前葉
H 3	Ⅱ F 7	D 4・カクランに切られる	N－8°－E	5.16	－	0.49	－	(6)	周溝・間仕切・張出貯蔵穴・石組粘土カマド		5 C後半～6 C前葉
H 4	Ⅴ C 1		N－5°－E	－	6.07	0.79	－	(7)	周溝	焼失住居	弥生後期
H 5	Ⅱ F 4	P23・33・34・38に切られM 6・7を切る	－	－	－	0.37	－	(0)	張出貯蔵穴		5 C後半～6 C前葉
H 6	Ⅱ H 4	D 11・12・13・P28に切られ、M 6・8を切る	N－20°－E	3.5	2.48	0.49	6.72	2	周溝・貯蔵穴・石組粘土カマド		5 C後半～6 C前葉
H 7	Ⅲ A 2	F 3を切る	N－13°－W	3.57	－	0.39	－	(6)	周溝・間仕切・石組粘土カマド		6 C中葉～6 C後半
H 8	Ⅲ A 9	H 9・12を切る	N－18°－W	4.65	4.03	0.53	13.37	7	周溝・石組粘土カマド		7 C後半
H 9	Ⅲ B 7	H 8に切られる	N－16°－E	5.08	－	0.43	－	(4)	周溝・間仕切・石組粘土カマド		5 C後半～6 C前葉
H 10	Ⅵ B 2	P66に切られる	N－29°－W	4.35	－	0.34	－	(8)	周溝・間仕切・貯蔵穴		5 C後半～6 C前葉
H 11	Ⅴ J 4	M 9を切りカクランに切られる	N－210°－W	5.99	4.17	0.35	21.55	14	周溝・間仕切・貯蔵穴・石組粘土カマド	南カマド、玉作工房址	5 C後半～6 C前葉
H 12	Ⅲ A 10	H 8・M 8・P64に切られる、M 5・9を切る	N－0°－E	5.24	4.91	0.52	19.97	9	周溝・間仕切・石組粘土カマド	カマド頂点の五角形	6 C前半～6 C中葉
H 13	Ⅵ A 5	カクランに切られる	N－25°－E	(3.61)	3.22	0.18	－	(6)	周溝・石組粘土カマド		古墳時代後期
H 14	Ⅴ I 8	－	N－0°－E	3.32	－	0.52	－	1	石組粘土カマド		5 C後半～6 C前葉
H 15	Ⅴ I 5	M 9を切り、カクランに切られる	N－55°－W	4.74	3.19	0.23	－	(14)	貯蔵穴	カマド不明、玉作工房址	5 C後半～6 C前葉
H 16	Ⅵ B 7	M 10・P68・69・カクランに切られ、M 1を切る	N－6°－E	4.9	－	0.56	－	(2)	周溝・間仕切・貯蔵穴・石組粘土カマド	焼失住居	5 C後半～6 C前葉
H 17	Ⅴ H 8	O T 2を切る	N－0°－E	－	3.6	0.37	－	5	石組粘土カマド	北壁に旧カマド	9 C後半
H 18	Ⅴ F 7	－	N－0°－E	3.97	3.78	0.3	12.43	6	周溝・貯蔵穴・石組粘土カマド		5 C後半～6 C前葉
H 19	Ⅴ D 7	－	N－6°－E	5.72	5.46	0.41	25.04	11	周溝・間仕切・貯蔵穴・石組粘土カマド	焼失住居、玉作工房址	5 C後半

掘立柱建物址計測表

遺構名	検出位置	重複関係	長軸方位	桁行長	梁間長	面積	柱痕径	桁行柱間寸法	梁間柱間寸法	備考
F 1	Ⅳ H 2	P 40に切られ、M 3を切る	N－90°－E	3.79	2.31	8.77	0.15	1.9	2.31	P 5に礎石
F 2	Ⅵ A 8	P 73に切られる	－	－	－	－	0.19	1.65	－	
F 3	Ⅲ A 5	H 7に切られる	N－74°－E	－	4.16	－	－	1.27～1.69	2.08	

周溝墓計測表

遺構名	検出位置	重複関係	長径		短径		最大幅	最大深	備考
			外周径	内周径	外周径	内周径			
OT1	Ⅳ H 5	カクランに切られM 1を切る	－	－	－	－	2.05	0.7	
OT2	Ⅴ G 7	H17・カクランに切られる	5.61	4.52	－	－	0.72	0.30	主体部　長1.59　短0.82　深0.27
OT3	Ⅴ B 7	カクランに切られる	5.97	5.09	5.58	4.69	0.74	0.37	
OT4	Ⅴ A 6	P87・カクランに切られM1を切る	4.49	3.82	4.1	3.03	0.62	0.34	
OT5	Ⅴ A 7	－	－	－	－	－	－	－	

溝址計測表

遺構名	検出位置	重複関係	最大長	最大幅	最大深	備考
M1	Ⅳ H 5～Ⅵ B 7	H16、OT1・4、P68、カクランに切られる	(52.53)	1.87	0.89	弥生環濠
M2	Ⅳ J 5	カクランに切られ、M3を切る	(5.45)	－	(0.14)	
M3	Ⅳ H 1～Ⅴ A 5	H1、F1、P40、カクランに切られる	(25.46)	1.59	0.91	弥生環濠
M4	Ⅰ F 1 0	－	－	－	0.42	
M5	Ⅰ B 1 0～Ⅱ J 9	H2・12、M8・9に切られる	(34.27)	1.67	1.26	弥生環濠
M6	Ⅱ F 4～Ⅲ B 4	H5・6、D9・10・12・13・14・15・P16・17・19・20・24・25・26・27・28・33・34・37・38・45・46・47に切られる	(21.53)	1.81	1.49	弥生環濠
M7	Ⅱ F 4～Ⅱ I 4	H5・6、D10・11・14・P18・23・34・38・41・42・43・44に切られる	(12.93)	－	(0.47)	弥生環濠
M8	Ⅱ J 8～Ⅴ J 1	カクランに切られ、H12、M5を切る	(12.85)	0.80	0.24	
M9	Ⅴ D 6～Ⅲ B 1 0	H11・12・15、P55、カクランに切られ、M 5を切る	(47.43)	1.83	1.26	
M10	Ⅵ A 8	P72に切られ、H16を切る	(4.78)	0.89	0.30	
M11	Ⅴ C 9	P94、石組2に切られる	(5.06)	0.83	0.55	周溝墓の可能性有

土坑計測表

遺構名	検出位置	重複関係	平面形態	長軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	備考
D 1	Ⅱ F 8	D 2・3 を切り，カクランに切られる	隅丸長方形	N－7°－E	1.62	1.4	0.18	(1.56)	2 基のピットは本址に伴なわない可能性有
D 2	Ⅱ F 8	D 1・P 51・カクランに切られ，D 3 を切る	隅丸長方形	N－85°－W	1.93	1.57	0.29	1.38	雨溝を有する
D 3	Ⅱ F 8	D 1・2，P 51・カクランに切られる	－	－	－	－	0.09	－	竪穴建物址と捉えた方が良いかもしれない
D 4	Ⅱ F 6	P 3 に切られ，H 3 を切る	隅丸長方形	－	－	－	0.18	－	
D 5	Ⅱ F 6	－	隅丸長方形	N－17°－E	1.36	1.27	0.24	1	
D 6	Ⅱ F 5	P 10・11 を切る	－	－	－	－	0.08	－	
D 7	Ⅱ G 5	P 14 を切る	円形	N－45°－W	0.81	0.79	0.11	0.34	
D 8	Ⅱ G 5	P 15 に切られる	－	－	－	－	0.1	－	
D 9	Ⅱ G 4	M 6 をける	楕円形	N－67°－W	1.26	1.1	0.4	0.51	
D 10	Ⅱ G 4	M 6・7 を切る	隅丸方形	N－63°－W	1.35	1.32	0.29	1.19	
D 11	Ⅱ H 4	H 6・M 7 を切る	楕円形	N－30°－W	－	1.37	0.28	－	
D 12	Ⅱ H 5	H 6・M 6 を切る	隅丸長方形	N－65°－W	1.07	0.74	0.48	0.38	
D 13	Ⅱ H 4	H 6・M 6・7 を切る	隅丸長方形	N－8°－E	1.94	1.64	0.1	1.99	
D 14	Ⅱ I 4	M 6・7 を切る	隅丸長方形	N－90°－W	1.54	1.31	0.29	1.25	
D 15	Ⅲ A 4	M 6 をける	不整方形	N－0°－E	－	1.04	0.24	－	
D 16	V H 9	－	－	－	－	－	0.16	－	
D 17	V B 9	－	楕円形	－	－	－	0.43	－	
D 18	V B 9	－	楕円形	N－80°－E	1.78	1.02	0.17	1.18	集石を伴う
D 19	V A 8	P 92・93 を切る	楕円形	N－35°－E	1.74	0.93	0.53	0.51	
D 20	V A 8	－	－	－	－	－	0.4	－	
D 21	V A 8	－	楕円形	N－48°－E	1.35	0.79	0.55	0.4	
D 22	V D 9	－	－	－	－	－	0.35	－	
D 23	V A 6	カクランに切られる	楕円形	N－4°－W	1.88	0.81	0.55	0.88	

ピット計測表 (1)

遺構名	検出位置	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	土　色
P 1	Ⅳ I 2	D 2・3 を切る	楕円形	0.39	0.3	0.25	10YR5/4 7/4 ローム多含
P 2	Ⅳ J 2	－	楕円形	0.3	0.25	0.26	10YR5/4 7/4 ローム多含
P 3	Ⅱ F 6	D 4 を切る	楕円形	0.32	0.27	0.27	10YR5/3 3/2・7/4 ローム含
P 4	Ⅱ F 6	P 3 に切られ，H 3 を切る	円形	0.32	0.3	0.48	10YR5/3 3/2・7/4 ローム含
P 5	Ⅱ F 6	－	円形	0.32	0.3	0.29	10YR5/3 3/2・7/4 ローム含
P 6	Ⅱ G 6	－	円形	0.31	0.3	0.29	10YR5/3 2/2 含
P 7	Ⅱ G 5	－	円形	0.3	0.27	0.18	10YR5/3 2/2 含
P 8	Ⅱ G 5	－	円形	0.3	0.27	0.43	10YR5/3 2/2 含
P 9	Ⅱ G 6	－	楕円形	0.25	0.19	0.19	10YR3/2 7/4 ローム含
P 10	Ⅱ F 5	D 6 に切られる	円形	0.21	0.19	0.17	10YR3/2 7/4 ローム含
P 11	Ⅱ F 5	D 6 に切られる	楕円形	0.52	0.32	0.46	10YR5/3 3/2・7/4 ローム含
P 12	Ⅱ F 5	－	楕円形	0.27	0.23	0.37	10YR3/2 5/3・7/4 ローム少含
P 13	Ⅱ F 5	－	楕円形	0.35	0.3	0.31	10YR3/2 5/3・7/4 ローム少含
P 14	Ⅱ G 5	D 7 に切られる	円形	0.27	0.25	0.36	10YR2/2 7/4 ローム少含
P 15	Ⅱ G 5	D 8 を切る	－	－	－	0.28	10YR2/2 7/4 ローム少含
P 16	Ⅱ G 4	M 6 を切る	楕円形	0.56	0.49	0.3	10YR5/3 2/2・7/4 ローム含
P 17	Ⅱ G 5	M 6 を切る	円形	0.22	0.22	0.24	10YR5/3 7/4 ローム含
P 18	Ⅱ G 4	M 7 を切る	円形	0.41	0.39	0.43	10YR4/2 2/2・7/4 ローム含
P 19	Ⅱ G 5	M 6 を切る	円形	0.23	0.21	0.18	10YR5/3 7/4 ローム 少含
P 20	Ⅱ G 5	M 6 を切る	楕円形	0.36	0.28	0.2	10YR4/2 7/4 ローム含
P 21	Ⅱ G 5	－	楕円形	0.68	0.36	0.33	10YR3/2 7/4 ローム少含

遺構名	検出位置	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	土　色
P 22	Ⅱ G 5	－	楕円形	0.46	0.41	0.29	10YR3/2 7/4 ローム少含
P 23	Ⅱ G 4	M 7 を切る	円形	0.31	0.28	0.2	10YR5/3 7/4 ローム少含
P 24	Ⅱ G 5	M 6 を切る	円形	0.22	0.21	0.27	10YR5/3 7/4 ローム少含
P 25	Ⅱ G 5	M 6 を切る	楕円形	0.71	0.39	0.33	10YR5/3 7/4 ローム含
P 26	Ⅱ G 4	M 6 を切る	円形	0.29	0.27	0.61	10YR5/3 7/4 ローム含
P 27	Ⅱ G 4	M 6 を切る	楕円形	0.32	0.27	0.15	10YR5/3 7/4 ローム含
P 28	Ⅱ G 4	H 6・M 6 を切る	円形	0.83	0.78	0.31	10YR3/2 2/2・7/4 ローム含
P 29	Ⅱ G 5	－	円形	0.28	0.27	0.24	10YR3/2 7/4 ローム少含
P 30	Ⅱ G 5	－	楕円形	0.35	0.24	0.18	10YR3/2 7/4 ローム少含
P 31	Ⅱ J 5	－	楕円形	0.29	0.26	0.29	10YR3/2 7/4 ローム少含
P 32	Ⅱ J 5	－	楕円形	0.31	0.27	0.38	10YR3/2 7/4 ローム少含
P 33	Ⅱ F 4	M 6 を切る	円形	0.23	0.22	0.13	10YR2/2 7/4 ローム少含
P 34	Ⅱ F 4	M 6・7 を切る	楕円形	0.31	0.27	0.16	10YR2/2 7/4 ローム少含
P 35	Ⅲ A 4	－	楕円形	1.08	0.78	0.13	10YR5/3 7/4 ローム少含
P 36	Ⅲ A 4	－	楕円形	0.93	0.76	0.2	10YR5/3 7/4 ローム少含
P 37	Ⅲ A 4	M 6 を切る	円形	0.62	0.61	0.06	10YR5/3 7/4 ローム少含
P 38	Ⅱ F 4	M 6・7 を切る	楕円形	0.55	0.48	0.14	10YR3/2・5/3・7/4 ローム混在
P 39	Ⅱ F 5	－	楕円形	0.34	0.23	0.28	10YR2/2 5/3・7/4 ローム含
P 40	Ⅳ G 2	F 1・M 3 を切る	楕円形	1.24	0.86	0.25	10YR5/3 7/4 ローム多含
P 41	Ⅱ G 4	M 7 を切る	楕円形	0.36	0.27	0.4	10YR4/2
P 42	Ⅱ G 4	M 7 を切る	楕円形	0.33	0.28	0.31	10YR5/3 7/4 ローム少含

ピット計測表 (2)

遺構名	検出位置	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	土　色
P43	ⅡG4	M7を切る	楕円形	0.33	0.21	0.06	10YR5/3 7/4ローム少含
P44	ⅡG4	M7を切る	楕円形	0.27	0.19	0.09	10YR5/3 7/4ローム少含
P45	ⅡG4	M6を切る	楕円形	0.28	0.21	0.12	10YR5/3 7/4ローム少含
P46	Ⅱ1・5・4	M6を切る	円形	0.67	0.62	0.43	10YR5/3 2/2・8/4ローム含
P47	ⅡJ4	M6を切る	円形	0.6	0.59	0.26	10YR5/3 2/2・8/4ローム含
P48	ⅡG9	－	円形	0.27	0.25	0.19	10YR3/2 7/4ローム少含
P49	ⅢA4	－	楕円形	0.22	0.19	0.35	10YR3/2 7/4ローム含
P50	ⅢA5	－	楕円形	0.22	0.17	0.5	10YR3/2 7/4ローム含
P51	ⅡF8	D2を切る	楕円形	0.39	0.29	0.59	10YR4/2 7/4ローム極少含
P52	ⅢA5	－	楕円形	0.79	0.48	0.32	10YR3/2 2/2・7/4ローム含
P53	ⅡI5	－	楕円形	0.41	0.33	0.28	10YR5/3 7/4ローム多含
P54	ⅡJ4	－	楕円形	0.42	0.29	0.25	10YR3/2 2/2・7/4ローム少含
P55	ⅤJ1	M9を切る	楕円形	0.53	0.42	0.35	－
P56	ⅢA6	－	楕円形	0.48	0.41	0.2	10YR3/2 2/2・7/4ローム少含
P57	ⅡJ4	－	円形	0.55	0.53	0.4	10YR3/2 7/4ローム少含
P58	ⅡI5	－	楕円形	0.66	0.56	0.47	10YR3/2 7/4ローム少含
P59	ⅢA10	－	円形	0.51	0.5	0.31	10YR2/2 7/4ローム少含
P60	ⅡI10	－	楕円形	0.31	0.25	0.29	10YR2/2 7/4ローム少含
P61	ⅡJ9	－	円形	0.22	0.2	0.18	10YR2/2
P62	ⅡJ10	－	楕円形	0.61	0.45	0.48	10YR5/3 2/2・7/4ローム含
P63	ⅢB10	－	楕円形	0.43	0.3	0.34	10YR3/2 7/4ローム少含
P64	ⅢA10	H12を切る	円形	0.33	0.32	0.37	10YR3/2 5/3含
P65	ⅤB9	－	円形	0.33	0.31	0.34	－
P66	ⅥB2	H10を切る	楕円形	1.83	0.94	0.65	10YR5/3 7/4ローム少含
P67	ⅥB7	－	－	－	－	0.47	10YR3/2 7/6ローム少含
P68	ⅥA7	H16・M1を切る	楕円形	2.52	0.38	0.13	10YR5/3 2/2・7/6ローム含
P69	ⅥB7	H16を切る	楕円形	0.33	0.26	0.08	10YR5/3 7/4ローム多含
P70	ⅥA7	－	楕円形	0.4	0.35	0.42	10YR5/3 7/4ローム多含
P71	ⅥA8	－	楕円形	0.47	0.42	0.2	10YR5/3 7/4ローム多含

遺構名	検出位置	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	土　色
P72	ⅥA8	M10を切る	楕円形	0.53	0.43	0.3	10YR3/2 7/6ローム少含
P73	ⅥA8	F2P2を切る	円形	0.39	0.38	0.24	10YR2/2 7/6～7/4ローム含
P74	ⅥA8	－	楕円形	0.69	0.48	0.46	10YR2/2 7/6～7/4ローム含
P75	ⅥA8	－	円形	0.5	0.48	0.27	10YR5/3 7/4ローム多含
P76	ⅤJ8	－	楕円形	0.52	0.44	0.14	10YR5/3 7/4ローム多含
P77	ⅤJ8	－	楕円形	0.27	0.23	0.12	10YR2/2 7/6～7/4ローム少含
P78	ⅤJ8	－	楕円形	0.27	0.21	0.08	10YR5/3 7/4ローム多含
P79	ⅥI8	－	楕円形	0.25	0.19	0.15	10YR5/3 7/4ローム多含
P80	ⅤJ7	－	楕円形	0.36	0.21	0.14	10YR5/3 7/4ローム多含
P81	ⅥI8	－	楕円形	0.38	0.26	0.27	10YR5/3 7/4ローム含
P82	ⅤJ7	－	楕円形	0.21	0.14	0.12	10YR5/3 7/4ローム含
P83	ⅤJ7	－	楕円形	0.29	0.23	0.44	10YR3/2 7/4ローム少含
P84	ⅤB9	－	楕円形	0.58	0.49	0.48	10YR2/2 7/6ローム極少含
P85	ⅤA8	－	楕円形	0.65	0.57	0.33	10YR5/3 7/4ローム含
P86	ⅤA8	－	円形	0.38	0.34	0.37	10YR2/2 7/4ローム少含
P87	ⅤA7	GT4を切る	楕円形	0.53	0.44	0.21	10YR5/3
P88	ⅤB7	－	楕円形	1.22	0.31	0.37	10YR5/3 2/2・7/4ローム少含
P89	ⅤB7	－	楕円形	0.46	0.39	0.33	10YR4/2 2/2・7/4～7/6ローム含
P90	ⅣA8	－	楕円形	0.51	0.44	0.21	10YR2/2 7/4ローム少含
P91	ⅤA7	－	円形	0.37	0.36	0.14	10YR5/3 2/2・7/4ローム含
P92	ⅤA8	D19に切られる	楕円形	0.67	0.57	0.26	10YR2/2 7/4ローム含
P93	ⅤA8	D19に切られる	楕円形	0.76	0.58	0.23	10YR2/2 7/4ローム含
P94	ⅤC9	M11を切る	円形	0.51	0.49	0.29	10YR2/2 7/4ローム・砂粒含
P95	ⅤF9	－	楕円形	0.46	0.38	0.18	10YR2/2 7/4ローム・砂粒含
P96	ⅤE9	－	楕円形	0.37	0.26	0.21	10YR2/2 7/4ローム・砂粒含
P97	ⅤF9	－	楕円形	0.48	0.26	0.12	10YR2/2 7/4ローム・砂粒含
P98	ⅥB6	カクランに切られる	円形	0.42	0.4	0.21	10YR2/2 7/4～7/6ローム含、土師器も混ざる
P99	ⅤC8	カクランに切られる	楕円形	0.92	0.53	0.15	10YR2/2 7/6ローム少含

H1号住居址出土遺物観察表 (1)

No.	器種	器形	法量 口径（長）	法量 底径（短）	法量 器高（厚）	法量 重量等	成形・調整 内面	成形・調整 外面	備考	出土層位
1	土師器	坏	(11.0)	－	＜4.7＞	－	ヘラミガキ→ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測、片口？	Ⅲ区
2	土師器	坏	(12.0)	－	5.3	－	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測、二次被熱	No5
3	土師器	坏	14.8	－	6.3	－	ナデ→暗文状ヘラミガキ	ヘラケズリ→ナデ→ヘラミガキ	完全実測	No8
4	土師器	坏	(15.4)	－	＜5.8＞	－	暗文状ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅲ区
5	土師器	坏	(18.3)	－	＜4.9＞	－	暗文状ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	ケン
6	土師器	坏	－	－	＜2.1＞	－	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測、二次被熱	Ⅲ区
7	土師器	坏	－	－	＜3.8＞	－	暗文状ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No6
8	土師器	高坏	16.0	－	＜5.3＞	－	ヘラミガキ	坏下部ヘラケズリ、ヘラミガキ	完全実測	No2、No7、ケン
9	土師器	高坏	－	12.4	＜7.1＞	－	ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	No6、Ⅳ区、ケン
10	土師器	甕	(11.6)	－	＜6.5＞	－	ナデ	ハケメ→ヘラケズリ	回転実測	No5
11	土師器	甕	(11.8)	－	＜4.9＞	－	ヘラケズリ→ナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ区
12	土師器	甕	14.0	4.2	13.1	－	ナデ	ヘラケズリ→ナデ	完全実測、二次被熱	No4
13	土師器	甕	(14.0)	－	＜7.3＞	－	ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区
14	土師器	甕	14.1	－	＜9.1＞	－	ヘラケズリ→ナデ	ヘラケズリ→ナデ	完全実測	Ⅳ区、ケン
15	土師器	鉢	(15.4)	－	＜7.6＞	－	ナデ→黒色処理？	ハケ目→ナデ、煤付着	回転実測	No1
16	土師器	壺	15.0	－	＜15.9＞	－	口縁部ハケ目→ナデ、頸上半ナデ・下半ハケメ	口縁部ナデ、頸部ハケ目→ヘラケズリ、口縁部ハケケズリによる調整	完全実測	No9

H 1 号住居址出土遺物観察表 (2)

No.	器種	器形	法量 口径（長）	法量 底径（短）	法量 器高（厚）	法量 重量等	成形・調整 内面	成形・調整 外面	備考	出土層位
17	土師器	壺	(19.2)	−	< 4.9 >	−	ナデ、煤付着	ナデ、煤付着	回転実測	No3
18	土師器	甕	21.3	(10.1)	16.3	−	ハケ目	ハケ目、底部周縁ヘラケズリ	完全実測	No1、Ⅲ区
19	石器・石製品	台石	< 29.1 >	19.5	7.1	< 4500.0 >	両端欠損、磨面1、二次被熱により一部黒化		完全実測、二次被熱	No14
20	石器・石製品	磨石	< 16.8 >	< 15.4 >	< 9.0 >	< 2410.0 >	左側～裏面欠損、磨面3、二次被熱により一部黒化		完全実測、二次被熱	No15
21	石器・石製品	敲石	12.9	4.2	3.4	194.71	両端部に敲打痕、二次被熱により一部黒化		完全実測、二次被熱	No12
22	石器・石製品	敲石	24.5	11.9	9.2	2860	両端部に敲打痕、二次被熱により一部黒化		完全実測、二次被熱	No11
23	石器・石製品	素材	4.9	2.4	0.4	7.59	磨製石鏃等の素材		完全実測	ケン

H 2 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量 口径（長）	法量 底径（短）	法量 器高（厚）	法量 重量等	成形・調整 内面	成形・調整 外面	備考	出土層位
1	土師器	坏	12.3	12.0	5.2	−	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No7、EW区、P3
2	土師器	坏	(14.2)	(12.8)	(4.9)	−	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	W区
3	土師器	坏	(14.4)	(9.2)	(4.5)	−	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	ケン
4	土師器	坏	14.4	−	4.5	−	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	No3
5	土師器	坏	(14.6)	−	< 5.1 >	−	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	E、W区
6	土師器	坏	(16.6)	−	6.2	−	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	E区、D1
7	土師器	坏	(18.4)	(12.2)	5.1	−	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	ケン
8	土師器	坏	(18.6)	(14.0)	(4.5)	−	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	E区
9	土師器	坏	−	−	< 7.5 >	−	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	E、W区
10	土師器	高坏	(18.0)	−	< 6.8 >	−	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	W区
11	須恵器	坏	−	−	< 2.6 >	−	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	W区
12	須恵器	坏	−	−	< 3.8 >	−	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	E区
13	土師器	甕	10.1	6.0	12.0	−	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	No6
14	土師器	甕	(12.4)	−	< 8.4 >	−	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	E区
15	土師器	甕	12.6	5.9	10.6	−	ナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No8
16	土師器	甕	13.2	−	< 11.3 >	−	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	D1、E、W区
17	土師器	甕	(13.8)	−	< 6.1 >	−	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	E区
18	土師器	壺	10.4	−	16.1	−	ナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No2
19	土師器	壺	11.1	7.3	13.6	−	ナデ→赤彩	ヘラケズリ→ヘラミガキ→赤彩	完全実測	No1
20	土師器	壺	13.5	−	< 7.5 >	−	ヘラミガキ	ハケ目→ヘラミガキ	完全実測	No4、E区
21	土師器	壺	16.6	−	< 7.9 >	−	ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No5、E区
22	須恵器	はそう	(11.2)	−	< 4.9 >	−	自然釉	櫛歯状工具による波状文、自然釉	回転実測	E区、床
23	土師器	甕	19.5	7.3	16.4	−	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全実測	No7、E区
24	土製品	丸玉	< 0.9 >	< 0.6 >	< 0.9 >	< 0.63 >	ナデ、孔径 0.15		完全実測	W区
25	石器・石製品	台石	< 38.8 >	< 22.2 >	< 9.1 >	−	周囲欠損、磨面 2		完全実測	No12
26	石器・石製品	打製石斧	10.2	6.5	1.4	103.56	使用による厚減有		完全実測	No11
27	石器・石製品	臼玉	0.75	0.75	0.5	0.36	孔径 0.25		完全実測	覆土
28	石器・石製品	管玉	0.6	0.65	2.15	1.81	孔径 0.25		完全実測	No10
29	金属製品	不明	< 3.3 >	< 1.3 >	< 0.9 >	< 5.21 >	両端部欠損		完全実測	E区

H 3 号住居址出土遺物観察表 (1)

No.	器種	器形	法量 口径（長）	法量 底径（短）	法量 器高（厚）	法量 重量等	成形・調整 内面	成形・調整 外面	備考	出土層位
1	土師器	坏	15.0	11.5	5.4	−	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	No2
2	土師器	坏	(15.1)	−	< 4.5 >	−	ナデ	ヘラケズリ→ナデ	回転実測	Ⅰ区、Ⅱ区
3	土師器	鉢	−	(8.6)	< 5.0 >	−	ナデ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ区、カマド

H 3 号住居址出土遺物観察表 (2)

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
4	土師器	小型甕	10.5	5	10.7	—	ナデ	ヘラケズリ→ハケ目	完全実測	№1
5	土師器	甕	(18.9)	—	＜34.9＞	—	ハケ目	ハケ目→ヘラケズリ	完全実測（調整回転）	Ⅰ区、Ⅱ区、Ⅲ区
6	石器・石製品	石製模造品素材	7.5	3.3	0.8	27.72	—		完全実測	Ⅲ区
7	石器・石製品	磨・敲石	8.9	8.0	7.0	573.71	端部に敲打痕、全体すり		完全実測	№3

H 4 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	弥生土器	鉢	(11.8)	4.2	6.4	—	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	完全実測	№9
2	弥生土器	鉢	(14.1)	4.6	＜6.5＞	—	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	完全実測	床
3	弥生土器	高坏	15.3	—	＜9.2＞	—	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	完全実測、脚欠損状態で使用	№6
4	弥生土器	高坏	15.7	8.2	12.5	—	ミガキ→赤彩、脚内ヘラケズリ→ナデ	ミガキ→赤彩	完全実測	№2
5	弥生土器	甕	15	—	＜13.7＞	—	ミガキ	櫛描簾状文・波状文	完全実測	№7
6	弥生土器	甕	(19.3)	—	＜16.8＞	—	ミガキ	櫛描波状文	回転実測	
7	弥生土器	甕	22.3	—	＜12.7＞	—	ミガキ	櫛描簾状文・斜走文	完全実測	№5
8	弥生土器	甕	(23.2)	8.1	31.7	—	ケズリ→ミガキ	櫛描簾状文・波状文	完全実測	№10
9	弥生土器	甕	23.7	9.7	44.2	—	ハケメ→ミガキ	櫛描簾状文・斜走文	完全実測	№4
10	弥生土器	甕	24.6	10.3	37.5	—	ケズリ→ミガキ	櫛描簾状文・斜走文	完全実測	№3
11	弥生土器	甕	—	6.6	＜5.1＞	—	ミガキ	ミガキ	完全実測	
12	弥生土器	壺	23.0	8.0	44.3	—	ハケメ・赤彩	櫛描簾状文・波状文、赤彩	完全実測	№1
13	弥生土器	壺	(34.1)	—	＜18.2＞	—	ハケメ・赤彩	櫛描直線文、赤彩	完全実測	№8
14	土製品	土器片円盤	3.7	3.2	0.9	—	ナデ	赤彩	完全実測	
15	石器・石製品	軽石製品	7.0	3.6	3.0	22.8	磨面２		完全実測	
16	石器・石製品	磨石	＜3.0＞	＜2.0＞	＜0.6＞	＜4.0＞	裏面欠損、全体に磨り		完全実測	
17	石器・石製品	磨石	6.6	2.5	1.8	38.1	全体すり		完全実測	
18	石器・石製品	磨石	＜7.5＞	＜3.9＞	＜1.4＞	＜51.5＞	裏面欠損、全体に磨り		完全実測	

H 5 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	甕	(18.4)	—	＜33.4＞	—	ハケ目、ナデ	ハケ目、ヘラミガキ	回転実測	№1、ホリ、M6
2	土師器	甕	(18.6)	—	＜36.2＞	—	ハケ目、ナデ	ハケ目、ヘラミガキ、ヘラケズリ	回転実測	№1
3	土師器	甑	17.5	(7.4)	13.5	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	№1
4	須恵器	すり鉢	—	—	—	—	—	ナデ	破片実測、拓本	覆土
5	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描斜走文、櫛描横線文	破片実測、拓本	覆土
6	弥生土器	壺	—	(17.0)	＜4.1＞	—	剥離	ヘラミガキ	回転実測	覆土
7	石器・石製品	台石	＜23.4＞	＜17.7＞	＜15.0＞	＜11300.0＞	一端欠損、使用面２		完全実測	№2

H 6 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	15.1	9.2	6.2	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	№1、カマド
2	土師器	台付甕	(14.1)	9.7	15.9	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	№2･3、Ⅱ区、カマド掘方
3	土師器	小型甕	(14.3)	5.6	15.9	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	№2
4	土師器	甕	17.1	6.1	35.3	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	№2、カマド
5	土師器	甑	24.5	9.2	30.3	—	ハケ目→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	№1
6	弥生土器	鉢	—	3.9	＜2.9＞	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	Ⅳ区
7	土製品	土器片円盤	4.6	5.2	0.8	—	ハケ目	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	Ⅰ区

H 7 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量 口径（長）	法量 底径（短）	法量 器高（厚）	法量 重量等	成形・調整 内面	成形・調整 外面	備考	出土層位
1	土師器	坏	(12.2)	(13.4)	(4.6)	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区、Ⅳ区
2	土師器	坏	13.9	5.1	5.8	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ、木葉痕	完全実測、拓本	No2
3	土師器	坏	(14.8)	(12.0)	＜4.2＞	—	ナデ→黒色処理	ヘラケズリ、ナデ	回転実測	Ⅰ区
4	土師器	台付甕	(11.1)	9.9	14.4	—	ナデ→黒色処理	ヘラケズリ	完全実測	No3、Ⅰ区、Ⅱ区
5	土師器	甕	12.2	6.4	7.7	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅲ区
6	土師器	甕	(14.6)	(8.8)	(9.7)	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
7	土師器	甕	17	(6.8)	34.1	—	ハケ目	ヘラケズリ	完全実測	No2、Ⅰ区、Ⅱ区、Ⅳ区、カマド、カマド構築
8	土師器	甕	17.6	5.0	28.7	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	No2、Ⅰ区、カマド、カマド構築
9	土師器	甕	18.6	7.4	34.7	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全実測	No2、Ⅰ区
10	土師器	甕	(19.4)	—	＜4.8＞	—	ナデ	ヘラケズリ、口縁ハケナデ	回転実測	Ⅰ区、Ⅱ区
11	土師器	甕	20.1	—	32.4	—	ハケ目	ハケ目	完全実測	No1、Ⅰ区
12	土師器	甕	20.2	(6.0)	32.0	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	No2、Ⅰ区
13	土師器	甕	—	4.8	＜4.2＞	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	カマド構築
14	須恵器	はそう	—	—	＜6.1＞	—	ロクロナデ	櫛描波状文、刺突文、ヘラ描沈線	回転実測	No2
15	石器・石製品	台石	＜30.4＞	＜25.5＞	＜13.0＞	＜13000.0＞	片側欠損、使用面１		完全実測	No4
16	石器・石製品	敲石	12.7	6.0	2.9	380	端部に敲打痕		完全実測	Ⅳ区
17	石器・石製品	敲石	16.0	6.5	3.7	390	縁上に敲打痕		完全実測	Ⅳ区ホリ

H 8 号住居址出土遺物観察表 (1)

No.	器種	器形	法量 口径（長）	法量 底径（短）	法量 器高（厚）	法量 重量等	成形・調整 内面	成形・調整 外面	備考	出土層位
1	土師器	坏	12.4	11.8	4.1	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	Ⅲ区
2	土師器	北武蔵型坏	12.8	12.5	3.4	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ区、Ⅱ区、Ⅳ区
3	土師器	北武蔵型坏	(13.5)	—	(4.5)	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
4	土師器	北武蔵型坏	(14.0)	(14.0)	5.0	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	No2
5	土師器	北武蔵型坏	15.3	15	5.0	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅱ区、Ⅲ区
6	土師器	手捏土器	(3.0)	(2.3)	2.3	—	ナデ	ナデ	完全実測	Ⅲ区
7	土師器	手捏土器	(3.1)	(2.0)	2.8	—	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅲ区
8	土師器	手捏土器	(5.2)	(5.6)	3.1	—	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅲ区
9	土師器	手捏土器	(5.4)	(3.4)	3.6	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区
10	土師器	手捏土器	—	5	＜3.5＞	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	Ⅲ区
11	須恵器	高坏	—	(8.0)	＜2.0＞	—	ロクロナデ	自然釉	回転実測	Ⅲ区、Ⅳ区、H12 Ⅳ区
12	須恵器	盤	—	11.8	＜4.5＞	—	ロクロナデ	自然釉	完全実測	Ⅱ区、Ⅲ区、Ⅳ区
13	土師器	鉢	(12.6)	—	＜11.4＞	—	ナデ→ヘラミガキ	ヘラミガキ、磨滅	回転実測	No1
14	土師器	甕	(23.2)	—	＜19.6＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区、Ⅱ区
15	土師器	台付甕	—	(9.6)	＜4.1＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区
16	土師器	壺	(17.0)	—	＜10.0＞	—	ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	No3
17	弥生土器	蓋	—	4.2	＜4.3＞	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	Ⅳ区
18	石器・石製品	石鏃	＜1.75＞	＜1.60＞	＜0.35＞	＜0.80＞	先端・茎部欠損、黒曜石		完全実測	Ⅳ区
19	石器・石製品	磨石	＜15.9＞	＜16.3＞	＜7.2＞	2270	被熱有？（裏面被熱剥離？）、磨面２		完全実測	Ⅳ区
20	石器・石製品	敲石	12.4	8.6	8.0	1120	正面・片側に削り状使用痕、端部敲打痕		完全実測	Ⅳ区
21	石器・石製品	敲石	16.3	8.5	5.7	890	両端部に敲打痕		完全実測	No4
22	石器・石製品	磨・敲石	15.8	8.8	7.0	1130	両端部と側面に敲打痕、磨面１		完全実測	Ⅳ区
23	石器・石製品	臼玉	1.00	1.00	0.60	0.94	孔径 0.35		完全実測	Ⅲ区
24	石器・石製品	臼玉	1.00	1.00	0.40	0.71	孔径 0.30		完全実測	Ⅲ区
25	石器・石製品	臼玉	1.00	1.10	0.50	0.91	孔径 0.35		完全実測	Ⅲ区
26	石器・石製品	臼玉	1.00	1.00	0.50	0.83	孔径 0.30		完全実測	Ⅲ区

H 8 号住居址出土遺物観察表 (2)

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
27	石器・石製品	白玉	1.00	1.10	0.40	0.69	孔径 0.30		完全実測	Ⅲ区
28	石器・石製品	白玉	1.00	1.10	0.30	0.53	孔径 0.30		完全実測	Ⅲ区
29	石器・石製品	白玉	1.05	1.15	0.40	0.78	孔径 0.30		完全実測	Ⅲ区
30	石器・石製品	白玉	1.05	1.05	0.55	0.80	孔径 0.30		完全実測	Ⅲ区
31	石器・石製品	白玉	1.05	1.05	0.30	0.35	孔径 0.35		完全実測	Ⅲ区
32	石器・石製品	白玉	1.10	1.10	0.40	0.59	孔径 0.30		完全実測	Ⅲ区
33	石器・石製品	有孔円板	＜1.40＞	＜2.20＞	＜0.70＞	＜2.11＞	孔径 0.30、約 1/3 残存		完全実測	Ⅲ区

H 9 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	16.6	13.2	5.3	—	ミガキ→黒色処理	底部ヘラケズリ→ミガキ	完全実測	No1
2	土師器	鉢	16.8	5.2	13.3	—	胴部から底部ナデ	胴部・底部ヘラケズリ	完全実測、歪み有	No3
3	土師器	甕	(16.7)	—	＜18.9＞	—	胴部ナデ	胴部ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
4	土師器	甕	17.4	4.9	37.5	—	胴部から底部ナデ	胴部・底部ヘラケズリ	完全実測	No5、Ⅰ区
5	土師器	甕	—	—	—	—	胴部ナデ	胴部ヘラケズリ	破片実測	Ⅰ区
6	土師器	甑?	(29.0)	—	＜8.5＞	—	ハケ目→ミガキ	胴部ハケ目→ミガキ	回転実測	Ⅰ区
7	土師器	甑	30.0	(9.0)	28.6	—	ミガキ	胴部ナデ、ナデ→ミガキ	完全実測	No2
8	石器・石製品	磨・敲石	7.6	6.5	2.9	170	側面・端部に敲打痕、磨面 2		完全実測	Ⅰ区
9	石器・石製品	磨・敲石	10.4	9.8	6.3	890	正面・側面に敲打痕、磨面 3		完全実測	Ⅳ区
10	石器・石製品	磨・敲石	13.3	6.6	6.3	490	側面に敲打痕、磨面 1		完全実測	Ⅰ区

H 10 号住居址出土遺物観察表 (1)

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	12.4	—	5.6	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ	完全実測	No1
2	土師器	坏	(12.4)	—	＜4.4＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
3	土師器	坏	(13.6)	—	＜5.3＞	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
4	土師器	坏	(14.2)	—	6.2	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
5	土師器	坏	(14.6)	—	＜5.3＞	—	ヘラケズリ→ヘラミガキ→黒色処理	ナデ	回転実測	Ⅰ区、Ⅱ区
6	土師器	坏	(16.0)	—	＜4.1＞	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ区
7	土師器	高坏	15.8	12.9	12.3	—	坏部ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No2
8	土師器	高坏	16.7	12.7	10.7	—	坏部ヘラミガキ、脚部ハケ目ヘラケズリ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	Ⅰ区、Ⅱ区、Ⅳ区
9	土師器	高坏	16.8	13.2	11.9	—	坏部ヘラミガキ、脚部ヘラケズリ	ハケ目→ヘラケズリ	完全実測	No4
10	土師器	高坏	17.3	14.1	11.3	—	坏部ヘラミガキ、脚部ヘラケズリ	ハケ目→ヘラケズリ→ナデ→ヘラミガキ	完全実測	No3
11	須恵器	坏	(10.2)	—	＜4.2＞	—	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
12	須恵器	坏	11.0	—	＜4.6＞	—	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	完全実測	No6
13	須恵器	坏	(12.6)	—	＜5.0＞	—	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
14	須恵器	蓋	(12.6)	—	4.4	—	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
15	土師器	甕	(15.8)	—	＜6.2＞	—	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅰ区、Ⅱ区、Ⅲ区
16	土師器	甕	(16.0)	—	＜7.8＞	—	ハケ目	ハケ目	回転実測	Ⅲ区、H15P3
17	土師器	甕	16.1	6.9	27.7	—	ハケ目ナデ	ハケ目ヘラケズリ	完全実測	No1、Ⅱ区
18	土師器	甕	17.3	—	＜19.4＞	—	ハケ目	ハケ目	完全実測	No7、Ⅰ区、Ⅱ区
19	土師器	甕	—	—	＜20.8＞	—	ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区、Ⅲ区
20	土師器	壺	8.0	—	9.2	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	No5
21	土師器	甑	—	(9.2)	＜4.7＞	—	ハケ目	ナデ	回転実測	Ⅲ区
22	須恵器	はそう	(15.4)	—	＜5.2＞	—	ロクロナデ	ロクロナデ、櫛描波状文	回転実測	Ⅲ区

H 10 号住居址出土遺物観察表 (2)

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
23	須恵器	はそう	—	—	＜8.6＞	—	ロクロナデ	ロクロナデ、平行叩目、櫛描波状文	完全実測	Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ区、P3、4、6
24	須恵器	はそう	—	—	＜6.4＞	—	ロクロナデ	ロクロナデ、当具痕、格子叩目	回転実測	Ⅱ区
25	弥生土器	入面付土器	—	—	—	—	ナデ、赤彩	ナデ	完全実測	Ⅱ区、Ⅲ区
26	石器・石製品	磨石	3.4	3.2	1.7	22	磨面 1		完全実測	Ⅳ区
27	石器・石製品	磨石	＜15.2＞	＜6.0＞	＜5.6＞	＜680＞	片側欠損、磨面 3		完全実測	No9
28	石器・石製品	磨・敲石	10.3	3.6	2.6	130	両端部に敲打痕、全体に擦り		完全実測	Ⅰ区
29	石器・石製品	磨・敲石	＜10.6＞	＜6.8＞	＜5.4＞	420	下部欠損、磨面 2、端部に敲打痕		完全実測	No11
30	石器・石製品	磨・敲石	14.0	5.7	4.7	780	端部と側面に敲打痕、全体に擦り		完全実測	No8
31	石器・石製品	磨・敲石	19.0	7.2	4.5	880	両側と端部に敲打痕、磨面 1		完全実測	No12
32	石器・石製品	臼玉	1.10	1.10	0.40	0.59	孔径 0.30		完全実測	Ⅲ区
33	石器・石製品	有孔円板	＜1.40＞	＜2.20＞	＜0.70＞	＜2.11＞	孔径 0.30、約 1/3 残存		完全実測	Ⅲ区

H 11 号住居址出土遺物観察表 (1)

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(12.4)	—	6.0	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	Ⅱ区
2	土師器	坏	(13.0)	—	＜5.3＞	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区
3	土師器	坏	(13.2)	—	＜5.9＞	—	放射暗文	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区、ケン
4	土師器	坏	(13.8)	—	＜4.7＞	—	放射暗文	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
5	土師器	坏	(14.0)	—	＜4.6＞	—	放射暗文	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区、Ⅳ区
6	土師器	坏	(15.0)	—	＜3.9＞	—	放射暗文	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区
7	土師器	坏	(15.4)	—	＜5.7＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
8	土師器	高坏	17.3	12.4	13.2	—	脚部ヘラナデ→ヘラミガキ、坏部ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	カマド
9	土師器	高坏	—	11.1	＜6.1＞	—	ナデ	ヘラミガキ	完全実測	No3
10	土師器	高坏	—	(11.6)	＜6.6＞	—	ナデ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区
11	土師器	鉢	(15.6)	—	＜3.0＞	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区
12	土師器	甕	11.0	6.1	11.9	—	ヘラナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No4
13	土師器	甕	(14.0)	—	＜6.0＞	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
14	土師器	甕	(15.2)	4.4	8.8	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No2、Ⅰ・Ⅱ区
15	土師器	甕	(17.2)	—	＜24.7＞	—	ハケ目	ハケ目→ヘラミガキ、下半部ヘラケズリ	回転実測	No2、Ⅱ区
16	土師器	甕	—	4.8	＜3.0＞	—	ヘラナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No1
17	土師器	甕	—	6.5	＜27.8＞	—	ナデ	ヘラケズリ→ハケ目	完全実測	No1、Ⅳ区
18	土師器	甕	—	—	＜20.4＞	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区、H10 第・Ⅳ区、VII 土
19	土師器	壺	—	—	＜7.0＞	—	ナデ、口縁ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅳ区、H15
20	土師器	甑	(14.0)	(2.0)	8.3	—	ハケ目	ヘラミガキ	回転実測	Ⅳ区
21	土師器	甑	(16.2)	(4.6)	9.3	—	ハケ目	ヘラケズリ、ハケ目	回転実測	Ⅳ区
22	土師器	甑	27.2	9.3	17.3	—	ヘラミガキ	ハケ目、下半部ヘラナデ	完全実測	No1、Ⅳ区
23	石器・石製品	磨・敲石	12.8	10.2	8.8	1380	縁辺と端部に敲打痕、磨面 1		完全実測	No16
24	石器・石製品	編物石	(5.0)	(7.7)	(2.7)	(101.2)	使用による折れ？		完全実測	Ⅰ区
25	石器・石製品	編物石	7.6	6.0	4.6	220	両端に使用痕、正面に条痕		完全実測	Ⅱ区
26	石器・石製品	編物石	9.0	8.9	3.1	260.2	端部・両側に使用痕		完全実測	Ⅱ区
27	石器・石製品	編物石	(11.2)	5.0	4.0	(260.0)	被熱有？（一部褐色）、稜上に使用痕、被熱割れ？		完全実測	ケン
28	石器・石製品	編物石	12.9	5.3	3.5	335	使用痕有		完全実測	No10
29	石器・石製品	編物石	13.2	8.0	6.0	720	両側に使用痕		完全実測	No7
30	石器・石製品	編物石	13.3	5.3	4.0	398	使用痕有		完全実測	No12
31	石器・石製品	編物石	13.3	7.6	4.1	620	端部に使用痕有		完全実測	No13
32	石器・石製品	編物石	13.8	6.2	4.3	520	両端と側面に使用痕		完全実測	No6

H 11 号住居址出土遺物観察表 (2)

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
33	石器・石製品	編物石	13.8	7.2	3.8	440	使用痕有		完全実測	No14
34	石器・石製品	編物石	13.9	5.6	3.5	470	端部に使用痕		完全実測	No5
35	石器・石製品	編物石	14.2	7.2	4.3	500	使用痕有		完全実測	No17、カマド
36	石器・石製品	編物石	14.6	6.0	3.7	522	端部に使用痕		完全実測	ケン
37	石器・石製品	編物石	14.9	7.3	5.9	780	使用痕有		完全実測	No9
38	石器・石製品	編物石	15.7	7.4	4.3	600	使用痕有		完全実測	No11
39	石器・石製品	編物石	16.0	6.7	4.1	565	使用痕有		完全実測	No15
40	石器・石製品	臼玉	0.90	0.95	0.30	0.31	孔径 0.25		完全実測	覆土
41	石器・石製品	臼玉	＜0.70＞	＜1.00＞	＜0.15＞	＜0.14＞	孔径 0.25　一部欠損		完全実測	覆土
42	石器・石製品	臼玉	＜0.90＞	＜0.75＞	＜0.40＞	＜0.28＞	孔径 (0.30)　一部欠損		完全実測	覆土
43	石器・石製品	臼玉未完成	0.80	0.90	0.25	0.30			完全実測	Ⅰ区ホリ
44	石器・石製品	臼玉未完成	0.90	1.00	0.40	0.61			完全実測	覆土
45	石器・石製品	臼玉未完成	1.00	1.15	0.30	0.46			完全実測	Ⅱ区
46	石器・石製品	勾玉未完成	2.45	1.70	0.50	3.55	孔径 0.20 (途中)		完全実測	覆土
47	石器・石製品	有孔円盤?	1.80	1.05	0.35	1.15	穿孔中の破損または勾玉未完成品か		完全実測	Ⅲ区
48	石器・石製品	刷形模造品	2.80	1.70	0.35	2.65	孔径 0.20		完全実測	覆土
49	石器・石製品	刷形模造品	＜3.90＞	＜1.70＞	＜0.50＞	＜4.77＞	孔径 0.20　上部欠損		完全実測	ケン
50	石器・石製品	素材	2.30	2.10	0.30	2.50			完全実測	覆土
51	石器・石製品	素材	2.30	2.70	0.35	2.32			完全実測	P14
52	石器・石製品	素材	3.20	1.80	0.60	4.48			完全実測	Ⅱ区
53	石器・石製品	素材	3.20	1.95	0.35	2.90			完全実測	Ⅰ区ホリ

H 12 号住居址出土遺物観察表 (1)

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	11.3	—	6.0	—	ナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No1
2	土師器	坏	(11.6)	(10.4)	＜3.7＞	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	回転実測	Ⅲ区
3	土師器	坏	12.5	11.9	4.6	—	黒色処理	ナデ・ヘラケズリ	回転実測	No1
4	土師器	坏	(13.8)	—	＜4.2＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区
5	土師器	坏	(17.2)	(11.4)	＜4.4＞	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ・ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ区、カマド
6	土師器	甕	—	6.4	＜28.7＞	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	No3・4、Ⅰ区ホリ、カマド
7	土師器	甕	18.6	(6.8)	＜37.5＞	—	ハケメ、ナデ	ヘラケズリ	完全実測	カマド、Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区
8	土師器	甕	—	7.3	＜14.2＞	—	ナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	Ⅰ区、H8 Ⅲ区
9	土師器	壷	(16.0)	—	＜11.3＞	—	ナデ→ヘラミガキ	ハケメ→ヘラミガキ	完全実測	No3・4・8
10	土師器	壷	—	5.7	＜4.2＞	—	ナデ	ナデ	完全実測	No2、Ⅰ区
11	土師器	壷	(15.6)	—	＜3.0＞	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	カマド
12	土師器	甑	(16.2)	(5.4)	(9.0)	—	ヘラナデ	ハケメ	回転実測	Ⅲ区
13	土師器	甑	20.6	(8.2)	26.5	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	カマド、Ⅰ・Ⅱ区
14	石器・石製品	臼玉	0.7	0.75	0.4	0.4	孔径 0.25		完全実測	No内
15	石器・石製品	臼玉	0.8	0.8	0.4	0.3	孔径 0.25		完全実測	No内
16	石器・石製品	臼玉	0.8	0.8	0.4	0.4	孔径 0.25		完全実測	No内
17	石器・石製品	臼玉	0.8	0.8	0.5	0.4	孔径 0.25		完全実測	No内
18	石器・石製品	臼玉	0.8	0.8	0.5	0.5	孔径 0.25		完全実測	No内
19	石器・石製品	切子玉	0.9	1	1.7	2.1	孔径 0.25		完全実測	Ⅲ区
20	石器・石製品	編物石	6.7	5.1	1.6	63.5	両側抉り		完全実測	Ⅱ区
21	石器・石製品	磨石	4.5	3.6	2.7	62.1	全体に磨り		完全実測	Ⅳ区
22	石器・石製品	磨石	5.9	4.3	2.3	80.3	磨面 2		完全実測	Ⅰ区ホリ

H 12 号住居址出土遺物観察表 (2)

No.	器種	器形	法量 口径（長）	法量 底径（短）	法量 器高（厚）	法量 重量等	成形・調整 内面	成形・調整 外面	備考	出土層位
23	石器・石製品	磨石	7.2	6.5	5.6	363	全体に磨り		完全実測	No7
24	鉄製品	釘	＜2.7＞	0.8	0.5	1.8	先端欠損		完全実測	Ⅲ区

H 13 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量 口径（長）	法量 底径（短）	法量 器高（厚）	法量 重量等	成形・調整 内面	成形・調整 外面	備考	出土層位
1	土師器	甕	—	(6.6)	＜4.0＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	覆土
2	須恵器	壺	—	(9.2)	＜1.8＞	—	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	回転実測	カクラン
3	弥生土器	高坏	—	(16.4)	＜9.5＞	—	ナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	Ⅳ区、カクラン、P98
4	鉄器	刀子	＜11.1＞	2.1	＜0.3＞	＜26.7＞	両端欠損、木質残存		完全実測	ケン

H 14 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量 口径（長）	法量 底径（短）	法量 器高（厚）	法量 重量等	成形・調整 内面	成形・調整 外面	備考	出土層位
1	土師器	坏	(15.2)	—	＜3.7＞	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ区
2	土師器	坏	—	(10.6)	＜2.4＞	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ区、ケン
3	土師器	坏	—	(11.3)	＜2.8＞	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区、Ⅳ区
4	土師器	壺	—	(8.0)	＜3.0＞	—	ナデ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区
5	土師器	坏	—	—	＜6.9＞	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区、Ⅲ区、Ⅳ区

H 15 号住居址出土遺物観察表 (1)

No.	器種	器形	法量 口径（長）	法量 底径（短）	法量 器高（厚）	法量 重量等	成形・調整 内面	成形・調整 外面	備考	出土層位
1	土師器	坏	(10.8)	—	7.2	—	放射暗文	ナデ→底部ヘラケズリ	完全実測	No1
2	土師器	坏	(12.0)	—	4.4	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	P2
3	土師器	坏	(13.2)	—	＜2.9＞	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	より
4	土師器	坏	(17.4)	—	＜5.0＞	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	H15
5	土師器	高坏	(14.8)	—	＜4.9＞	—	放射暗文	放射暗文	回転実測	P2
6	土師器	甕	(12.6)	—	＜6.4＞	—	ナデ	ハケ目→ヘラケズリ	回転実測	H15
7	石器・石製品	磨・敲石	12.0	9.4	4.8	600	縁辺・中央に敲打痕、磨面Ⅰ		完全実測	No 4
8	鉄器	斧	7.6	3.8	2.3	98.2	袋状		完全実測	No 2

H 15 号住居址出土遺物観察表 (2) 玉及び石製品模造品

No	器種	法量 長径	法量 短径	法量 厚	法量 重量	加工 穿孔	備考	出土層位
9	勾玉	2.70	1.60	0.40	3.32	0.20		覆土
10	刷形模造品	3.55	2.05	0.40	6.31	0.20		覆土
11	臼玉	0.45	0.45	0.20	0.08	0.15	完形	覆土
12	臼玉	0.50	0.50	0.15	0.06	0.20	完形	覆土、掘方
13	臼玉	0.50	0.50	0.40	0.17	0.15	完形	床上
14	臼玉	0.50	0.50	0.30	0.11	0.15	完形	覆土、掘方
15	臼玉	0.50	0.50	0.25	0.10	0.20	完形	覆土
16	臼玉	0.50	0.50	0.25	0.11	0.15	完形	覆土、掘方
17	臼玉	0.50	0.50	0.15	0.05	0.15	完形	覆土
18	臼玉	0.60	0.60	0.20	0.09	0.20	完形	覆土
19	臼玉	0.60	＜0.55＞	＜0.15＞	＜0.05＞	0.20	一部欠損	覆土
20	臼玉	0.60	0.60	0.20	0.08	0.20	台形、未完成か？	P2

No	器種	法量 長径	法量 短径	法量 厚	法量 重量	加工 穿孔	備考	出土層位
21	臼玉	0.75	0.80	0.50	0.41	0.20	完形	覆土
22	臼玉	＜0.06＞	＜0.40＞	＜0.30＞	＜0.06＞	—	約1/2欠損	覆土
23	臼玉	＜0.50＞	＜0.30＞	＜0.15＞	＜0.02＞	—	約2/3欠損	P2
24	臼玉	＜0.50＞	＜0.30＞	＜0.20＞	＜0.04＞	—	約1/2欠損	覆土
25	臼玉	＜0.50＞	＜0.35＞	＜0.30＞	＜0.07＞	—	約1/2欠損	覆土
26	臼玉	＜0.50＞	＜0.40＞	＜0.25＞	＜0.05＞	—	約1/2欠損	覆土
27	臼玉	＜0.55＞	＜0.25＞	＜0.20＞	＜0.03＞	—	約2/3欠損	覆土
28	臼玉	＜0.55＞	＜0.30＞	＜0.20＞	＜0.04＞	—	約1/2欠損	覆土
29	臼玉	＜0.55＞	＜0.30＞	＜0.25＞	＜0.05＞	—	約2/3欠損	覆土
30	臼玉	＜0.55＞	＜0.30＞	＜0.25＞	＜0.06＞	—	約1/2欠損	覆土
31	臼玉	＜0.55＞	＜0.35＞	＜0.10＞	＜0.03＞	—	約1/2欠損	覆土
32	臼玉	＜0.55＞	＜0.35＞	＜0.15＞	＜0.03＞	—	約2/3欠損	P2

H 15 号住居址出土遺物観察表 (3) 玉及び石製品模造品

No	器種	法量 長径	法量 短径	法量 厚	法量 重量	加工 穿孔	備考	出土層位
33	臼玉	＜0.55＞	＜0.35＞	＜0.15＞	＜0.04＞	—	約 1/2 欠損	P2
34	臼玉	＜0.55＞	＜0.35＞	＜0.20＞	＜0.03＞	—	約 1/2 欠損	P2
35	臼玉	＜0.55＞	＜0.35＞	＜0.20＞	＜0.03＞	—	約 2/3 欠損	P2
36	臼玉	＜0.55＞	＜0.35＞	＜0.20＞	＜0.05＞	—	約 2/3 欠損	覆土
37	臼玉	＜0.55＞	＜0.35＞	＜0.25＞	＜0.04＞	—	約 2/3 欠損	覆土
38	臼玉	＜0.60＞	＜0.30＞	＜0.20＞	＜0.03＞	—	約 2/3 欠損	P2
39	臼玉	＜0.60＞	＜0.35＞	＜0.10＞	＜0.04＞	—	約 1/2 欠損	覆土
40	臼玉	＜0.60＞	＜0.40＞	＜0.20＞	＜0.05＞	—	約 1/2 欠損	覆土
41	臼玉	＜0.60＞	＜0.40＞	＜0.25＞	＜0.05＞	—	約 1/2 欠損	P2
42	臼玉	＜0.60＞	＜0.40＞	＜0.30＞	＜0.09＞	—	約 1/2 欠損	P2
43	臼玉	＜0.60＞	＜0.50＞	＜0.25＞	＜0.10＞	—	約 1/2 欠損	覆土、掘方
44	臼玉	＜0.65＞	＜0.35＞	＜0.30＞	＜0.11＞	—	約 1/2 欠損	覆土
45	臼玉	＜0.65＞	＜0.40＞	＜0.10＞	＜0.04＞	—	約 1/2 欠損	覆土
46	臼玉	＜0.65＞	＜0.40＞	＜0.15＞	＜0.07＞	—	約 1/2 欠損	覆土
47	臼玉	＜0.65＞	＜0.40＞	＜0.15＞	＜0.08＞	—	約 1/2 欠損	覆土
48	臼玉	＜0.65＞	＜0.40＞	＜0.20＞	＜0.04＞	—	約 1/2 欠損	覆土
49	臼玉	＜0.65＞	＜0.45＞	＜0.10＞	＜0.04＞	—	約 2/3 欠損	覆土
50	臼玉	＜0.65＞	＜0.55＞	＜0.15＞	＜0.06＞	—	約 1/2 欠損	覆土
51	臼玉	＜0.65＞	＜0.70＞	0.25	＜0.14＞	0.20	一部欠損	覆土
52	臼玉	＜0.70＞	＜0.40＞	＜0.15＞	＜0.05＞	—	約 1/2 欠損	覆土
53	臼玉	＜0.70＞	＜0.40＞	＜0.20＞	＜0.08＞	—	約 1/2 欠損	覆土
54	臼玉	＜0.70＞	＜0.40＞	＜0.25＞	＜0.11＞	—	約 1/2 欠損	覆土
55	臼玉	＜0.70＞	＜0.40＞	＜0.25＞	＜0.11＞	—	約 1/2 欠損	覆土
56	臼玉	＜0.70＞	＜0.45＞	＜0.25＞	＜0.10＞	—	約 1/2 欠損	覆土
57	臼玉	＜0.70＞	＜0.45＞	＜0.10＞	＜0.03＞	—	約 2/3 欠損	覆土
58	臼玉	＜0.70＞	＜0.50＞	＜0.25＞	＜0.13＞	—	約 1/2 欠損	覆土
59	臼玉	＜0.70＞	＜0.50＞	＜0.20＞	＜0.09＞	—	約 1/2 欠損	覆土
60	臼玉	＜0.75＞	＜0.45＞	＜0.20＞	＜0.07＞	—	約 2/3 欠損	P2
61	臼玉	＜0.80＞	＜0.50＞	＜0.10＞	＜0.06＞	—	約 1/2 欠損	覆土
62	臼玉	＜0.80＞	＜0.60＞	＜0.30＞	＜0.18＞	—	約 1/2 欠損	覆土
63	臼玉	＜0.80＞	＜0.70＞	＜0.30＞	＜0.18＞	—	約 1/2 欠損	覆土
64	臼玉	＜0.85＞	＜0.55＞	＜0.30＞	＜0.15＞	—	約 1/2 欠損	覆土
65	臼玉	＜0.85＞	＜0.60＞	＜0.25＞	＜0.15＞	—	約 1/2 欠損	覆土
66	臼玉	＜0.85＞	＜0.60＞	＜0.25＞	＜0.19＞	—	約 1/2 欠損	覆土
67	臼玉	＜0.90＞	＜0.55＞	＜0.15＞	＜0.13＞	—	約 1/2 欠損	覆土
68	臼玉	＜1.00＞	＜0.70＞	＜0.20＞	＜0.19＞	—	約 1/2 欠損	覆土
69	臼玉未成品	0.65	0.65	0.15	0.13	—	滑痕、染痕あり	覆土
70	臼玉未成品	0.65	0.65	0.25	0.16	—	滑痕あり	覆土
71	臼玉未成品	0.70	0.65	0.15	0.09	—	滑痕、染痕あり	覆土
72	臼玉未成品	0.70	0.65	0.15	0.09	—	滑痕、染痕あり	覆土
73	臼玉未成品	0.70	0.70	0.15	0.14	—	滑痕、染痕あり	覆土
74	臼玉未成品	0.70	0.70	0.25	0.18	—	滑痕あり	覆土
75	臼玉未成品	0.70	0.70	0.30	0.20	—	滑痕あり	覆土、掘方
76	臼玉未成品	0.70	0.75	0.25	0.20	—	滑痕あり	覆土
77	臼玉未成品	0.70	0.80	0.20	0.16	—	滑痕あり	覆土
78	臼玉未成品	0.70	0.90	0.20	0.18	—	滑痕あり	P2
79	臼玉未成品	0.75	0.60	0.20	0.16	—	滑痕あり	覆土
80	臼玉未成品	0.75	0.60	0.30	0.16	—	滑痕あり	覆土
81	臼玉未成品	0.75	0.60	0.30	0.19	—	滑痕、側面切り痕跡あり	覆土
82	臼玉未成品	0.75	0.65	0.30	0.17	—	滑痕あり	覆土
83	臼玉未成品	0.75	0.65	0.30	0.18	—	滑痕あり	覆土
84	臼玉未成品	0.75	0.65	0.30	0.25	—	滑痕あり	覆土
85	臼玉未成品	0.75	0.70	0.20	0.14	—	滑痕、染痕あり	覆土
86	臼玉未成品	0.75	0.70	0.15	0.20	—	滑痕あり	覆土、床土
87	臼玉未成品	0.75	0.85	0.15	0.22	—	滑痕あり	覆土、床土
88	臼玉未成品	0.75	0.75	0.20	0.18	—	滑痕あり	覆土
89	臼玉未成品	0.75	0.80	0.25	0.35	—	滑痕あり	覆土
90	臼玉未成品	0.75	0.95	0.30	0.44	—	滑痕あり	覆土
91	臼玉未成品	0.80	0.60	0.20	0.10	—	滑痕、染痕あり	覆土
92	臼玉未成品	0.80	0.60	0.25	0.19	—	滑痕あり	覆土
93	臼玉未成品	0.80	0.60	0.25	0.21	—	滑痕あり	覆土、床土
94	臼玉未成品	0.80	0.60	0.30	0.19	—	滑痕あり	覆土
95	臼玉未成品	0.80	0.60	0.30	0.23	—	滑痕あり	覆土
96	臼玉未成品	0.80	0.65	0.15	0.13	—	滑痕、染痕あり	覆土
97	臼玉未成品	0.80	0.70	0.15	0.15	—	滑痕、染痕あり	覆土
98	臼玉未成品	0.80	0.70	0.20	0.22	—	滑痕あり	覆土
99	臼玉未成品	0.80	0.70	0.25	0.26	—	滑痕あり	覆土
100	臼玉未成品	0.80	0.70	0.25	0.26	—	滑痕あり	覆土
101	臼玉未成品	0.80	0.70	0.30	0.21	—	滑痕あり	覆土
102	臼玉未成品	0.80	0.70	0.35	0.27	—	滑痕あり	覆土
103	臼玉未成品	0.80	0.75	0.15	0.16	—	滑痕あり	覆土
104	臼玉未成品	0.80	0.75	0.20	0.18	—	滑痕あり	覆土
105	臼玉未成品	0.80	0.80	0.15	0.19	—	滑痕あり	覆土
106	臼玉未成品	0.80	0.80	0.20	0.22	—	滑痕あり	覆土
107	臼玉未成品	0.80	0.80	0.25	0.20	—	滑痕あり	覆土
108	臼玉未成品	0.80	0.80	0.25	0.26	—	滑痕あり	覆土
109	臼玉未成品	0.80	0.80	0.25	0.28	—	滑痕あり	覆土
110	臼玉未成品	0.80	0.80	0.30	0.30	—	滑痕あり	覆土
111	臼玉未成品	0.80	0.80	0.35	0.30	—	滑痕あり	覆土
112	臼玉未成品	0.80	0.80	0.35	0.31	—	滑痕あり	覆土
113	臼玉未成品	0.80	0.85	0.20	0.18	—	滑痕あり	覆土、床土
114	臼玉未成品	0.80	0.85	0.25	0.18	—	滑痕あり	P2
115	臼玉未成品	0.80	0.90	0.25	0.36	—	滑痕あり	覆土
116	臼玉未成品	0.80	0.90	0.30	0.39	—	滑痕あり	覆土、床土
117	臼玉未成品	0.85	0.70	0.20	0.16	—	滑痕あり	覆土
118	臼玉未成品	0.85	0.70	0.20	0.20	—	滑痕あり	覆土
119	臼玉未成品	0.85	0.70	0.30	0.25	—	滑痕あり	覆土
120	臼玉未成品	0.85	0.70	0.30	0.27	—	滑痕あり	覆土
121	臼玉未成品	0.85	0.70	0.30	0.28	—	滑痕あり	覆土
122	臼玉未成品	0.85	0.75	0.25	0.23	—	滑痕あり	覆土
123	臼玉未成品	0.85	0.75	0.25	0.28	—	滑痕あり	覆土
124	臼玉未成品	0.85	0.75	0.25	0.32	—	滑痕あり	覆土
125	臼玉未成品	0.85	0.75	0.30	0.27	—	滑痕あり	覆土
126	臼玉未成品	0.85	0.75	0.30	0.31	—	滑痕あり	覆土
127	臼玉未成品	0.85	0.80	0.15	0.22	—	滑痕あり	覆土、床土
128	臼玉未成品	0.85	0.80	0.25	0.25	—	滑痕あり	覆土
129	臼玉未成品	0.85	0.80	0.25	0.27	—	滑痕あり	覆土
130	臼玉未成品	0.85	0.80	0.30	0.23	—	滑痕あり	覆土
131	臼玉未成品	0.85	0.80	0.30	0.39	—	滑痕あり	覆土
132	臼玉未成品	0.85	0.80	0.35	0.35	—	滑痕あり	覆土
133	臼玉未成品	0.85	0.80	0.40	0.32	—	滑痕あり	覆土
134	臼玉未成品	0.85	0.85	0.20	0.24	—	滑痕あり	覆土
135	臼玉未成品	0.85	0.85	0.20	0.25	—	滑痕あり	覆土
136	臼玉未成品	0.85	0.85	0.25	0.34	—	滑痕あり	覆土、床土
137	臼玉未成品	0.85	0.85	0.30	0.37	—	滑痕あり	覆土
138	臼玉未成品	0.85	0.85	0.35	0.37	—	滑痕あり	覆土

H 15 号住居址出土遺物観察表 (4) 玉及び石製品模造品

No	器種	法量 長径	法量 短径	法量 厚	法量 重量	加工 穿孔	備考	出土層位
139	臼玉未成品	0.85	0.90	0.20	0.26	—	擦痕あり	覆土
140	臼玉未成品	0.85	0.90	0.25	0.34	—	擦痕あり	覆土
141	臼玉未成品	0.85	0.90	0.30	0.29	—	擦痕あり	覆土
142	臼玉未成品	0.85	0.90	0.30	0.30	—	擦痕あり	覆土
143	臼玉未成品	0.85	0.90	0.35	0.44	—	擦痕あり	覆土
144	臼玉未成品	0.90	0.06	0.15	0.12	—	擦痕、条痕あり	覆土
145	臼玉未成品	0.90	0.55	0.30	0.14	—	擦痕、条痕あり	覆土
146	臼玉未成品	0.90	0.65	0.30	0.29	—	擦痕あり	P2
147	臼玉未成品	0.90	0.70	0.15	0.19	—	擦痕あり	覆土
148	臼玉未成品	0.90	0.70	0.25	0.17	—	擦痕あり	覆土
149	臼玉未成品	0.90	0.70	0.30	0.24	—	擦痕あり	覆土
150	臼玉未成品	0.90	0.70	0.30	0.24	—	擦痕あり	覆土
151	臼玉未成品	0.90	0.75	0.10	0.13	—	擦痕、条痕あり	覆土
152	臼玉未成品	0.90	0.75	0.15	0.19	—	擦痕あり	覆土
153	臼玉未成品	0.90	0.75	0.20	0.21	—	擦痕あり	覆土
154	臼玉未成品	0.90	0.80	0.20	0.19	—	擦痕あり	覆土
155	臼玉未成品	0.90	0.80	0.20	0.26	—	擦痕あり	覆土
156	臼玉未成品	0.90	0.80	0.20	0.30	—	擦痕あり	覆土
157	臼玉未成品	0.90	0.80	0.30	0.24	—	擦痕あり	覆土
158	臼玉未成品	0.90	0.80	0.30	0.28	—	擦痕あり	覆土
159	臼玉未成品	0.90	0.80	0.35	0.41	—	擦痕あり	覆土、床上
160	臼玉未成品	0.90	0.80	0.35	0.46	—	擦痕あり	覆土、掘方
161	臼玉未成品	0.90	0.85	0.20	0.24	—	擦痕あり	覆土
162	臼玉未成品	0.90	0.85	0.25	0.30	—	擦痕あり	覆土
163	臼玉未成品	0.90	0.85	0.30	0.37	—	擦痕あり	覆土
164	臼玉未成品	0.90	0.85	0.30	0.38	—	擦痕あり	覆土
165	臼玉未成品	0.90	0.90	0.20	0.29	—	擦痕あり	覆土
166	臼玉未成品	0.90	0.90	0.25	0.30	—	擦痕あり	覆土、床上
167	臼玉未成品	0.90	0.90	0.30	0.33	—	擦痕あり	覆土
168	臼玉未成品	0.90	0.90	0.30	0.36	—	擦痕あり	覆土
169	臼玉未成品	0.90	0.90	0.30	0.45	—	擦痕あり	覆土
170	臼玉未成品	0.90	0.90	0.35	0.41	—	擦痕あり	覆土、床上
171	臼玉未成品	0.90	0.95	0.20	0.25	—	擦痕あり	覆土
172	臼玉未成品	0.90	0.95	0.25	0.26	—	擦痕あり	覆土、掘方
173	臼玉未成品	0.90	0.95	0.30	0.39	—	擦痕あり	覆土
174	臼玉未成品	0.90	0.95	0.30	0.39	—	擦痕あり	覆土
175	臼玉未成品	0.90	1.00	0.30	0.43	—	擦痕あり	覆土
176	臼玉未成品	0.90	1.00	0.40	0.61	—	擦痕あり	覆土
177	臼玉未成品	0.95	0.65	0.25	0.29	—	擦痕あり	覆土
178	臼玉未成品	0.95	0.70	0.30	0.30	—	擦痕あり	覆土
179	臼玉未成品	0.95	0.75	0.15	0.16	—	擦痕あり	覆土
180	臼玉未成品	0.95	0.75	0.20	0.22	—	擦痕あり	覆土
181	臼玉未成品	0.95	0.75	0.20	0.24	—	擦痕あり	覆土
182	臼玉未成品	0.95	0.75	0.25	0.30	—	擦痕あり	覆土、床上
183	臼玉未成品	0.95	0.80	0.25	0.28	—	擦痕あり	覆土
184	臼玉未成品	0.95	0.85	0.20	0.25	—	擦痕あり	覆土
185	臼玉未成品	0.95	0.90	0.20	0.28	—	擦痕あり	覆土、床上
186	臼玉未成品	0.95	0.90	0.20	0.34	—	擦痕あり	覆土
187	臼玉未成品	1.00	0.70	0.25	0.20	—	擦痕あり	覆土、掘方
188	臼玉未成品	1.00	0.75	0.35	0.34	—	擦痕あり	覆土
189	臼玉未成品	1.00	0.80	0.30	0.28	—	擦痕あり	覆土
190	臼玉未成品	1.00	0.80	0.30	0.35	—	擦痕あり	覆土
191	臼玉未成品	1.00	0.80	0.30	0.36	—	擦痕あり	覆土
192	臼玉未成品	1.00	0.85	0.25	0.31	—	擦痕あり	覆土
193	臼玉未成品	1.00	1.00	0.25	0.38	—	擦痕あり	覆土
194	臼玉未成品	1.05	0.95	0.20	0.27	—	擦痕あり	覆土、床上
195	臼玉未成品	1.05	1.00	0.35	0.56	—	擦痕あり	覆土、床上
196	臼玉未成品	1.10	0.80	0.25	0.31	—	擦痕あり	覆土、床上
197	臼玉未成品	1.15	0.70	0.30	0.30	—	擦痕あり	覆土
198	臼玉未成品	1.35	0.90	0.15	0.38	—	擦痕あり	覆土
199	臼玉未成品	0.60	0.60	0.20	0.09	0.20	穿孔途中、擦痕あり	覆土
200	臼玉未成品	0.70	0.60	0.05	0.09	0.15	穿孔途中、擦痕あり	覆土、掘方
201	臼玉未成品	0.70	0.65	0.20	0.12	0.15	穿孔途中、擦痕あり	覆土、掘方
202	臼玉未成品	0.70	0.70	0.30	0.26	0.20	穿孔途中、擦痕あり	覆土
203	臼玉未成品	0.75	0.85	0.15	0.16	0.20	穿孔途中、擦痕あり	覆土
204	臼玉未成品	0.80	0.75	0.30	0.23	0.20	穿孔途中、擦痕あり	覆土
205	臼玉未成品	0.80	0.80	0.15	0.13	0.10	穿孔途中、擦痕あり	覆土、掘方
206	臼玉未成品	0.80	0.85	0.15	0.14	0.20	穿孔途中、擦痕あり、穿孔 2	覆土、床上
207	臼玉未成品	0.80	1.00	0.35	0.40	0.25	穿孔途中、擦痕あり、穿孔 2	覆土
208	臼玉未成品	0.85	0.70	0.40	0.31	0.20	穿孔途中、擦痕あり	覆土
209	臼玉未成品	0.90	0.75	0.10	0.15	0.20	穿孔途中、擦痕あり	覆土
210	臼玉未成品	0.90	0.75	0.30	0.29	0.30	穿孔途中、擦痕あり	覆土
211	臼玉未成品	0.90	0.75	0.35	0.29	0.20	穿孔途中、擦痕あり	覆土
212	臼玉未成品	0.90	1.00	0.30	0.35	0.20	穿孔途中、擦痕あり	覆土
213	臼玉未成品	0.90	1.00	0.30	0.47	0.20	穿孔途中、擦痕、条痕あり	覆土
214	臼玉未成品	0.95	0.85	0.30	0.36	0.25	穿孔途中、擦痕あり	覆土
215	臼玉未成品	0.95	0.90	0.35	0.45	0.20	穿孔途中、擦痕あり、穿孔 2	覆土
216	臼玉未成品	0.95	0.95	0.40	0.55	0.20	穿孔途中、擦痕、条痕あり、穿孔 2	覆土
217	臼玉未成品	0.95	0.95	0.40	0.56	0.20	穿孔途中、擦痕、条痕あり	覆土
218	臼玉未成品	1.00	0.70	0.35	0.43	0.30	穿孔途中、擦痕あり	覆土
219	臼玉未成品	1.10	1.10	0.50	0.59	0.20	穿孔途中、擦痕、条痕あり	P2
220	臼玉未成品	1.50	1.05	0.35	0.40	0.20	穿孔途中、擦痕あり	覆土
221	臼玉未成品	< 0.60 >	< 0.55 >	< 0.35 >	< 0.17 >	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
222	臼玉未成品	< 0.65 >	< 0.35 >	< 0.20 >	< 0.08 >	(0.20)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土、掘方
223	臼玉未成品	< 0.70 >	< 0.40 >	< 0.30 >	< 0.11 >	(0.30)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
224	臼玉未成品	< 0.70 >	< 0.55 >	< 0.15 >	< 0.11 >	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	P2
225	臼玉未成品	< 0.70 >	< 0.55 >	< 0.25 >	< 0.12 >	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
226	臼玉未成品	< 0.70 >	< 0.55 >	< 0.30 >	< 0.20 >	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
227	臼玉未成品	< 0.70 >	< 0.60 >	< 0.25 >	< 0.13 >	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
228	臼玉未成品	< 0.70 >	< 0.65 >	< 0.20 >	< 0.10 >	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土、床上
229	臼玉未成品	< 0.75 >	< 0.40 >	< 0.35 >	< 0.16 >	(0.20)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土、掘方
230	臼玉未成品	< 0.75 >	< 0.50 >	< 0.25 >	< 0.14 >	(0.30)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土、掘方
231	臼玉未成品	< 0.75 >	< 0.65 >	< 0.30 >	< 0.20 >	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
232	臼玉未成品	< 0.80 >	< 0.40 >	< 0.20 >	< 0.09 >	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
233	臼玉未成品	< 0.80 >	< 0.40 >	< 0.25 >	< 0.11 >	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
234	臼玉未成品	< 0.80 >	< 0.45 >	< 0.30 >	< 0.14 >	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
235	臼玉未成品	< 0.80 >	< 0.55 >	< 0.35 >	< 0.13 >	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土、床上
236	臼玉未成品	< 0.80 >	< 0.60 >	< 0.30 >	< 0.14 >	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
237	臼玉未成品	< 0.80 >	< 0.60 >	< 0.30 >	< 0.20 >	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
238	臼玉未成品	< 0.80 >	< 0.65 >	< 0.25 >	< 0.19 >	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
239	臼玉未成品	< 0.80 >	< 0.75 >	< 0.30 >	< 0.19 >	(0.20)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	P2
240	臼玉未成品	< 0.80 >	< 0.85 >	< 0.25 >	< 0.21 >	(0.30)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり、穿孔 2	覆土
241	臼玉未成品	< 0.85 >	< 0.45 >	< 0.20 >	< 0.07 >	(0.20)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土、床上
242	臼玉未成品	< 0.85 >	< 0.50 >	< 0.20 >	< 0.13 >	(0.20)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
243	臼玉未成品	< 0.85 >	< 0.50 >	< 0.20 >	< 0.13 >	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土

H 15 号住居址出土遺物観察表 (5) 玉及び石製品模造品

No	器種	法量 長径	法量 短径	法量 厚	法量 重量	加工 穿孔	備考	出土層位
244	臼玉未成品	＜0.85＞	＜0.65＞	＜0.25＞	＜0.18＞	(0.10)～(0.20)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり、穿孔 4	覆土
245	臼玉未成品	＜0.85＞	＜0.65＞	＜0.25＞	＜0.20＞	(0.20)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
246	臼玉未成品	＜0.85＞	＜0.65＞	＜0.25＞	＜0.20＞	(0.20)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり、穿孔 2	P2
247	臼玉未成品	＜0.85＞	＜0.70＞	＜0.25＞	＜0.23＞	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
248	臼玉未成品	＜0.85＞	＜0.70＞	＜0.35＞	＜0.27＞	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
249	臼玉未成品	＜0.85＞	＜0.75＞	＜0.30＞	＜0.25＞	(0.30)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり、穿孔 2	覆土
250	臼玉未成品	＜0.85＞	＜0.80＞	＜0.35＞	＜0.37＞	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
251	臼玉未成品	＜0.85＞	＜0.90＞	＜0.30＞	＜0.25＞	(0.30)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土、層厚
252	臼玉未成品	＜0.85＞	＜0.90＞	＜0.30＞	＜0.27＞	(0.30)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
253	臼玉未成品	＜0.90＞	＜0.55＞	＜0.35＞	＜0.28＞	(0.20)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
254	臼玉未成品	＜0.90＞	＜0.60＞	＜0.10＞	＜0.11＞	(0.20)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
255	臼玉未成品	＜0.90＞	＜0.60＞	＜0.20＞	＜0.16＞	(0.15)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
256	臼玉未成品	＜0.90＞	＜0.60＞	＜0.25＞	＜0.25＞	(0.20)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
257	臼玉未成品	＜0.90＞	＜0.70＞	＜0.20＞	＜0.20＞	(0.25)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
258	臼玉未成品	＜0.90＞	＜0.70＞	＜0.30＞	＜0.23＞	(0.20)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
259	臼玉未成品	＜0.95＞	＜0.70＞	＜0.30＞	＜0.27＞	(0.20)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
260	臼玉未成品	＜1.00＞	＜0.70＞	＜0.30＞	＜0.27＞	(0.30)	一部欠損、穿孔途中、擦痕あり	覆土
261	臼玉未成品	0.60	0.75	0.30	0.21	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
262	臼玉未成品	0.65	0.60	0.30	0.21	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
263	臼玉未成品	0.70	0.70	0.20	0.11	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
264	臼玉未成品	0.70	0.80	0.35	0.25	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土、床上
265	臼玉未成品	0.70	0.90	0.35	0.25	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
266	臼玉未成品	0.75	0.80	0.15	0.13	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
267	臼玉未成品	0.80	0.60	0.15	0.10	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
268	臼玉未成品	0.80	0.65	0.20	0.14	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土、床上
269	臼玉未成品	0.80	0.65	0.30	0.17	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土、床上
270	臼玉未成品	0.80	0.70	0.15	0.14	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
271	臼玉未成品	0.80	0.70	0.20	0.13	0.15	穿孔、擦痕あり	覆土
272	臼玉未成品	0.80	0.70	0.20	0.13	0.15	穿孔、擦痕あり	覆土、床上
273	臼玉未成品	0.80	0.70	0.30	0.18	0.15	穿孔、擦痕あり	覆土
274	臼玉未成品	0.80	0.70	0.30	0.22	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
275	臼玉未成品	0.80	0.70	0.30	0.23	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
276	臼玉未成品	0.80	0.80	0.25	0.16	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
277	臼玉未成品	0.80	0.80	0.25	0.19	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
278	臼玉未成品	0.80	0.80	0.30	0.24	0.20	穿孔、擦痕あり	P2
279	臼玉未成品	0.80	0.80	0.30	0.27	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
280	臼玉未成品	0.80	0.85	0.20	0.20	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
281	臼玉未成品	0.80	0.85	0.25	0.25	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
282	臼玉未成品	0.80	0.85	0.25	0.26	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
283	臼玉未成品	0.85	0.65	0.15	0.17	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土、床上
284	臼玉未成品	0.85	0.75	0.15	0.13	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
285	臼玉未成品	0.85	0.75	0.25	0.20	0.15	穿孔、擦痕あり	覆土、床上
286	臼玉未成品	0.85	0.75	0.30	0.29	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
287	臼玉未成品	0.85	0.75	0.40	0.35	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
288	臼玉未成品	0.85	0.80	0.15	0.20	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
289	臼玉未成品	0.85	0.80	0.20	0.23	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土、層厚
290	臼玉未成品	0.85	0.90	0.30	0.28	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
291	臼玉未成品	0.90	0.60	0.20	0.16	0.15	穿孔、擦痕あり	覆土
292	臼玉未成品	0.90	0.65	0.15	0.15	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
293	臼玉未成品	0.90	0.65	0.25	0.24	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
294	臼玉未成品	0.90	0.70	0.20	0.14	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
295	臼玉未成品	0.90	0.70	0.30	0.27	0.20	穿孔、擦痕あり	P2
296	臼玉未成品	0.90	0.75	0.25	0.22	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
297	臼玉未成品	0.90	0.75	0.30	0.30	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
298	臼玉未成品	0.90	0.80	0.20	0.19	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
299	臼玉未成品	0.90	0.80	0.20	0.20	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
300	臼玉未成品	0.90	0.80	0.25	0.21	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
301	臼玉未成品	0.90	0.80	0.25	0.27	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
302	臼玉未成品	0.90	0.80	0.30	0.37	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
303	臼玉未成品	0.90	0.85	0.25	0.38	0.15	穿孔、擦痕あり	覆土、床上
304	臼玉未成品	0.90	0.85	0.30	0.40	0.15	穿孔、擦痕あり	覆土
305	臼玉未成品	0.90	0.85	0.35	0.40	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
306	臼玉未成品	0.90	0.90	0.30	0.36	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
307	臼玉未成品	0.90	0.90	0.35	0.40	0.20	穿孔、擦痕あり、穿孔途中あり	覆土
308	臼玉未成品	0.90	0.90	0.35	0.44	0.15	穿孔、擦痕あり	覆土、床上
309	臼玉未成品	0.95	0.75	0.20	0.21	0.20	穿孔、擦痕あり	P2
310	臼玉未成品	0.95	0.80	0.15	0.21	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
311	臼玉未成品	0.95	0.80	0.25	0.29	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
312	臼玉未成品	0.95	0.80	0.30	0.36	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
313	臼玉未成品	0.95	0.80	0.35	0.30	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土、層厚
314	臼玉未成品	0.95	0.80	0.35	0.32	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
315	臼玉未成品	0.95	0.85	0.30	0.32	0.25	穿孔、擦痕あり	覆土、層厚
316	臼玉未成品	0.95	0.90	0.25	0.28	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
317	臼玉未成品	0.95	0.90	0.30	0.31	0.15	穿孔、擦痕あり	覆土
318	臼玉未成品	0.95	0.95	0.35	0.35	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
319	臼玉未成品	1.00	0.80	0.40	0.47	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
320	臼玉未成品	1.00	0.85	0.30	0.31	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土、床上
321	臼玉未成品	1.00	0.90	0.30	0.26	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土、床上
322	臼玉未成品	1.00	0.90	0.30	0.38	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
323	臼玉未成品	1.00	0.95	0.35	0.51	0.20	穿孔、擦痕あり	覆土
324	臼玉未成品	1.05	0.70	0.30	0.27	0.20	穿孔、擦痕あり	P2
325	臼玉未成品	＜0.60＞	＜0.40＞	＜0.20＞	＜0.04＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土、層厚
326	臼玉未成品	＜0.60＞	＜0.40＞	＜0.20＞	＜0.07＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
327	臼玉未成品	＜0.60＞	＜0.45＞	＜0.25＞	＜0.07＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土、層厚
328	臼玉未成品	＜0.60＞	＜0.50＞	＜0.35＞	＜0.17＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
329	臼玉未成品	＜0.65＞	＜0.35＞	＜0.10＞	＜0.02＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土、層厚
330	臼玉未成品	＜0.65＞	＜0.35＞	＜0.15＞	＜0.03＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
331	臼玉未成品	＜0.65＞	＜0.40＞	＜0.25＞	＜0.08＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
332	臼玉未成品	＜0.65＞	＜0.45＞	＜0.15＞	＜0.06＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
333	臼玉未成品	＜0.65＞	＜0.45＞	＜0.15＞	＜0.07＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
334	臼玉未成品	＜0.65＞	＜0.70＞	＜0.10＞	＜0.07＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
335	臼玉未成品	＜0.70＞	＜0.40＞	＜0.10＞	＜0.04＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	P2
336	臼玉未成品	＜0.70＞	＜0.45＞	＜0.10＞	＜0.03＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
337	臼玉未成品	＜0.70＞	＜0.45＞	＜0.15＞	＜0.07＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
338	臼玉未成品	＜0.70＞	＜0.45＞	＜0.25＞	＜0.09＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
339	臼玉未成品	＜0.70＞	＜0.45＞	＜0.25＞	＜0.11＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
340	臼玉未成品	＜0.70＞	＜0.50＞	＜0.10＞	＜0.04＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
341	臼玉未成品	＜0.70＞	＜0.50＞	＜0.15＞	＜0.07＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
342	臼玉未成品	＜0.70＞	＜0.50＞	＜0.30＞	＜0.13＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	P2
343	臼玉未成品	＜0.70＞	＜0.55＞	＜0.25＞	＜0.13＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
344	臼玉未成品	＜0.70＞	＜0.55＞	＜0.25＞	＜0.14＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
345	臼玉未成品	＜0.70＞	＜0.60＞	＜0.15＞	＜0.08＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
346	臼玉未成品	＜0.70＞	＜0.60＞	＜0.15＞	＜0.09＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
347	臼玉未成品	＜0.70＞	＜0.60＞	＜0.15＞	＜0.10＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
348	臼玉未成品	＜0.70＞	＜0.60＞	＜0.15＞	＜0.10＞	－	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土

H 15 号住居址出土遺物観察表 (6) 玉及び石製品模造品

No	器種	法量 長径	法量 短径	法量 厚	法量 重量	加工 穿孔	備考	出土層位
349	臼玉未成品	＜0.70	＜0.60	＜0.25	＜0.13	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
350	臼玉未成品	＜0.70	＜0.65	＜0.15	＜0.09	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
351	臼玉未成品	＜0.70	＜0.70	＜0.20	＜0.17	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
352	臼玉未成品	＜0.70	＜0.75	＜0.30	＜0.22	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
353	臼玉未成品	＜0.70	＜0.80	＜0.15	＜0.17	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
354	臼玉未成品	＜0.70	＜0.85	＜0.15	＜0.16	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
355	臼玉未成品	＜0.75	＜0.45	＜0.15	＜0.08	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土、掘方
356	臼玉未成品	＜0.75	＜0.45	＜0.20	＜0.08	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	P2
357	臼玉未成品	＜0.75	＜0.50	＜0.15	＜0.06	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
358	臼玉未成品	＜0.75	＜0.50	＜0.15	＜0.09	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
359	臼玉未成品	＜0.75	＜0.50	＜0.25	＜0.08	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
360	臼玉未成品	＜0.75	＜0.50	＜0.25	＜0.10	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
361	臼玉未成品	＜0.75	＜0.50	＜0.25	＜0.10	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
362	臼玉未成品	＜0.75	＜0.50	＜0.25	＜0.10	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
363	臼玉未成品	＜0.75	＜0.50	＜0.25	＜0.11	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
364	臼玉未成品	＜0.75	＜0.55	＜0.20	＜0.08	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
365	臼玉未成品	＜0.75	＜0.60	＜0.15	＜0.06	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	P2
366	臼玉未成品	＜0.75	＜0.60	＜0.25	＜0.08	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
367	臼玉未成品	＜0.75	＜0.60	＜0.25	＜0.12	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
368	臼玉未成品	＜0.75	＜0.60	＜0.35	＜0.18	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土、掘方
369	臼玉未成品	＜0.75	＜0.60	＜0.60	＜0.09	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土、床上
370	臼玉未成品	＜0.80	＜0.35	＜0.15	＜0.06	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
371	臼玉未成品	＜0.80	＜0.35	＜0.20	＜0.08	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	P2
372	臼玉未成品	＜0.80	＜0.40	＜0.25	＜0.11	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
373	臼玉未成品	＜0.80	＜0.40	＜0.25	＜0.14	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
374	臼玉未成品	＜0.80	＜0.40	＜0.35	＜0.09	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
375	臼玉未成品	＜0.80	＜0.45	＜0.20	＜0.11	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
376	臼玉未成品	＜0.80	＜0.45	＜0.25	＜0.09	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
377	臼玉未成品	＜0.80	＜0.45	＜0.25	＜0.09	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
378	臼玉未成品	＜0.80	＜0.45	＜0.30	＜0.13	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
379	臼玉未成品	＜0.80	＜0.45	＜0.35	＜0.17	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
380	臼玉未成品	＜0.80	＜0.50	＜0.10	＜0.04	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
381	臼玉未成品	＜0.80	＜0.50	＜0.15	＜0.08	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
382	臼玉未成品	＜0.80	＜0.50	＜0.20	＜0.10	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
383	臼玉未成品	＜0.80	＜0.50	＜0.20	＜0.10	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	P2
384	臼玉未成品	＜0.80	＜0.50	＜0.25	＜0.11	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
385	臼玉未成品	＜0.80	＜0.50	＜0.25	＜0.14	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	P2
386	臼玉未成品	＜0.80	＜0.55	＜0.25	＜0.10	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
387	臼玉未成品	＜0.80	＜0.55	＜0.25	＜0.11	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
388	臼玉未成品	＜0.80	＜0.55	＜0.30	＜0.14	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土、掘方
389	臼玉未成品	＜0.80	＜0.55	＜0.35	＜0.18	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
390	臼玉未成品	＜0.80	＜0.60	＜0.15	＜0.07	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
391	臼玉未成品	＜0.80	＜0.60	＜0.15	＜0.11	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
392	臼玉未成品	＜0.80	＜0.60	＜0.25	＜0.10	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
393	臼玉未成品	＜0.80	＜0.60	＜0.25	＜0.23	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	P2
394	臼玉未成品	＜0.80	＜0.60	＜0.30	＜0.16	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
395	臼玉未成品	＜0.80	＜0.60	＜0.40	＜0.24	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	P2
396	臼玉未成品	＜0.80	＜0.65	＜0.25	＜0.18	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
397	臼玉未成品	＜0.80	＜0.70	＜0.15	＜0.09	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
398	臼玉未成品	＜0.80	＜0.70	＜0.20	＜0.12	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
399	臼玉未成品	＜0.80	＜0.70	＜0.20	＜0.13	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
400	臼玉未成品	＜0.80	＜0.70	＜0.25	＜0.18	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
401	臼玉未成品	＜0.80	＜0.75	＜0.25	＜0.21	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
402	臼玉未成品	＜0.80	＜0.80	＜0.25	＜0.18	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
403	臼玉未成品	＜0.85	＜0.50	＜0.25	＜0.15	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
404	臼玉未成品	＜0.85	＜0.50	＜0.25	＜0.15	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
405	臼玉未成品	＜0.85	＜0.50	＜0.25	＜0.16	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
406	臼玉未成品	＜0.85	＜0.50	＜0.25	＜0.16	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
407	臼玉未成品	＜0.85	＜0.55	＜0.15	＜0.07	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
408	臼玉未成品	＜0.85	＜0.60	＜0.25	＜0.15	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
409	臼玉未成品	＜0.85	＜0.60	＜0.25	＜0.20	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
410	臼玉未成品	＜0.85	＜0.65	＜0.20	＜0.12	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土、床上
411	臼玉未成品	＜0.85	＜0.65	＜0.25	＜0.15	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土、床上
412	臼玉未成品	＜0.85	＜0.70	＜0.15	＜0.16	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
413	臼玉未成品	＜0.85	＜0.70	＜0.25	＜0.15	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
414	臼玉未成品	＜0.85	＜0.70	＜0.25	＜0.20	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
415	臼玉未成品	＜0.85	＜0.75	＜0.15	＜0.13	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
416	臼玉未成品	＜0.85	＜0.85	＜0.25	＜0.16	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
417	臼玉未成品	＜0.85	＜0.85	＜0.25	＜0.24	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
418	臼玉未成品	＜0.85	＜0.90	＜0.15	＜0.16	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
419	臼玉未成品	＜0.90	＜0.40	＜0.30	＜0.16	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
420	臼玉未成品	＜0.90	＜0.45	＜0.25	＜0.12	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
421	臼玉未成品	＜0.90	＜0.50	＜0.25	＜0.18	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
422	臼玉未成品	＜0.90	＜0.55	＜0.25	＜0.17	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
423	臼玉未成品	＜0.90	＜0.60	＜0.10	＜0.06	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
424	臼玉未成品	＜0.90	＜0.60	＜0.15	＜0.14	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
425	臼玉未成品	＜0.90	＜0.60	＜0.20	＜0.14	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
426	臼玉未成品	＜0.90	＜0.60	＜0.25	＜0.14	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
427	臼玉未成品	＜0.90	＜0.60	＜0.25	＜0.17	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
428	臼玉未成品	＜0.90	＜0.60	＜0.30	＜0.20	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
429	臼玉未成品	＜0.90	＜0.60	＜0.30	＜0.28	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
430	臼玉未成品	＜0.90	＜0.60	＜0.35	＜0.20	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
431	臼玉未成品	＜0.90	＜0.65	＜0.25	＜0.18	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土、掘方
432	臼玉未成品	＜0.90	＜0.65	＜0.30	＜0.28	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
433	臼玉未成品	＜0.90	＜0.70	＜0.30	＜0.32	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
434	臼玉未成品	＜0.90	＜0.75	＜0.40	＜0.33	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土、床上
435	臼玉未成品	＜0.90	＜0.80	＜0.15	＜0.11	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
436	臼玉未成品	＜0.90	＜0.80	＜0.35	＜0.31	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
437	臼玉未成品	＜0.90	＜0.85	＜0.30	＜0.26	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
438	臼玉未成品	＜0.95	＜0.45	＜0.25	＜0.14	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
439	臼玉未成品	＜0.95	＜0.60	＜0.30	＜0.15	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
440	臼玉未成品	＜0.95	＜0.60	＜0.35	＜0.21	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土、掘方
441	臼玉未成品	＜0.95	＜0.70	＜0.35	＜0.27	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
442	臼玉未成品	＜0.95	＜0.70	＜0.40	＜0.27	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
443	臼玉未成品	＜1.00	＜0.35	＜0.30	＜0.13	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
444	臼玉未成品	＜1.00	＜0.50	＜0.20	＜0.11	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
445	臼玉未成品	＜1.00	＜0.50	＜0.35	＜0.20	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
446	臼玉未成品	＜1.00	＜0.55	＜0.20	＜0.14	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
447	臼玉未成品	＜1.00	＜0.60	＜0.30	＜0.25	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
448	臼玉未成品	＜1.00	＜0.70	＜0.30	＜0.25	—	一部欠損、穿孔、擦痕あり	覆土
449	石製模造品 未成品	＜2.40	＜2.65	＜0.25	＜2.30	—	一部欠損、穿孔あり	覆土、床上
450	素材	1.70	1.40	0.25	0.90	—	擦痕あり	覆土
451	素材	1.70	1.60	0.20	0.96	—	擦痕あり	覆土
452	素材	1.80	1.00	0.30	0.70	—	擦痕あり	覆土
453	素材	1.85	1.95	0.45	1.74	—	条痕、擦痕あり	覆土
454	素材	1.90	1.55	0.30	1.34	—	擦痕あり	覆土

H 15 号住居址出土遺物観察表 (7) 玉及び石製品模造品

No	器種	法量 長径	法量 短径	法量 厚	法量 重量	加工 穿孔	備考	出土層位
455	素材	2.00	1.60	0.55	2.07	—	擦痕あり	覆上
456	素材	2.15	0.90	0.40	0.83	—	条痕、擦痕あり	覆上
457	素材	2.20	1.70	0.35	1.77	—	擦痕あり	覆上
458	素材	2.30	1.25	0.20	0.95	—	擦痕あり	覆上
459	素材	2.30	1.60	0.35	1.44	—	擦痕あり	覆上
460	素材	2.30	2.10	0.35	1.26	—	擦痕あり	覆上、床上
461	素材	2.30	2.15	0.60	3.01	—	擦痕あり	覆上、床上
462	素材	2.35	2.65	0.30	1.71	—	擦痕あり	覆上
463	素材	2.40	1.00	0.25	0.77	—	擦痕あり	覆上、床上
464	素材	2.40	2.10	0.35	2.47	—	条痕、擦痕あり	覆上
465	素材	2.45	1.20	0.35	1.02	—	擦痕あり	覆上、床上
466	素材	2.65	2.00	0.70	4.74	—	条痕、擦痕あり	覆上
467	素材	2.70	2.10	0.25	1.88	—	擦痕あり	覆上
468	素材	2.80	1.85	0.30	2.31	—	擦痕あり	覆上、床上
469	素材	3.00	2.00	0.25	2.25	—	擦痕あり	覆上
470	素材	3.05	0.90	0.25	0.88	—	擦痕あり	覆上
471	素材	3.10	2.60	0.35	3.44	—	条痕、擦痕あり	覆上
472	素材	3.30	2.20	0.65	7.64	—	擦痕あり	覆上、掘方
474	素材	3.90	1.35	0.35	2.34	—	条痕、擦痕あり	覆上
475	素材	3.90	1.80	0.25	2.02	—	擦痕あり	覆上、床上
476	素材	3.90	2.10	0.25	3.46	—	擦痕あり	覆上
477	素材	4.20	2.20	1.50	11.35	—	条痕、擦痕あり	覆上
478	フレーク	0.55	0.50	0.15	0.04	—		覆上
479	フレーク	0.70	0.55	0.10	0.06	—	擦痕あり	覆上
480	フレーク	0.80	0.60	0.10	0.04	—		覆上
481	フレーク	0.80	0.75	0.15	0.10	—		覆上
482	フレーク	0.85	0.70	0.10	0.11	—	擦痕あり	覆上
483	フレーク	0.90	0.50	0.25	0.14	—		覆上
484	フレーク	0.90	0.70	0.10	0.09	—	擦痕あり	覆上
485	フレーク	0.90	0.70	0.10	0.12	—		覆上
486	フレーク	0.90	0.75	0.15	0.16	—		覆上
487	フレーク	0.90	0.80	0.10	0.14	—		覆上
488	フレーク	1.00	0.70	0.15	0.15	—	擦痕、条痕残る	覆上
489	フレーク	1.05	0.50	0.30	0.21	—	擦痕残る	覆上
490	フレーク	1.10	0.50	0.20	0.09	—		覆上

H 16 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量 口径（長）	法量 底径（短）	法量 器高（厚）	法量 重量等	成形・調整 内面	成形・調整 外面	備考	出土層位
1	土師器	高坏	—	(11.6)	＜7.0＞	—	脚部ヘラケズリ	ヘラミガキ	完全実測	カマド
2	土師器	鉢	(13.6)	—	＜5.3＞	—	ヘラナデ	ナデ	回転実測	P3
3	土師器	甕	15.1	5.9	23.7	—	ナデ、下半部ハケ目、上半部ヘラナデ	ナデ、体部ハケ目→ナデ→ヘラミガキ	完全実測	P3
4	土師器	甕	(16.3)	—	＜9.8＞	—	ヘラナデ	ナデ、ヘラナデ	口縁実測、0と同一個体？	カマド
5	土師器	甕	(16.4)	—	＜6.1＞	—	ヘラナデ	ヘラナデ	回転実測	P3、Ⅳ区
6	土師器	甕	17.8	—	＜5.3＞	—	ヘラナデ	ヘラナデ	完全実測	P3
7	土師器	甕	(18.4)	—	＜7.3＞	—	ヘラナデ	ヘラナデ	回転実測	P3、Ⅳ区
8	土師器	甕	—	(4.4)	＜2.6＞	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
9	土師器	甕	—	(6.7)	＜13.8＞	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ、体部ハケ目→ナデ→ヘラミガキ	完全実測、4と同一個体？	カマド
10	土師器	甑	19.5	7.3	26.6	—	ハケ目→ヘラミガキ	ハケ目→ヘラミガキ	完全実測	No1、Ⅰ区
11	土師器	甑	(23.8)	—	＜11.0＞	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	カマド
12	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	口縁部縄文、櫛描波状文	破片実測、拓本	Ⅰ区
13	弥生土器	壺	—	—	—	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩、櫛描横走平行線文	破片実測、拓本	Ⅰ区、Ⅱ区、ケン
14	弥生土器	壺	—	—	—	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ、縄文	破片実測、拓本	Ⅰ区
15	弥生土器	壺	—	—	—	—	ナデ	縄文、ヘラ描波状文、ヘラ描沈線	破片実測、拓本	Ⅰ区
16	石器・石製品	台石	37.4	22.7	18.1	＜17100.0＞	使用面2		完全実測	No3
17	石器・石製品	磨石	7.2	5.8	1.5	95.6	磨面1		完全実測	Ⅳ区
18	石器・石製品	磨石	＜11.1＞	＜9.1＞	＜2.6＞	＜300＞	被熱有、表面黒化（被熱期？）、周囲欠損、磨面1		完全実測	No2
19	石器・石製品	剥形模造品	2.20	＜1.80＞	0.25	＜1.57＞	孔径0.30、一部欠損		完全実測	Ⅳ区

H 17 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量 口径（長）	法量 底径（短）	法量 器高（厚）	法量 重量等	成形・調整 内面	成形・調整 外面	備考	出土層位
1	土師器	坏	12.4	6.2	3.5	—	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→右回転糸切	完全実測	カマド、Ⅰ区
2	土師器	坏	13.6	4.8	4.0	—	暗文、ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→右回転糸切	完全実測	カマド、Ⅰ区
3	土師器	坏	(14.0)	(5.6)	4.2	—	暗文、口縁部ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ、底部・底部外周手持ちヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区、Ⅱ区
4	土師器	坏	14.2	5.4	4.3	—	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→右回転糸切	完全実測	カマド、OT2ケン

H 17 号住居址出土遺物観察表 (2)

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
5	土師器	坏	－	－	－	－	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ、墨書	破片実測	Ⅱ区
6	土師器	高坏	－	－	＜7.1＞	－	坏部ヘラミガキ→黒色処理、脚部ナデ	ヘラミガキ	完全実測	Ⅱ区
7	須恵器	壺	(13.2)	(5.8)	3.4	－	ロクロナデ	ロクロナデ→回転糸切	回転実測	Ⅰ区
8	土師器	甕	(13.2)	－	＜7.5＞	－	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅲ区
9	土師器	甕	(21.8)	－	＜16.4＞	－	ロクロナデ、下部ナデ	ロクロナデ、下部ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
10	土師器	甕	－	(6.4)	＜2.4＞	－	ヘラミガキ	ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区
11	土師器	甑	－	(6.2)	＜6.2＞	－	ナデ、下部ヘラケズリ	ナデ	回転実測	Ⅱ区、OT2 ケン
12	弥生土器	鉢	(11.4)	－	＜2.6＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	Ⅱ区
13	弥生土器	高坏	－	(11.2)	＜4.1＞	－	ナデ	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	Ⅳ区
14	弥生土器	高坏	－	－	＜1.4＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	破片実測	Ⅱ区
15	弥生土器	甕	(13.0)	－	＜5.3＞	－	ヘラミガキ	櫛描波状文	断面実測、拓本	Ⅰ区
16	弥生土器	甕	－	－	－	－	ヘラミガキ	櫛描廉状文（7 本 1 連止）、櫛描斜走文	断面実測、拓本	Ⅱ区
17	弥生土器	甕	－	－	－	－	ヘラミガキ	口縁部縄文、口縁部縄文・ヘラ描波状文	断面実測、拓本	Ⅰ区ホリ
18	石器・石製品	砥石	＜8.4＞	＜6.1＞	＜4.6＞	＜240＞	上側・裏面欠損、砥面数 4、一部黒化		完全実測	Ⅳ区
19	石器・石製品	磨製石斧	＜3.1＞	＜2.8＞	＜0.35＞	＜5.8＞	側辺一部のみ残存、片刃石斧		完全実測	Ⅰ区
20	石器・石製品	礎石	17.5	9	4.6	1235	側面 2		完全実測	No1
21	石器・石製品	朝形模造品	＜3.00＞	1.60	0.25	＜2.49＞	孔径 0.20、下部欠損		完全実測	カマド
22	鉄製品	釘	＜3.7＞	0.7	0.5	＜1.9＞	先端欠損		完全実測	覆土
23	鉄製品	釘	＜5.0＞	0.8	0.5	＜3.6＞	先端欠損		完全実測	覆土
24	鉄製品	鎹	＜2.8＞	＜3.1＞	0.4	＜2.8＞	両端欠損		完全実測	覆土

H 18 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(8.4)	－	(5.0)	－	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	VG9
2	土師器	坏	13.6	－	5.9	－	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No1
3	土師器	高坏	(16.6)	－	＜4.9＞	－	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区、Ⅳ区
4	土師器	高坏	－	－	＜4.0＞	－	ヘラナデ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ区、カマド
5	土師器	鉢	(13.2)	－	＜8.6＞	－	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区
6	土師器	甕	11.8	6.6	12.4	－	ヘラナデ、口縁ハケ目	ヘラケズリ	完全実測	Ⅳ区、P5
7	土師器	壺	(18.0)	－	＜5.9＞	－	体部ヘラナデ、口縁ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区、カマド
8	土師器	壺	(23.2)	－	＜7.7＞	－	体部ヘラナデ、口縁ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ区
9	石器・石製品	台石	＜22.5＞	＜18.4＞	＜11.8＞	＜7000.0＞	片側・正面に欠損有、使用面 1		完全実測	No3
10	石器・石製品	編物石	13.7	6.6	4.7	520	両端部に使用痕		完全実測	No2

H 19 号住居址出土遺物観察表 (1)

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	11.0	8.8	6.2	－	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	Ⅰ区ホリ
2	土師器	坏	(11.6)	－	6.0	－	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	カマド、P10
3	土師器	坏	(12.6)	－	＜3.5＞	－	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ区
4	土師器	坏	13.0	－	5.2	－	ヘラミガキ	ヘラケズリ	完全実測	No4、P3、Ⅲ区
5	土師器	坏	(13.4)	－	＜2.6＞	－	ヘラミガキ	ナデ	回転実測	Ⅱ区
6	土師器	坏	(13.8)	－	(6.7)	－	ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転実測	カマド
7	土師器	坏	14.4	－	5.8	－	ハケナデ	ヘラケズリ	完全実測	No3
8	土師器	坏	(15.1)	－	5.6	－	ヘラミガキ	ヘラケズリ	完全実測	No5
9	土師器	坏	－	－	－	－	ヘラミガキ	ヘラケズリ	破片実測	Ⅳ区

H 19 号住居址出土遺物観察表 (2)

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
10	土師器	高杯	(19.0)	－	＜5.8＞	－	ヘラミガキ	ハケメ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ区
11	土師器	甕	11.7	6.5	7.5	－	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No2
12	土師器	甕	(12.0)	－	＜3.0＞	－	ヘラナデ	ナデ	回転実測	Ⅲ区
13	土師器	甕	15.6	－	＜17.7＞	－	ハケメ、ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No7
14	土師器	甕	(16.8)	8.3	14.2	－	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No6
15	土師器	甕	－	6.0	＜16.8＞	－	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No1
16	土師器	壺	(15.4)	－	＜4.1＞	－	ハケメ	ナデ	回転実測	Ⅲ区
17	土師器	壺	(15.6)	－	＜3.6＞	－	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅱ・Ⅳ区
18	土師器	壺	(15.8)	－	＜4.3＞	－	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
19	土師器	壺	(16.8)	－	＜4.4＞	－	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区
20	土師器	壺	(18.0)	－	＜5.4＞	－	ナデ	ヘラナデ	回転実測	P7、Ⅰ区床、Ⅳ区
21	土師器	壺	－	－	＜9.9＞	－	ヘラミガキ	ヘラナデ	完全実測	P6、Ⅱ・Ⅲ区
22	土師器	甑	(24.8)	－	＜16.5＞	－	ヘラナデ	ヘラナデ→ヘラミガキ	回転実測	カマド
23	土師器	甑	25.4	7.6	27.0	－	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラケズリ	完全実測	No8、Ⅰ区
24	土師器	甑	－	(9.0)	＜3.9＞	－	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅳ区
25	弥生土器	甕	－	－	－	－	ヘラミガキ	櫛描波状文	破片実測	Ⅲ区ホリ
26	弥生土器	壺	－	(4.8)	＜4.1＞	－	ハケメ	ヘラミガキ、赤彩	回転実測	ケン
27	弥生土器	壺	－	－	－	－	ヘラミガキ	縄文、ヘラ描沈線	破片実測	Ⅲ区
28	弥生土器	壺	－	－	－	－	ナデ	縄文、ヘラ描波状文	破片実測	Ⅳ区ホリ
29	石器・石製品	台石	51.5	26.2	＜17.7＞	30,300.0	裏面欠損、使用面 2，正・裏面に赤色顔料付着		完全実測	No18
30	石器・石製品	編物石	11.4	6.4	3.0	290.0	側面・端部に使用痕		完全実測	Ⅱ区
31	石器・石製品	編物石	11.7	8.0	5.3	620.0			完全実測	No16
32	石器・石製品	編物石	12.2	5.1	5.0	330.0			完全実測	P6
33	石器・石製品	編物石	12.4	6.7	4.8	395.0	側面に抉り、端部に使用痕		完全実測	No17
34	石器・石製品	編物石	13.2	7.3	4.0	430.0	被熱有、側面に使用痕		完全実測	No12
35	石器・石製品	編物石	13.2	6.0	5.0	380.0	片側に抉り		完全実測	No9
36	石器・石製品	編物石	13.3	5.1	4.8	380.0	被熱有		完全実測	Ⅱ区
37	石器・石製品	編物石	13.8	5.8	5.6	545.0	被熱有、端部に使用痕		完全実測	No10
38	石器・石製品	編物石	14.1	6.5	3.9	540.0	被熱有		完全実測	No13
39	石器・石製品	編物石	14.8	6.7	3.9	590.0	使用痕有		完全実測	P6
40	石器・石製品	編物石	14.8	6.8	3.3	410.0	被熱有、端部に使用痕		完全実測	No11
41	石器・石製品	編物石	15.2	5.0	3.7	275.0	端部に使用痕		完全実測	Ⅱ区
42	石器・石製品	編物石	15.7	6.8	3.2	365.0			完全実測	No15
43	石器・石製品	使用痕の有る剥片	10.8	3.3	0.8	45.0	端部に敲打痕と擦痕		完全実測	Ⅰ区
44	石器・石製品	原材	9.7	9.0	2.0	230.0			完全実測	P3
45	石器・石製品	臼玉	0.40	0.40	0.15	0.05	孔径 0.20		完全実測	Ⅲ区
46	石器・石製品	臼玉	0.50	0.50	0.30	0.11	孔径 0.20		完全実測	Ⅰ区
47	石器・石製品	臼玉未成品	0.70	0.75	0.30	0.23			完全実測	Ⅰ区
48	石器・石製品	臼玉未成品	0.80	0.75	0.30	0.21			完全実測	Ⅰ区
49	石器・石製品	臼玉未成品	0.80	0.75	0.30	0.33			完全実測	Ⅰ区
50	石器・石製品	臼玉未成品	0.80	0.75	0.20	0.24			完全実測	Ⅰ区
51	石器・石製品	臼玉未成品	0.80	0.80	0.30	0.26			完全実測	Ⅰ区
52	石器・石製品	臼玉未成品	0.80	0.80	0.30	0.35			完全実測	Ⅰ区
53	石器・石製品	臼玉未成品	0.80	0.80	0.25	0.33			完全実測	Ⅰ区
54	石器・石製品	臼玉未成品	0.85	0.90	0.25	0.27			完全実測	Ⅰ区
55	石器・石製品	臼玉未成品	0.85	0.80	0.30	0.32			完全実測	Ⅰ区
56	石器・石製品	臼玉未成品	0.95	0.95	0.40	0.38			完全実測	Ⅰ区

H 19 号住居址出土遺物観察表 (3)

№	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
57	石器・石製品	剝形模造品	2.30	1.60	0.30	1.62	孔径 0.20		完全実測	Ⅲ区
58	石器・石製品	剝形模造品	2.90	1.50	0.35	＜2.78＞	孔径 0.20、一部欠損		完全実測	Ⅲ区
59	石器・石製品	剝形模造品	2.90	1.90	0.30	3.09	孔径 0.20		完全実測	Ⅲ区
60	石器・石製品	剝形模造品	3.00	1.50	0.30	2.04	孔径 0.20		完全実測	Ⅲ区
61	石器・石製品	剝形模造品	3.60	1.85	0.30	4.46	孔径 0.20		完全実測	Ⅲ区
62	石器・石製品	剝形模造品	4.50	2.20	0.35	6.67	孔径 0.20		完全実測	Ⅲ区
63	石器・石製品	剝形模造品	＜1.80＞	＜1.70＞	＜0.30＞	＜1.74＞	孔径 0.20、先端欠損		完全実測	Ⅲ区
64	石器・石製品	剝形模造品	＜2.20＞	1.50	0.30	＜1.70＞	孔径 0.25、一部欠損		完全実測	Ⅲ区
65	石器・石製品	剝形模造品	＜2.30＞	1.55	0.30	＜2.30＞	孔径 0.20、先端欠損		完全実測	Ⅲ区
66	石器・石製品	剝形模造品	＜3.90＞	＜2.00＞	＜0.40＞	＜4.80＞	孔径 0.20、茎部欠損		完全実測	Ⅲ区
67	石器・石製品	素材	1.50	1.55	0.30	1.00			完全実測	Ⅰ区
68	石器・石製品	素材	1.80	2.00	0.25	1.26			完全実測	Ⅰ区
69	石器・石製品	素材	2.00	1.30	0.25	0.73			完全実測	Ⅰ区
70	石器・石製品	素材	2.10	2.00	0.30	1.58			完全実測	Ⅱ区
71	石器・石製品	素材	2.20	1.45	0.30	1.09			完全実測	Ⅰ区
72	石器・石製品	素材	2.25	2.80	0.40	2.75			完全実測	Ⅲ区
73	石器・石製品	素材	2.75	2.50	0.25	2.09			完全実測	Ⅰ区
74	石器・石製品	素材	2.80	2.10	0.35	2.13			完全実測	Ⅱ区
75	石器・石製品	素材	2.80	2.75	0.35	2.98			完全実測	Ⅰ区ホリ
76	石器・石製品	素材	2.85	2.40	0.30	2.61			完全実測	Ⅰ区
77	石器・石製品	素材	3.20	3.30	0.30	4.13			完全実測	Ⅰ区
78	石器・石製品	素材	4.00	2.85	0.35	0.63			完全実測	Ⅰ区

OT 1 号周溝墓（古墳）出土遺物観察表

№	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	須恵器	坏	(14.8)	(6.4)	4.7	－	ロクロナデ	ロクロナデ→ナデ	回転実測	ケン、M1 Ⅳ区
2	須恵器	坏	(14.8)	(7.0)	3.8	－	ロクロナデ	ロクロナデ→底部・底部外周ナデ	回転実測	覆土
3	須恵器	坏	－	(7.2)	＜1.3＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ→回転糸切	回転実測	№2
4	須恵器	坏	－	(7.8)	＜1.2＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ→ヘラキリ→ヘラナデ	回転実測	M1 Ⅳ区
5	須恵器	有台坏	(11.2)	(6.3)	5.1	－	ロクロナデ	ロクロナデ→回転ヘラキリ→高台貼付、ヘラ記号	回転実測	覆土
6	須恵器	有台坏	(12.2)	(7.8)	4.2	－	ロクロナデ	ロクロナデ→回転ヘラキリ→高台貼付、火襷	回転実測	覆土
7	須恵器	有台坏	(18.5)	(11.6)	5.8	－	ロクロナデ	ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	ケン、M1 Ⅳ区
8	須恵器	蓋	(10.0)	(10.0)	2.4	－	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	M1 Ⅳ区
9	須恵器	蓋	(13.8)	－	＜1.6＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ→回転ヘラケズリ	回転実測	覆土
10	須恵器	蓋	(13.9)	－	＜1.3＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ、火襷	回転実測	覆土
11	緑釉陶器	碗	－	(9.2)	＜2.2＞	－	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台貼付→施釉	回転実測	覆土
12	緑釉陶器	碗	－	(11.2)	＜5.7＞	－	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→回転ヘラキリ→高台貼付→施釉、ヘラ記号	回転実測	M1 Ⅳ区
13	須恵器	甕	(14.0)	－	＜4.7＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	M1
14	須恵器	甕	(30.2)	－	＜20.5＞	－	口縁ロクロナデ、胴部当具痕→ナデ	叩目→ロクロナデ→沈線	回転実測	ケン、M1 Ⅳ区、M2 ケン
15	須恵器	甕	－	－	－	－	ロクロナデ	櫛描波状文、沈線	断面実測、拓本	W区
16	須恵器	小型壺	－	－	＜5.3＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ→胴下半部回転ヘラケズリ	回転実測	M1、VA6
17	須恵器	壺	－	－	＜5.5＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	ケン
18	須恵器	壺	－	－	－	－	ロクロナデ→ナデ	ロクロナデ	破片実測	覆土
19	須恵器	横瓶	－	－	－	－	ロクロナデ	タタキ→ほぞ貼付→ロクロナデ	破片実測	M1 Ⅳ区
20	鉄器	軸	＜3.0＞	＜0.8＞	＜0.6＞	＜1.4＞	両端欠損、2本を撚る		完全実測	覆土
21	鉄器	刀子	＜8.4＞	1	＜0.3＞	＜5.5＞	先端欠損		完全実測	覆土
22	鉄器	刀子	＜16.4＞	1.4	＜0.4＞	＜19.6＞	基部欠損、金具？残存		完全実測	床

ＯＴ２号周溝墓出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(12.6)	(11.0)	＜2.2＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	ケン
2	土師器	坏	－	－	＜1.4＞	－	ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラケズリ	破片実測	ケン
3	土師器	ロクロ甕	－	6.5	＜3.3＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切	完全実測	ケン
4	須恵器	高坏	－	(5.4)	＜2.2＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ、円形透かし	回転実測	ケン
5	弥生	高坏	－	(13.4)	＜3.8＞	－	ヘラナデ	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	ケン
6	弥生	高坏	－	－	＜2.7＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	ケン
7	石器・石製品	石錘	2.70	0.65	0.60	1.64	面取り状の加工		完全実測	ケン

ＯＴ３号周溝墓出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	弥生土器	鉢	－	(4.8)	＜2.2＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	No2
2	弥生土器	高坏	(15.0)	－	＜7.8＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	覆土
3	弥生土器	高坏	22.5	13.4	14.6	－	坏部ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	No1
4	弥生土器	高坏	(34.0)	－	＜5.9＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	覆土
5	弥生土器	高坏	－	(16.8)	＜2.6＞	－	ハケ目	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	覆土
6	弥生土器	甕	(15.6)	－	＜8.3＞	－	ヘラミガキ	櫛描波状文	回転実測	覆土
7	弥生土器	甕	－	－	－	－	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	断面実測、拓本	1区、覆土
8	弥生土器	甕	－	－	－	－	ヘラミガキ	櫛描斜走文	断面実測、拓本	覆土
9	弥生土器	壺	(18.6)	－	＜3.1＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	No1
10	弥生土器	壺	19.9	6.6	32.3	－	口縁部ヘラミガキ→赤彩	ハケ目→ヘラミガキ→赤彩	完全実測	No2
11	石器・石製品	スクレイパー	4.1	3.0	0.8	－	黒曜石		完全実測	覆土

Ｍ１号溝址出土遺物観察表 (1)

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	弥生土器	高坏	－	－	＜2.2＞	－	ヘラミガキ→赤彩、櫛内ナデ	ヘラミガキ、赤彩	完全実測	覆土
2	弥生土器	高坏	－	(10.0)	＜3.8＞	－	ヘラミガキ→赤彩、櫛内ナデ	ヘラミガキ、赤彩	完全実測	覆土
3	弥生土器	甕	(11.3)	(6.7)	16.2	－	ヘラミガキ	頸部櫛描簾状文、体部櫛描波状文	完全実測	覆土
4	弥生土器	甕	(13.2)	－	＜4.2＞	－	ヘラミガキ	櫛描簾状文、櫛描斜走文	回転実測、拓本	覆土
5	弥生土器	甕	(13.7)	(5.1)	16.6	－	ヘラミガキ	頸部櫛描簾状文、口縁部・体部櫛描波状文	完全実測	覆土
6	弥生土器	甕	－	(6.6)	＜4.5＞	－	ハケメ、器面剥離	ヘラミガキ	回転実測	覆土
7	弥生土器	甕	－	8.9	＜2.5＞	－	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	覆土
8	弥生土器	甕	－	－	－	－	ヘラミガキ	櫛描波状文	破片実測、拓本	覆土
9	弥生土器	甕	－	－	－	－	ヘラミガキ	縄文、櫛描短線文	破片実測、拓本	覆土
10	弥生土器	甕	－	－	－	－	ヘラミガキ	縄文、櫛描簾状文・波状文	破片実測、拓本	覆土
11	弥生土器	甕	－	－	－	－	ヘラミガキ	櫛描簾状文・波状文	破片実測、拓本	覆土
12	弥生土器	甕	－	－	－	－	ヘラミガキ	櫛描簾状文	破片実測、拓本	覆土
13	弥生土器	台付甕	－	(8.0)	＜6.5＞	－	ナデ	ナデ	完全実測	覆土
14	弥生土器	壺	(9.0)	－	＜6.7＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ、赤彩	完全実測	覆土
15	弥生土器	壺	(14.0)	－	＜4.1＞	－	ナデ、器面剥離	ハケメ→ヘラミガキ	回転実測	覆土
16	弥生土器	壺	－	(8.2)	＜11.3＞	－	ナデ	ハケメ、ヘラミガキ、ヘラ描波状文	回転実測	覆土
17	弥生土器	壺	－	8.6	＜1.8＞	－	ハケメ	ヘラミガキ	完全実測	覆土
18	弥生土器	壺	－	(10.4)	＜17.0＞	－	ハケメ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	覆土
19	弥生土器	壺	－	10.9	＜3.1＞	－	ハケメ、ナデ	ハケメ	完全実測	覆土
20	弥生土器	壺	－	－	＜4.9＞	－	ハケメ	口縁部ハケメ、頸部縄文・ヘラ描沈線	回転実測	覆土
21	弥生土器	壺	－	－	＜8.7＞	－	ナデ、器面剥離	ハケメ、頸部ヘラ描平行沈線・縄文、ヘラ描波状文	回転実測	覆土

M 1 号溝址出土遺物観察表 (2)

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
22	弥生土器	壺	—	—	＜12.3＞	—	ナデ	ヘラミガキ、ヘラ描平行沈線間にヘラ描波状文・縄文	回転実測	層土
23	弥生土器	甕	—	(6.6)	＜1.9＞	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	層土
24	石器・石製品	砥石	15.2	9.8	5.6	750.0	黒曜石、無面に「V」字状の磨滅した面		完全実測	層土
25	石器・石製品	台石	＜13.2＞	＜8.3＞	＜2.2＞	＜238.0＞	全周欠損、正・裏面に磨滅した部分有		完全実測	層土
26	石器・石製品	磨製石斧	＜6.1＞	＜7.0＞	＜4.3＞	＜340.0＞	基部のみ残存、正面・側面に使用痕		完全実測	層土
27	石器・石製品	凹石	＜17.9＞	＜12.0＞	＜8.7＞	＜1462.0＞	凹径（12.0）、凹深＜0.9＞		完全実測	層土
28	石器・石製品	凹石	21.0	19.5	10.6	3,190.0	凹径 6.8 × 5.7、凹深 2.2		完全実測	層土
29	石器・石製品	編物石	9.1	6.8	1.4	110.3	抉り、使用痕有		完全実測	層土
30	石器・石製品	編物石	9.3	5.2	1.6	83.1	使用痕有		完全実測	層土
31	石器・石製品	磨石	＜3.5＞	＜4.0＞	＜1.8＞	＜32.0＞	全周欠損、磨面 1		完全実測	層土
32	石器・石製品	原材	8.5	9.3	2.3	215.0	ガラス質安山岩		完全実測	層土

M 3 号溝址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	弥生土器	鉢	—	(4.8)	＜3.0＞	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ、体部赤彩	回転実測	Ⅲ区
2	弥生土器	甕	(16.2)	—	＜8.6＞	—	ヘラミガキ	櫛描波状文、口縁部刻目	回転実測、拓本	Ⅲ区
3	弥生土器	甕	—	(6.8)	＜5.6＞	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ区
4	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描斜走文	破片実測、拓本	Ⅰ区
5	弥生土器	甕	—	—	＜9.3＞	—	剥落	頸部櫛描縄文、体部・口縁ヘラミガキ→赤彩	回転実測、拓本	Ⅱ区
6	縄文土器	深鉢	—	9.1	＜2.0＞	—	ナデ	細代痕、ナデ	完全実測、拓本、後期	Ⅱ区
7	石器・石製品	打製石斧	＜4.4＞	＜5.1＞	＜1.3＞	＜34.3＞	片側以外欠損		完全実測	Ⅲ区
8	石器・石製品	敲石	4.8	3.8	2.2	35.1	端部に敲打痕		完全実測	Ⅱ区

M 5 号溝址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	弥生土器	高坏	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描斜走文	破片実測、拓本	層土
2	弥生土器	甕	(13.6)	—	＜6.6＞	—	ヘラミガキ	ヘラ描斜走文	回転実測	層土
3	弥生土器	甕	(14.0)	—	＜10.1＞	—	ヘラミガキ	櫛描波状文	回転実測	層土
4	弥生土器	甕	(21.0)	—	＜5.2＞	—	ヘラミガキ	櫛描波状文	回転実測	層土
5	弥生土器	甕	—	5.5	＜4.2＞	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	層土
6	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	ヘラ描波状文、櫛描斜走文・簾状文、口縁部刻	破片実測、拓本	層土
7	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描波状文	破片実測、拓本	層土
8	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描波状文	破片実測、拓本	層土
9	弥生土器	人形土器	—	4.3	＜4.8＞	—	輪積痕、ナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測、底部	層土
10	弥生土器	壺	(37.0)	—	＜39.8＞	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	層土
11	弥生土器	壺	—	—	—	—	ハケメ	櫛描直線文	破片実測、拓本	層土
12	石器・石製品	磨石	＜4.3＞	＜7.0＞	＜3.3＞	＜115.0＞	上・下・裏面欠損、磨面 3		完全実測	層土
13	石器・石製品	磨石	＜15.4＞	＜5.9＞	＜4.3＞	＜450.0＞	端部・側面欠損、磨面 2		完全実測	層土
14	石器・石製品	磨・敲石	9.9	7.9	4.8	508.0	敲打痕有、磨面 2		完全実測	層土
15	鉄器	短頸鏃	＜6.0＞	＜1.7＞	＜0.4＞	＜5.6＞	茎前、両端欠損		完全実測	層土

M 6 号溝址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	弥生土器	鉢	(17.2)	－	＜4.0＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	覆土
2	弥生土器	鉢	17.3	4.2	5.6	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	覆土
3	弥生土器	鉢	(18.0)	－	＜5.0＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	覆土
4	弥生土器	鉢	－	5	＜12.0＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	覆土
5	弥生土器	高坏	－	(16.8)	＜12.3＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	覆土
6	弥生土器	高坏	－	－	＜4.2＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	破片実測	覆土
7	弥生土器	高坏	－	－	＜5.4＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	覆土
8	弥生土器	甕	(11.2)	－	＜4.5＞	－	ヘラケズリ	ヘラケズリ	回転実測	覆土
9	弥生土器	甕	16.8	－	＜7.0＞	－	ヘラミガキ	櫛描波状文	完全実測	覆土
10	弥生土器	甕	(18.2)	－	＜3.0＞	－	ヘラミガキ	櫛描波状文	破片実測、拓本	覆土
11	弥生土器	甕	－	－	－	－	ヘラミガキ	櫛描簾状文	破片実測、拓本	覆土
12	弥生土器	甕	－	－	－	－	ヘラミガキ	櫛描波状文	破片実測、拓本	覆土
13	弥生土器	甕	－	－	－	－	ヘラミガキ	櫛描斜走文	破片実測、拓本	覆土
14	弥生土器	甕	－	－	－	－	ヘラミガキ	櫛描波状文	破片実測、拓本	覆土
15	弥生土器	壺	(14.0)	－	＜12.0＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	覆土
16	弥生土器	壺	－	(7.0)	＜7.5＞	－	ナデ	ヘラミガキ	回転実測	覆土
17	弥生土器	壺	－	11.4	＜2.8＞	－	ヘラナデ	器面摩耗	完全実測	覆土
18	弥生土器	壺	－	－	－	－	ヘラミガキ	ヘラ描沈線	破片実測、拓本	覆土
19	弥生土器	壺	－	－	－	－	ヘラミガキ	ヘラ描山形沈線	破片実測、拓本	覆土
20	弥生土器	壺	－	－	－	－	ヘラミガキ	鳳文	破片実測、拓本	覆土
21	弥生土器	壺	－	－	－	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩、ヘラ描沈線	破片実測、拓本	覆土
22	石器・石製品	磨製石斧	＜9.3＞	＜4.4＞	＜2.3＞	＜111.4＞	刃部欠損、成形痕残る		完全実測	覆土
23	石器・石製品	編物石	＜10.1＞	＜6.2＞	＜4.5＞	＜364.0＞	下部欠損（使用痕有）		完全実測	覆土
24	石器・石製品	磨・敲石	13.5	8	3.3	564.0	扶り有		完全実測	覆土
25	石器・石製品	敲石	10.3	8.4	5.8	642	正裏・端部に敲打痕		完全実測	覆土

M 7 号溝址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	弥生土器	高坏	－	－	＜7.0＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	覆土
2	弥生土器	甕	(22.3)	－	＜8.5＞	－	ヘラミガキ	櫛描波状文	回転実測	覆土
3	弥生土器	鉢	－	－	－	－	ヘラミガキ	櫛描簾状文・波状文、口唇部刻目	破片実測、拓本	覆土
4	弥生土器	壺	(19.0)	－	＜3.8＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	覆土
5	弥生土器	壺	(19.6)	－	＜5.1＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	覆土
6	弥生土器	壺	(9.2)	－	＜4.4＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	覆土
7	弥生土器	人形土器	＜5.9＞	＜1.6＞	＜1.4＞	－	ナデ	ナデ	完全実測、腕	覆土
8	石器・石製品	磨石	＜5.5＞	＜5.9＞	＜3.9＞	＜151.1＞	下部欠損、磨面 1		完全実測	覆土

M 9 号溝址出土遺物観察表 (1)

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	壺	(5.9)	2.8	5.3	－	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	VF6
2	弥生土器	鉢	12.1	3.8	4.8	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測、穿孔有	VH6
3	弥生土器	鉢	12.2	3.8	4.4	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	VG6・VE6
4	弥生土器	鉢	(12.8)	3.3	4.9	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測、穿孔有	VG6
5	弥生土器	鉢	(15.0)	(3.2)	7.3	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	VJ4
6	弥生土器	鉢	(21.2)	－	＜10.1＞	－	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩、煤付着	回転実測	VD7

M 9 号溝址出土遺物観察表 (2)

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
7	弥生土器	高坏	9.6	7.0	8.2	—	ヘラミガキ→赤彩，脚内面に赤印	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	VG6
8	弥生土器	高坏	12.5	6.5	11.2	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	VG6
9	弥生土器	高坏	14.0	—	＜5.2＞	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	VG6
10	弥生土器	高坏	(14.2)	—	＜8.2＞	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	VG6
11	弥生土器	高坏	16.0	11.1	11.8	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	VG6・VG6
12	弥生土器	高坏	16.6	11.0	12.6	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	VH6
13	弥生土器	高坏	19.5	—	＜6.4＞	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	VG6・VG6
14	弥生土器	甕	11.8	4.8	11.2	—	ヘラミガキ	櫛描斜走文，ヘラミガキ	完全実測	VH6
15	弥生土器	甕	—	(8.0)	＜7.3＞	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	覆土
16	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描波状文	破片実測，拓本	覆土
17	弥生土器	甕	—	—	—	—	ハケメ，ヘラミガキ	櫛描斜走文，波状文，簾状文	破片実測，拓本	VF6
18	弥生土器	壺	(12.8)	—	＜3.7＞	—	ヘラミガキ	縄文，ヘラ描沈線，ヘラミガキ	回転実測	VE7
19	弥生土器	壺	—	6.6	4.4	—	ナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	VG6
20	弥生土器	壺	—	7.0	＜5.3＞	—	ナデ，器面剥落	ヘラミガキ	完全実測	VG6
21	弥生土器	壺	—	—	＜9.3＞	—	ハケメ，ヘラミガキ→赤彩	櫛描「丁」字文，ヘラミガキ→赤彩	回転実測	VE6・VF6
22	弥生土器	壺	—	—	—	—	ナデ	ヘラ描沈線，「U」字文	破片実測，拓本	覆土
23	石器・石製品	砥石	8.5	4.3	2.6	＜143.4＞	砥面 1，条痕有，両端部に敲打痕，磨面 1		完全実測	VG6
24	石器・石製品	編物石	11.3	3.7	2.6	＜143.1＞	側・裏面欠損，砥面 1		完全実測	VG6
25	石器・石製品	磨石	＜7.5＞	＜5.4＞	＜1.3＞	＜44.5＞	側・裏面欠損，砥面 1		完全実測	VG6
26	石器・石製品	磨石	＜15.7＞	＜8.6＞	＜1.2＞	＜157.3＞	磨面 1，全周欠損		完全実測	覆土
27	石器・石製品	磨・敲石	6.1	2.9	1.2	＜33.8＞	裏面に磨り		完全実測	VE6
28	石器・石製品	磨・敲石	14.3	＜9.2＞	＜4.5＞	＜605.0＞	端部・正面に敲打痕，磨面 2		完全実測	VF5
29	石器・石製品	素材	2.0	1.9	0.3	＜2.4＞	石製模造品の素材		完全実測	VF6

M 10 号溝址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	須恵器	坏	—	(8.0)	＜2.0＞	—	ロクロナデ	回転ヘラ切→ナデ	回転実測	覆土
2	土師器	壺	—	(6.0)	＜3.0＞	—	ハケ目	ヘラミガキ，摩耗	回転実測	ケン

M 11 号溝址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	弥生土器	土器片円盤	3.5	3.1	0.7	—	ヘラミガキ	櫛描波状文	破片実測，拓本，弥生期の二次利用	覆土

ピット出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土遺構
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土製品	羽口	＜7.3＞	＜5.5＞	＜2.7＞	—		ヘラナデ，先端部ノ口付着	完全実測	P52
1	土師器	鉢	(15.6)	—	＜4.8＞	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	P66
2	石器・石製品	砥石	20.3	9.5	4.3	1080	砥面数 4		完全実測	P66
1	土師器	坏	(14.4)	—	＜4.3＞	—	ヘラミガキ	ハケ目？→ヘラミガキ	回転実測	P84
2	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ	櫛描波状文	破片実測，拓本	P84
1	土師器	高坏	—	(11.6)	＜3.4＞	—	ナデ	ヘラミガキ	回転実測，透かし有	P98
2	土師器	高坏（？）	(19.8)	—	＜2.0＞	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	P98
3	土師器	甕	(14.2)	—	16.6	—	ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	P98
4	弥生土器	壺	(21.8)	—	＜5.8＞	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	P98

土坑出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土遺構
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	鍋	—	—	—	—	ナデ	ナデ	破片実測	D2
1	青磁	碗	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	D10
1	土師器	土器片円盤	3.9	4.1	0.9	—	坏底部の再利用		完全実測、拓本	D11
1	土師器	内耳鍋	—	—	＜4.0＞	—	ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	D16
2	弥生土器	台付甕	—	3.7	＜3.2＞	—	ヘラミガキ	ナデ	完全実測	D16
3	鉄製品	釘	＜4.7＞	0.7	0.3	＜3.2＞	先端欠損		完全実測	D16
1	土師器	坏	(14.0)	—	＜4.2＞	—	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ	回転実測	D18
2	弥生土器	甕	—	—	＜12.0＞	—	ハケ目	ハケ目	回転実測	D18
3	弥生土器	壺	(14.4)	—	＜4.0＞	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	D18
4	弥生土器	壺	—	—	—	—	ハケ目	ヘラ描波状文	破片実測、拓本	D18
5	弥生土器	土器片円盤	4.9	7.1	0.8	—	剥落	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	D18

遺構外出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土遺構
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(14.0)	(13.6)	＜6.6＞	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ、口縁ヘラミガキ	回転実測	VC9
2	土師器	高坏	13.1	—	＜8.8＞	—	ヘラミガキ→黒色処理、脚部ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	表採
3	土師器	鉢	18.2	—	4.3	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	表採
1	弥生土器	壺	(15.6)	—	＜4.4＞	—	ヘラミガキ	ハケ目、口唇部縄文	回転実測、拓本	VC9
1	石器・石製品	加工痕有剥片	＜1.90＞	＜3.60＞	＜0.60＞	＜5.34＞	上部欠損、下辺加工痕、チャート		完全実測	表採
1	鉄器	刀子	＜5.3＞	＜0.9＞	＜0.25＞	＜3.2＞	茎部残存、両端欠損		完全実測	IVJ4
2	鉄製品	釘	＜2.2＞	＜0.9＞	＜0.6＞	＜1.9＞	両端欠損		完全実測	VJ2
3	鉄製品	釘	＜2.8＞	＜0.9＞	＜0.7＞	＜2.2＞	両端欠損		完全実測	VJ5
4	鉄製品	釘	＜4.1＞	0.8	0.5	＜2.4＞	先端欠損		完全実測	IVB85
5	鉄製品	釘	＜5.3＞	0.8	0.6	＜5.9＞	先端欠損		完全実測	IVB86
6	銅製品	古銭	2.5	2.5	0.1	＜3.5＞	孔 0.5 × 0.5、永楽通宝		完全実測	表彩

F 2 号掘立柱建物址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土遺構
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(13.8)	—	＜3.2＞	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	P4
2	土師器	坏	—	—	＜2.0＞	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	P2

H１号住居址遺物出土状況（東から）

H１号住居址完掘（南から）

H２号住居址完掘（南から）

H２号住居址礎石除去状態（西から）

H３号住居址完掘（西から）

H３号住居址カマド完掘（南から）

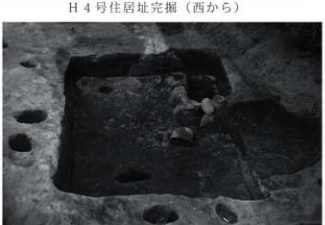
H３号住居址掘方完掘（北から）

H４号住居址遺物出土状況（西から）

Ｈ４号住居址完掘（西から）

Ｈ５号住居址完掘（南から）

Ｈ５号住居址張出部（東から）



Ｈ６号住居址完掘（東から）

Ｈ６号住居址カマド完掘（南から）

Ｈ７号住居址完掘（南東から）

Ｈ７号住居址遺物出土状況（東から）

H 7 号住居址カマド完掘（南から）

H 8 号住居址完掘（南から）

H 9 号住居址完掘（南から）

H 9 号住居址カマド完掘（南から）

H 10 号住居址遺物出土状況（南から）

H 10 号住居址完掘（南から）

H 11 号住居址完掘（南から）

H 11 号住居址カマド完掘（北から）

H 12 号住居址完掘（南から）

H 12 号住居址カマド完掘（西から）

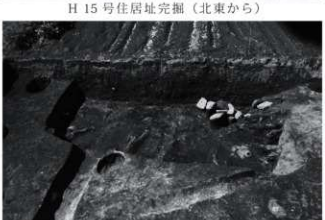
H 13 号住居址完掘（東から）

H 13 号住居址カマド完掘（南から）

H 14 号住居址完掘（東から）

H 15 号住居址完掘（北東から）

H 16 号住居址完掘（南から）



H 16 号住居址遺物出土状況（東から）

H 16 号住居址カマド完掘（南から）

H 17 号住居址完掘（西から）

H 18 号住居址完掘（南から）

H 18 号住居址カマド完掘（南から）

H 19 号住居址完掘（南から）

H 19 号住居址カマド完掘（南から）

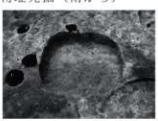
F 2 号掘立柱建物址完掘（東から）

F 1 号掘立柱建物址完掘（西から）

F 3 号掘立柱建物址完掘（南から）

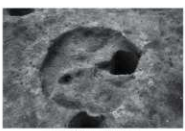
D 1 ・ 2 ・ 3 号土坑完掘（南から）

D 4 号土坑完掘



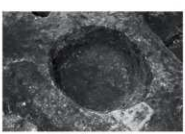
D 5 号土坑完掘

D 6 号土坑完掘



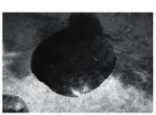
D 7 号土坑完掘

D 8 号土坑完掘



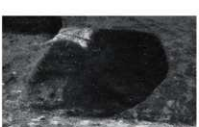
D 9 号土坑完掘

D 10 号土坑完掘



D 11 号土坑完掘

D 12 号土坑完掘

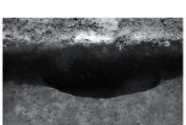


D 13 号土坑完掘

D 14 号土坑完掘

D 15 号土坑完掘

D 16 号土坑完掘



D 17 号土坑完掘

D 18 号土坑石組

D 18 号土坑完掘

D 19 号土坑完掘

D 20 号土坑完掘

D 21 号土坑周辺

D 22 号土坑完掘

D 23 号土坑完掘

ＯＴ１は終末期の古墳である。下写真の↓から向かって右側は下水工事で破壊されている。

ＯＴ１古墳土層堆積状況（西から）

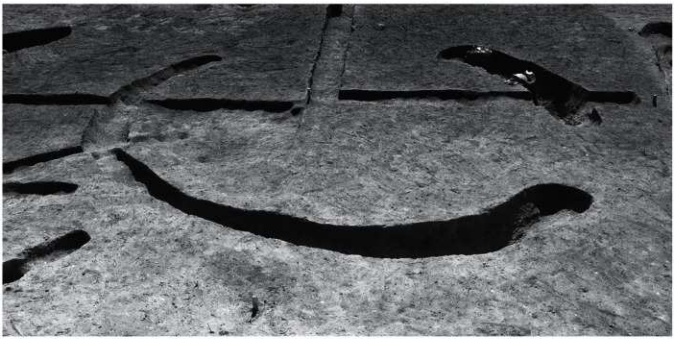
ＯＴ１古墳石室完掘（南から）

ＯＴ１古墳石室西の石組（北西から）

ＯＴ１古墳人骨出土状況（南東から）

ＯＴ１古墳掘方（北西から）

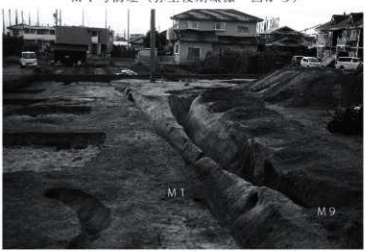
ＯＴ２円形周溝墓（南から）



ＯＴ３円形周溝墓（北から）

ＯＴ４円形周溝墓（北から）

Ｍ１号溝址（弥生後期環濠　西から）



Ｍ１号溝址（弥生後期環濠　東から）

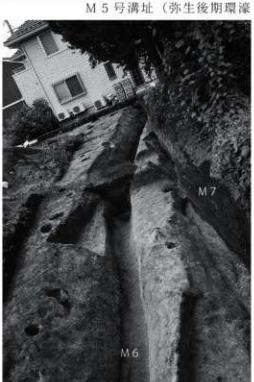
Ｍ２号溝址（東から）

Ｍ３号溝址（弥生後期環濠　Ｍ９に接続する　南から）

Ｍ４号溝址（南から）

Ｍ５号溝址（弥生後期環濠　西から）

Ｍ６・７号溝址東半（弥生後期環濠　西から）



Ｍ６・７号溝址西半（西から）

Ｍ５・８・９号溝址（東から）

M１・９号溝址（弥生後期環濠　西から）

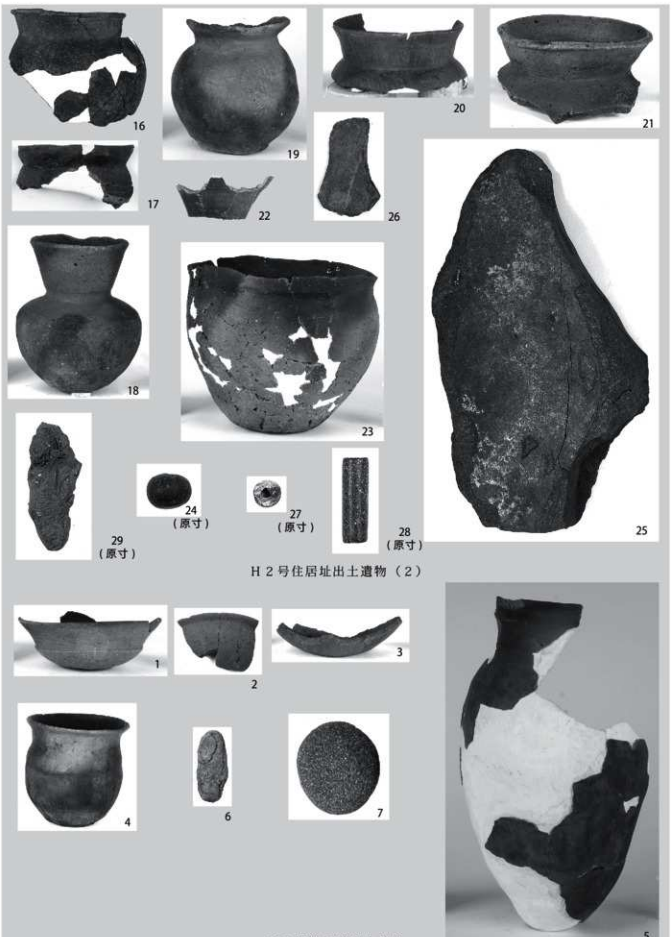
M 10 号溝址（東から）

M 11 号溝址（東から）

H１号住居址出土遺物（１）

H１号住居址出土遺物（２）

H２号住居址出土遺物（１）


16
17
18
19
20
21
22
23
24
（原寸）
25
26
27
（原寸）
28
（原寸）
29
（原寸）
H２号住居址出土遺物（２）
1
2
3
4
5
6
7
H３号住居址出土遺物

H 4 号住居址出土遺物（1）

Ｈ４号住居址出土遺物（２）

Ｈ５号住居址出土遺物（１）

3

4

5

6

7

H５号住居址出土遺物（２）

1

2

3

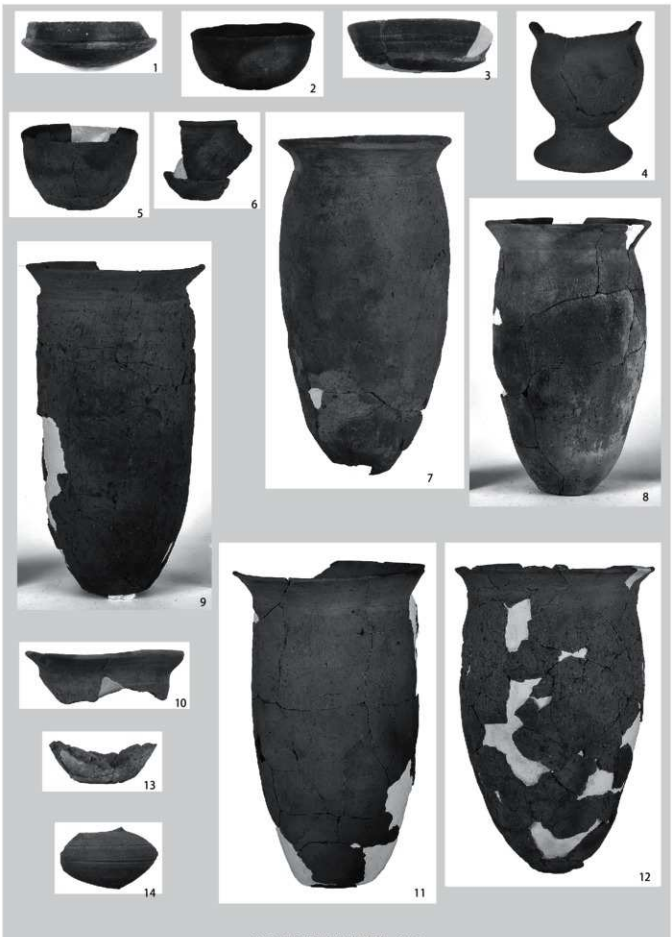
4

5

6

7
(1/2)

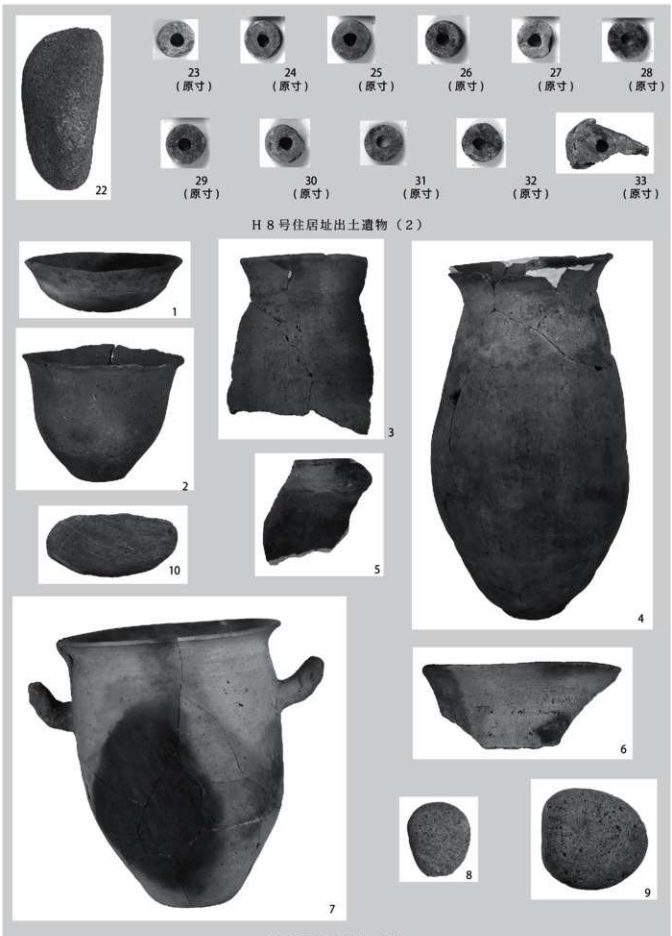
H６号住居址出土遺物



H７号住居址出土遺物（１）

H 7 号住居址出土遺物（2）

H 8 号住居址出土遺物（1）



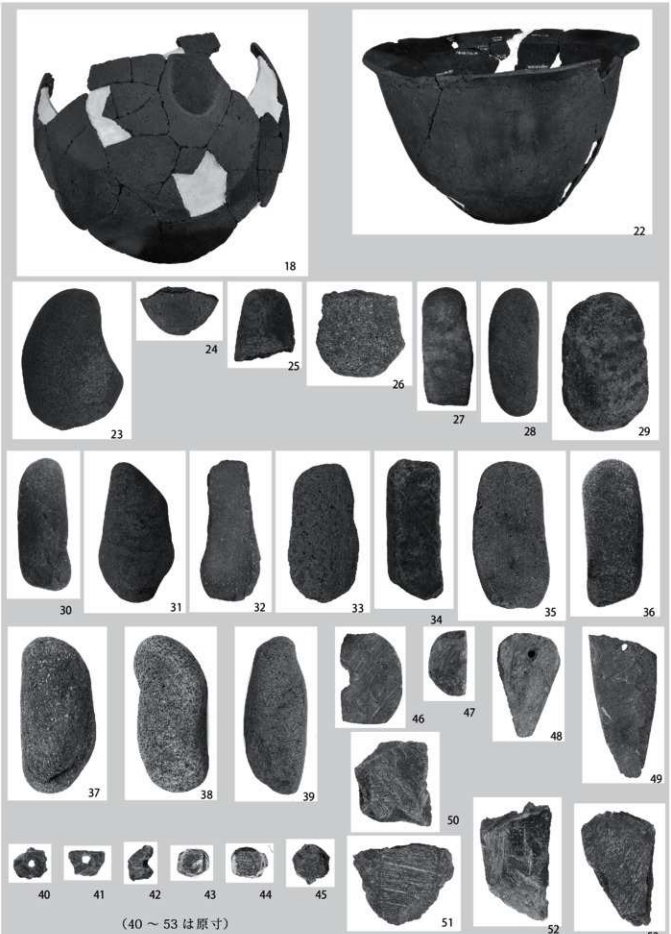
H８号住居址出土遺物（２）

H９号住居址出土遺物

H 10 号住居址出土遺物（1）

H 10 号住居址出土遺物（2）

H 11 号住居址出土遺物（1）



H 11 号住居址出土遺物（2）

1

2

3

4

5

6

7

8

10

11

9

12

13

14 15 16 17 18

19 20 24

21 22 23

（14 ～ 19 は原寸、24 は 1/2）

H 12 号住居址出土遺物

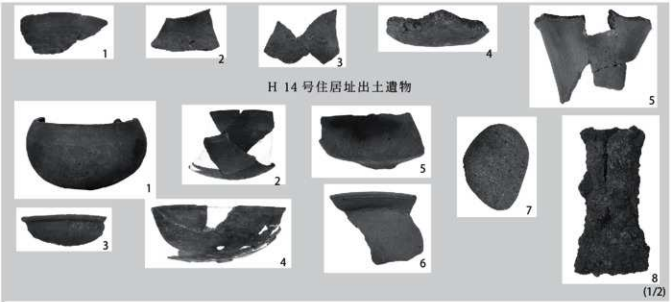
1

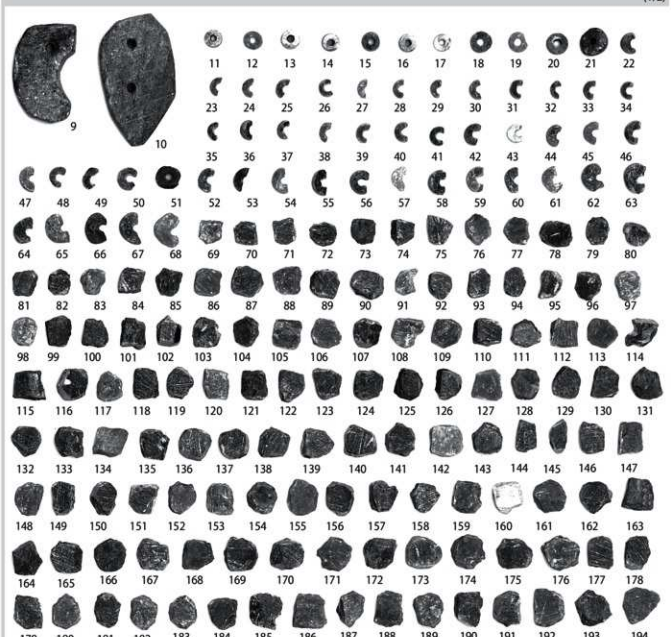
2

3

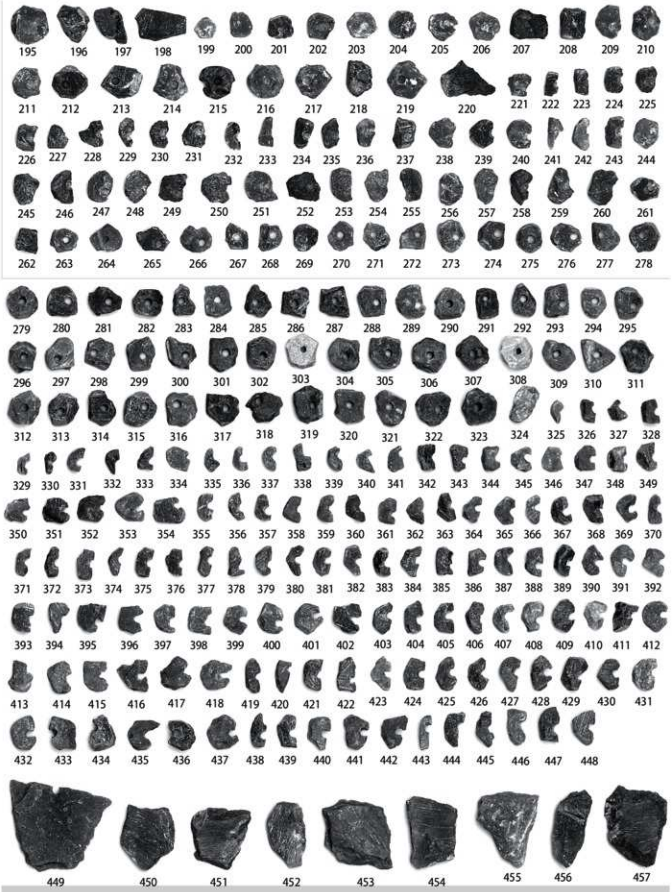
4
(1/2)

H 13 号住居址出土遺物

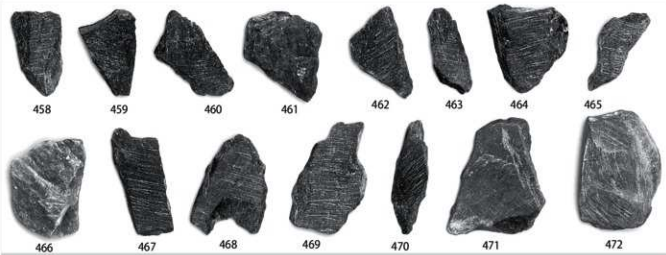




H 15 号住居址出土遺物（1）（1 ～ 8 以外は原寸）

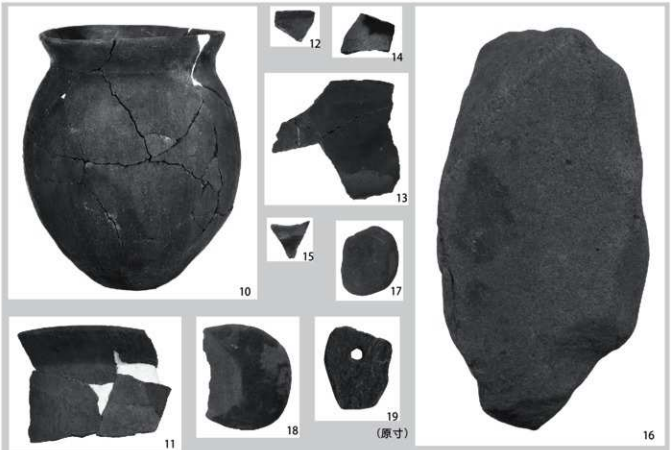


H 15 号住居址出土遺物（2）（原寸）

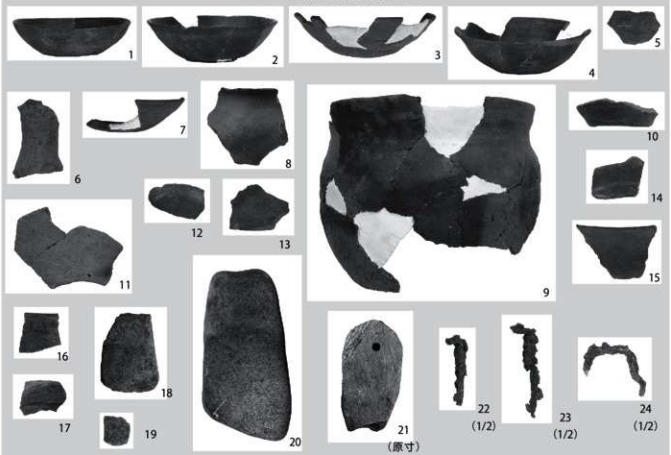


H 15 号住居址出土遺物（3）（原寸）

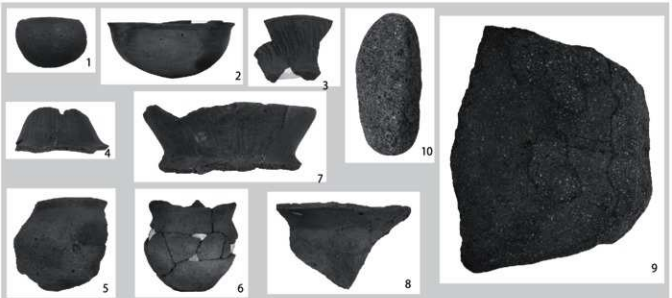
H 16 号住居址出土遺物（1）



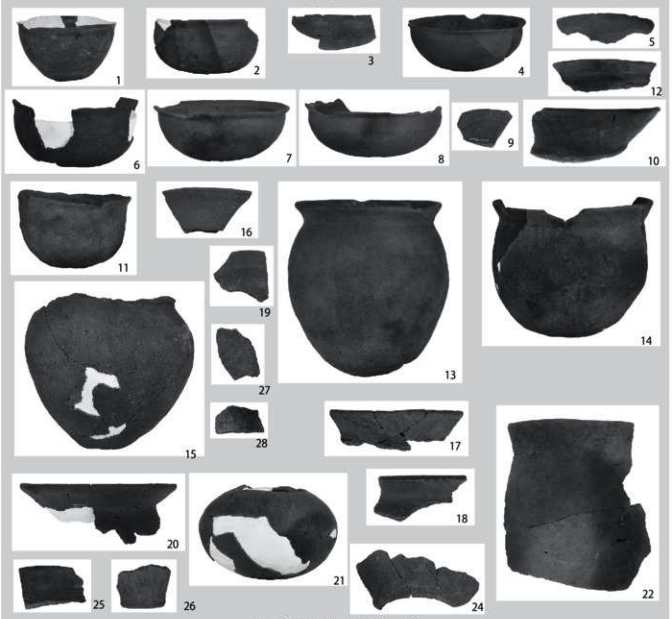
H 16 号住居址出土遺物（2）



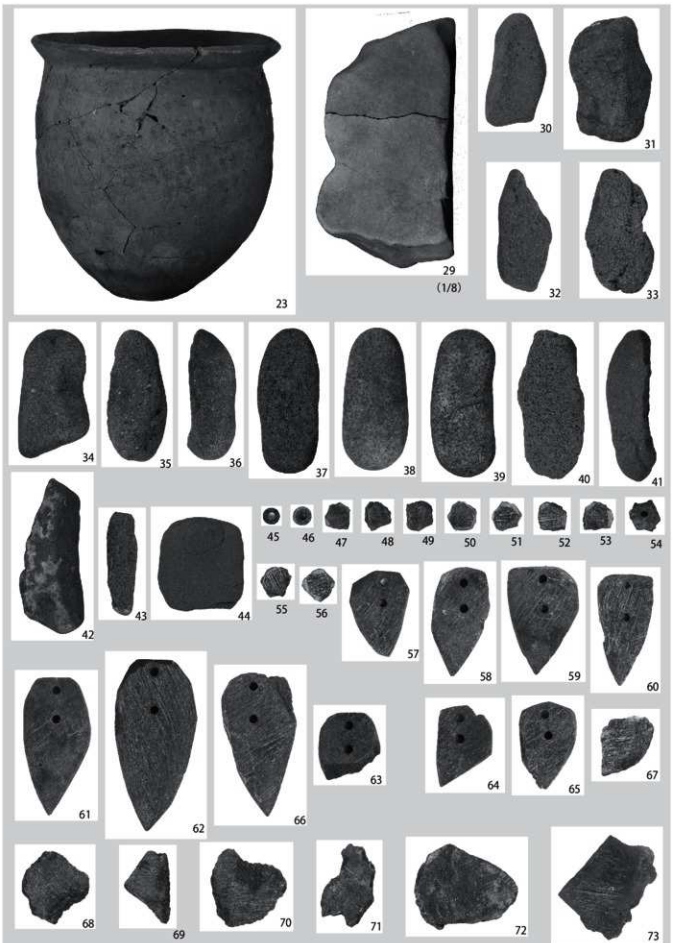
H 17 号住居址出土遺物



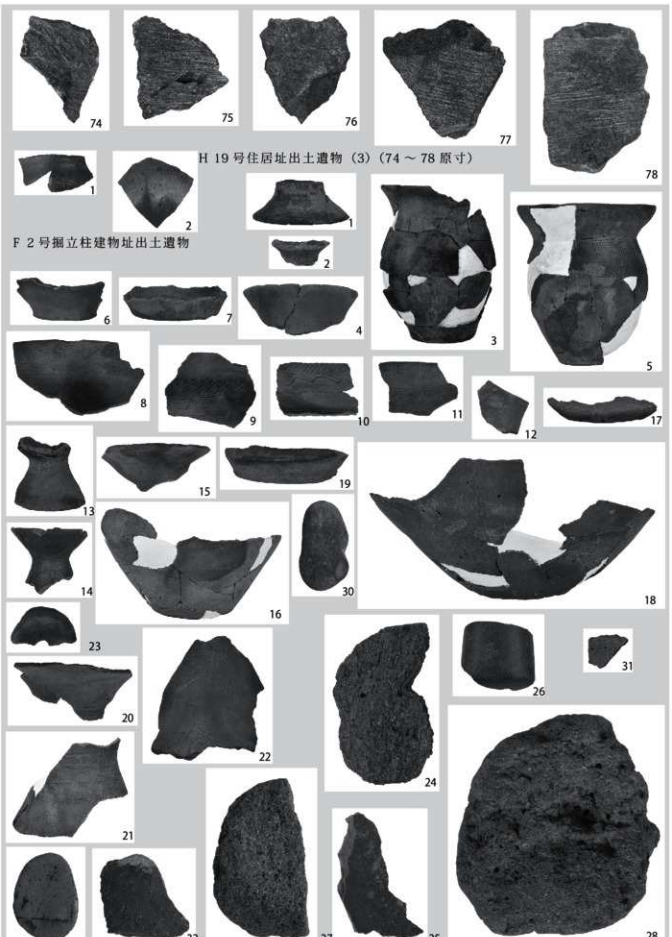
H 18 号住居址出土遺物



H 19 号住居址出土遺物（1）

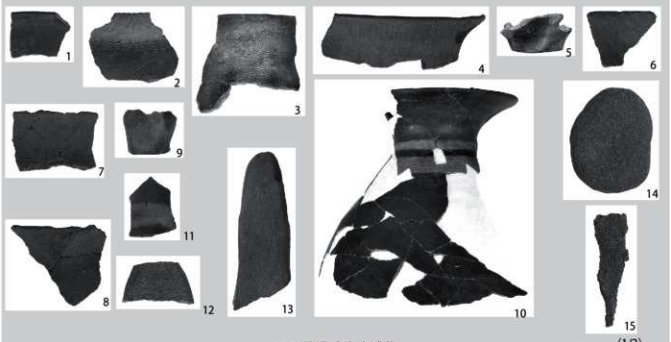


H 19 号住居址出土遺物（2）（45 ～ 73 原寸）

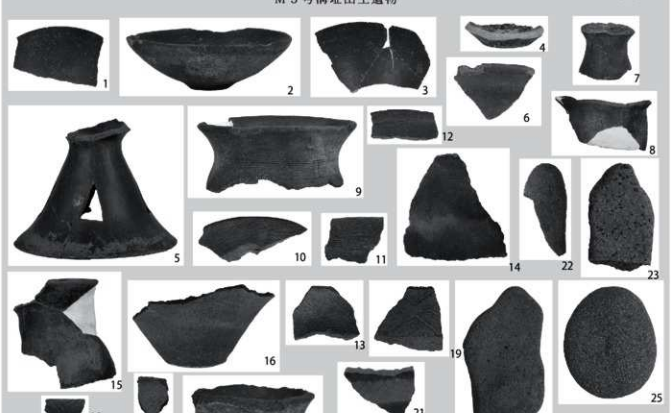

74
75
76
77
78
H 19 号住居址出土遺物（3）（74 ～ 78 原寸）
1
2
F 2 号掘立柱建物址出土遺物
1
2
6
7
4
3
5
8
9
10
11
12
17
13
15
19
14
16
30
18
23
20
22
24
26
31
21
29
32
27
25
28

M 1 号溝址出土遺物

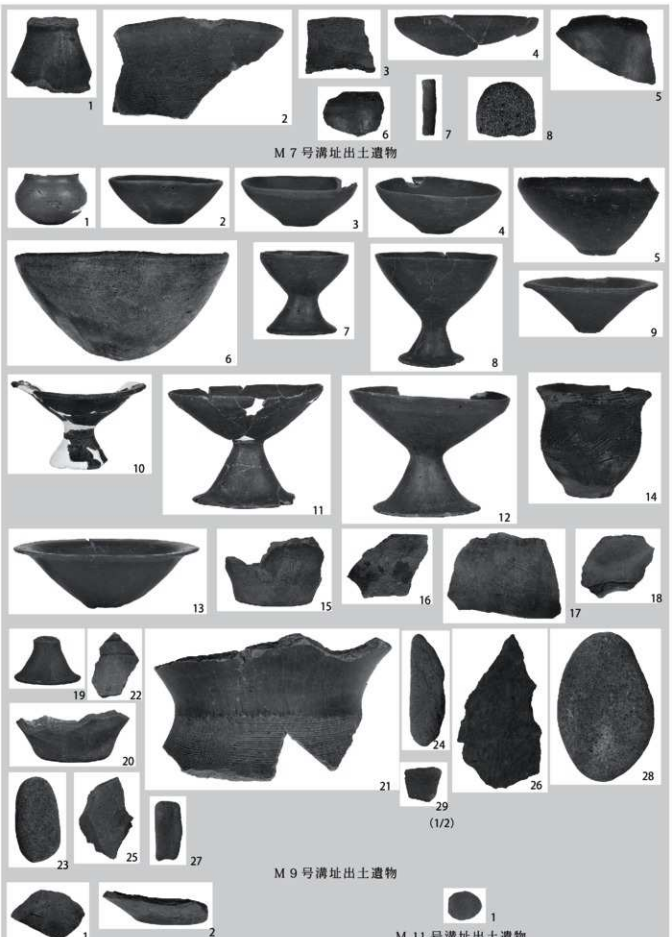
M 3 号溝址出土遺物



M 5 号溝址出土遺物



M 6 号溝址出土遺物


M 7 号溝址出土遺物
M 9 号溝址出土遺物
(1/2)
M 10 号溝址出土遺物
M 11 号溝址出土遺物

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
(1/2)
21
(1/2)
22
(1/2)
ＯＴ１号古墳出土遺物
1
2
3
4
5
6
7
(原寸)
ＯＴ２号周溝墓出土遺物
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
(1/2)
ＯＴ３号周溝墓出土遺物

D 2 − 1

D 10 − 1

D 11 − 1
(1/2)

D 16 − 1

D 16 − 2

D 16 − 3
(1/2)

D 18 − 2

D 18 − 1

D 18 − 3

D 18 − 4

D 18 − 5
(1/2)

土坑出土遺物

P52 − 1

P66 − 1

P66 − 2

P98 − 1

P98 − 2

P98 − 3

P84 − 1

P84 − 2

P98 − 4

ピット出土遺物

弥生 − 1

土師 − 1

土師 − 2

土師 − 3

石器 − 1
(1/2)

鉄器 − 1
(1/2)

鉄器 − 2
(1/2)

鉄器 − 3
(1/2)

鉄器 − 4
(1/2)

鉄器 − 5
(1/2)

古銭 − 1
(1/2)

遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	いわむらだいせきぐん　にしいっぽんやなぎいせき 22
書名	岩村田遺跡群　西一本柳遺跡ＸＸⅡ
副書名	－
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
巻次	第 260 集
編集者名	小林眞寿
編集機関	佐久市教育委員会
所在地	〒 385-0051　長野県佐久市中込 2913　℡ 0267 － 63 － 5321
発行年月日	2019 年 3 月 31 日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
にしいっぽんやなぎいせき 22	ながのけんさくしいわむらだあざなかいっぽんやなぎ 2275-1 ほか	20217	52-13	36°15′56″	138°28′16″	2017 年 7 月 6 日 ～ 2019 年 3 月 31 日	1,525㎡	都市公園整備事業
西一本柳遺跡ＸＸⅡ	長野県佐久市岩村田字中一本柳 2275-1 番地外							

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西一本柳遺跡ＸＸⅡ	集落	弥生～中世	竪住居址 19 軒古墳 1 基・円形周溝墓 4 基 掘立柱建物址 3 棟・溝址 11 条・土坑 23 基・ピット 99 基	弥生土器・土師器・須恵器・石器石製品・磁器・鉄器・炭化物・人骨	－
要約	弥生時代後期の環濠と周溝墓群、古墳時代の石製模造品製作址を含む集落、新発見の終末期古墳の調査				

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第 260 集

岩村田遺跡群

西一本柳遺跡ＸＸⅡ

平成 31 年（2019）3 月
編集・発行　佐久市教育委員会
〒 385-8501　長野県佐久市中込 3056
社会教育部　文化振興課文化財事務所
〒 385-0051　長野県佐久市中込 2913
℡ 0267-63-5321
印刷所　双葉印刷